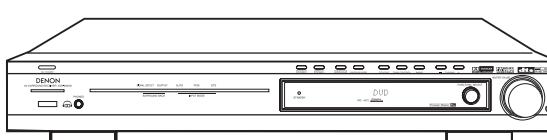
DENON
取扱説明書

AVR-550SD

AV SURROUND RECEIVER

AV サラウンド レシーバー

安全にお使いいただくためにー必ずお守りください。

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は、後日お役に立つこともありますので、必ず保存してください。

目　次

1 安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

絵表示について　この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

 警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

 注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的傷害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠ 警告

■安全上お守りいただきたいこと

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

煙が出ている、変なにおいがする、異常な音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理をご依頼ください。
お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。

電源プラグをコンセントから抜け

内部に異物を入れない

通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

水が入ったり、濡らしたりしないように

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。火災・感電の原因となります。

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

安全上のご注意（つづき）

⚠ 警 告 つづき

■安全上お守りいただきたいこと

キャビネット（裏ぶた）を外したり、改造したりしない
内部には電圧の高い部分がありますので、触ると感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。
この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

ご使用は正しい電源電圧で
表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

ACアウトレットのご使用は表示供給電力内で
接続する装置の消費電力の合計が表示供給電力を超えないようにしてください。火災の原因となります。
また供給電力内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器（電熱器具・ヘアードライヤー・電磁調理器など）は接続しないでください。

雷が鳴り出したら
電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

乾電池は充電しない
電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

落としたり、キャビネットを破損した場合は
まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■取り扱いについて

風呂・シャワー室では使用しない
火災・感電の原因となります。

水場での使用禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器を置かない
こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

この機器の上に小さな金属物を置かない
万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

安全上のご注意（つづき）

⚠ 注 意

■安全上お守りいただきたいこと

電源コードを熱器具に近付けない
コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは
電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となることがあります。

電池を交換する場合は
極性表示に注意し、表示通りに正しく入れてください。間違えますと電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。指定以外の電池は使用しないでください。また新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する
テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

電源を入れる前には音量を最小にする
突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎない
耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

■置き場所について

不安定な場所に置かない
ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

次のような場所には置かない
火災・感電の原因となることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

壁や他の機器から少し離して設置する
壁から少し離して据え付けてください。また放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

⚠注 意 つづき

■取り扱いについて

通風孔をふさがない
内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いて使用する

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない
特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

重いものをのせない
機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

移動させる場合は
まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
この機器の上にテレビなどを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

■使わないときは

長時間の外出・旅行の場合は
安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

■お手入れについて

お手入れの際は
安全のため電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。感電の原因となることがあります。

5年に一度は内部の掃除を
販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。
なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

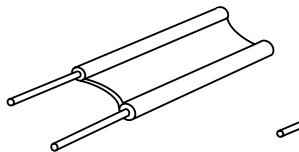
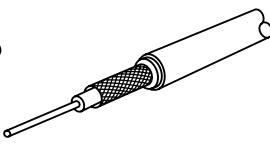
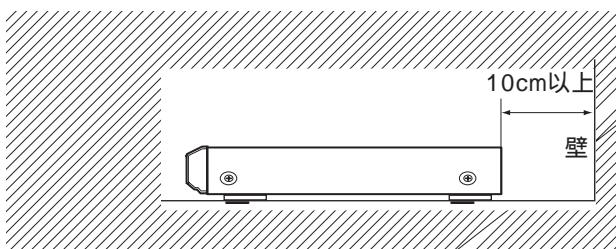
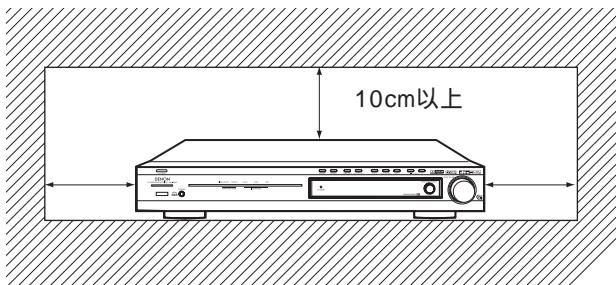
2 取り扱い上のご注意

設置の際のご注意

■ 本機やマイコンを搭載した電子機器をチューナーやテレビと同時に使用する場合、チューナー・テレビの音声や映像に雑音や画面の乱れが生じることがあります。このような場合には次の点に注意してください。

◎ 本機をチューナーやテレビからできるだけ離してください。

◎ チューナーやテレビのアンテナ線を本機の電源コードおよび入出力などの接続コードから離して設置してください。

◎ 特に室内アンテナや300Ωフィーダー線をご使用の場合に起こりやすいので、屋外アンテナおよび75Ω同軸ケーブルのご使用をおすすめします。

■ 放熱のため、本機の天面、後面および両側面と壁や他のAV機器などとは10cm以上離して設置してください。(下図参照)

その他のご注意

■ 入力端子に機器を接続していない状態で入力の切り替えをおこなうと、クリックノイズが発生することがあります。このような場合には、主音量調節つまみを絞るか、入力端子に機器を接続してください。

■ 電源ボタンをスタンバイにしても一部の回路は通電していますので、外出やご旅行の場合は必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ プリアウト端子およびスピーカー端子には、ミューティング回路が組み込まれています。このため、電源投入後数秒間は出力信号が大幅に減衰されます。この動作時に音量を調節しますと、ミューティング終了後非常に大きな出力となりますので、音量調節は必ずミューティング終了後におこなってください。

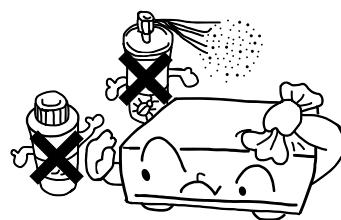
■ 説明のためのイラストは、実際の機器と異なる場合があります。

■ 取扱説明書を保存してください。
この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保存してください。また、裏表紙の記入欄に必要事項を記入しておくと便利です。

お手入れについて

■ キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取るときは、柔らかい布を使用して軽く拭き取ってください。

◎ 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

■ ベンジン、シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質したり変色することがありますので使用しないでください。

使わないときは

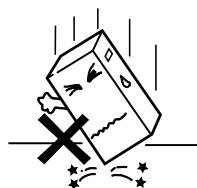
■ ふだん使わないとき

◎ 電源ボタンを押して、スタンバイ状態にしてください。

◎ 外出やご旅行の場合には、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ 移動させるとき

◎ 衝撃を与えないでください。

◎ 必ず電源プラグをコンセントから抜いて、接続コードを外したことを確認してからおこなってください。

3 本機の特長

1．ドルビーバーチャルスピーカー再生に対応

2チャンネル構成でありながら5.1チャンネルサラウンド仮想音場を再現する新技術ドルビーバーチャルスピーカーを採用しました。（ドルビーバーチャルスピーカーはドルビーラボラトリーズの専有技術です。）高性能DSPにより、ドルビーデジタル、DTS，AACのマルチチャンネルサラウンドをドルビーバーチャルスピーカーで再生できます。CDなどの2チャンネルソースに対してもドルビープロロジックⅡデコーダーとの連携でドルビーバーチャルスピーカーによるサラウンド音場が再生できます。

2．ドルビーデジタルEXデコーダー搭載

ドルビーデジタルEXは、ドルビー研究所とルーカスフィルム社が共同で開発し『スター・ウォーズエピソード1/ファントム・メナス』で初めて採用された音響フォーマット「DOLBY DIGITAL SURROUND EX」を、家庭で楽しむためにドルビー研究所が提案した6.1chのサラウンドフォーマットです。

サラウンドバックチャンネルを含めた6.1chでの音場再生により、空間表現力、定位感が向上します。

3．DTS-ES（Extended surround）対応/DTS Neo:6搭載

本機は、デジタル・シアター・システムズ社が新たに開発したマルチチャンネルフォーマットである、DTS-ESに対応しています。さらに、通常のステレオソースから6.1ch再生をおこなうDTS Neo:6にも対応しています。

4．DTS 96/24対応

本機は、デジタル・シアターシステムズ社の開発した新しいマルチチャンネルデジタル信号フォーマットであるDTS 96/24の再生に対応しています。

96kHz/24bitまたは88.2kHz/24bitの高音質で、DTS 96/24ソースをマルチチャンネル再生することが可能です。

5．ドルビープロロジックⅡxデコーダー搭載

ドルビープロロジックⅡx はドルビープロロジックⅡのマトリックスデコード技術を拡張して、2チャンネルで記録された音声を、サラウンドバックチャンネルを含めた最大7.1チャンネルにデコードして再生することができます。また、5.1チャンネルソースについても、最大7.1チャンネルでの再生を楽しむことができます。

音楽再生に適したMUSICモード、映画再生に適したCINEMAモード、ゲームをお楽しみになる場合に最適なGAMEモードなど再生するソースに合わせて選べます。

GAMEモードは2チャンネル音声に対してのみ使用できます。

6．ドルビープロロジックⅡGAMEモード対応

従来のMUSIC/CINEMAモードに加えて、ゲームに最適なGAMEモードに対応しています。

7．MPEG-2 AAC対応

本機は、BSデジタル放送の音声フォーマット『MPEG-2 AAC（ムービング・ピクチャー・エキスパーツ・グループ アドバンスト・オーディオ・コーディング)』の2ch、5.1ch放送の両方に対応したデコーダーを搭載しています。

8．オンスクリーンディスプレイ機能により各種パラメーター設定をイージーオペレーション化

リスニング環境に合わせてディレイタイムなど各種パラメーターを調整するという面倒な作業を大幅に簡略化。モニター画面に表示されるグラフィックをリスニングルームのシステム環境にあわせて選択するという簡単な操作で、各種パラメーターの設定が可能です。

9．オートサラウンドモード

入力信号に対して最後に再生したサラウンドモードを記憶し、次に同じ信号が入力された場合に記憶したサラウンドモードで自動的に再生する機能です。

10．コンポーネントビデオ端子（D端子）を装備し、より高画質な映像に対応

高画質化する映像信号に対応するため、コンポーネント端子（入力2系統、出力1系統）を装備しています。

11．ビデオコンバージョン機能を搭載

映像入力端子またはS映像入力端子に接続した信号を相互に変換する機能を搭載しています。この機能により、映像用ピンプラグコードまたはS端子用接続コード1本で本機のモニターアウト端子とモニター（テレビ）間を接続することができます。

12．高性能DSPによる6通りのDENONオリジナルサラウンドモード

ロックアリーナ、ジャズクラブ、モノムービー、ビデオゲーム、マトリクス、5チャンネル/6チャンネルステレオの7通りのサラウンドモードの再生が可能。ドルビー/DTSサラウンド以外のステレオソースでも映画のシーンやプログラムソースに合わせて多彩なサラウンド効果をお楽しみいただけます。

13．プリメモリー機能付きリモコン

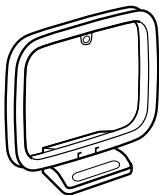
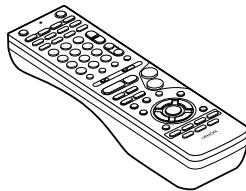
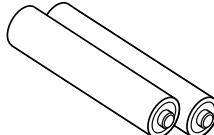
DENONのリモコン対応コンポーネント製品をはじめ、国内主要メーカーのDVDプレーヤー、LDプレーヤー、ビデオデッキ、テレビのリモコン操作コードをあらかじめ記憶しているプリメモリー機能付きリモコンを採用しています。

14．将来的なグレードアップに対応する外部入力端子を装備

新フォーマットのマルチチャンネルソース（デコーダーアウトなど）を接続可能な外部入力端子を1系統（6CH入力）装備しています。

4 付属品について

★ 本体とは別に下記の付属品がついています。ご使用の前にご確認ください。

AM用ループアンテナ　1個	FM用アンテナ　1個	リモコン (RC-965)　1個	単3電池　2本

取扱説明書（本書）　1冊	製品のご相談と 修理・サービス窓口一覧表　1枚	保証書 （梱包箱に貼り付けられています）

ご注意

本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので、実物とは異なる場合があります。

ステレオ音のエチケット

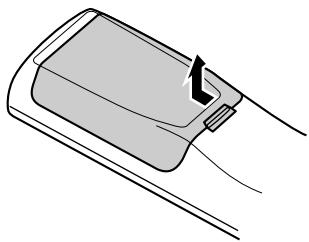
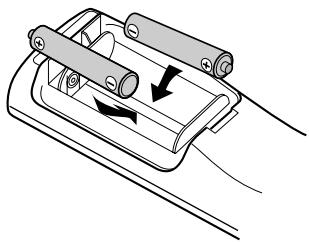
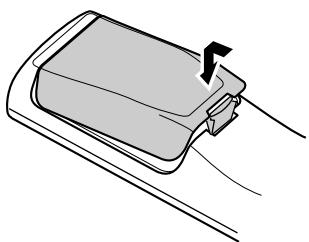
◎楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。
◎隣り近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
◎ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で小さくも大きくもなります。
◎特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。
◎窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
◎お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

付属品について（つづき）

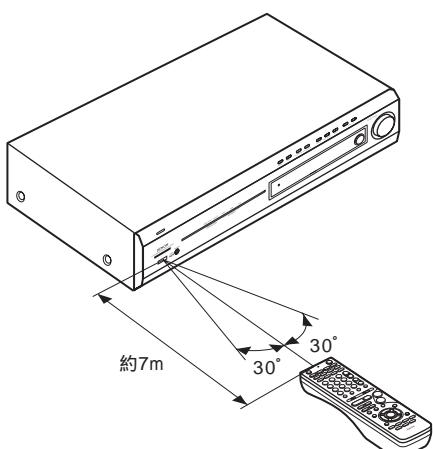
■ リモコンのご使用について

★ 付属のリモコン（RC-965）は本機の操作だけでなく、DENON製リモコン対応のAV機器を操作することができます。また、他のリモコンのコントロール信号を記憶していますので、DENON製品以外のリモコン対応機器を操作することができます。（詳細は64～73ページをご覧ください。）

（1）乾電池の入れかた

① 矢印のように押して引き上げます。

② 単3形乾電池（2本）をそれぞれ乾電池収納部の表示通りに入れてください。

③ 裏ぶたを元通りにしてください。

乾電池についてのご注意

- リモコンには単3形乾電池をご使用ください。
- リモコンの使用回数にもよりますが、乾電池は約1年毎に新しいものと交換してください。
- 1年経っていなくても、リモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は、動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。）
- 乾電池を入れるときは、リモコンの乾電池収納部の表示通りに、⊕側・⊖側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱、または火に投入したりしないでください。
- リモコンを長時間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- 乾電池を交換するときはあらかじめ交換用の乾電池を用意し、できるだけ速やかに交換してください。

（2）リモコンの使いかた

- リモコンは、図のようにリモコン受光部に向けてご使用ください。
- 直線距離では約7m離れたところまで使用できますが、障害物があったり、リモコン受光部に向いていないと受信距離は短くなります。
- リモコン受光部を基準にして左右30 °までの範囲で操作できます。

ご注意

- リモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっているとリモコンが動作しにくくなります。
- 本機とリモコンの操作ボタンを同時に押さないでください。誤動作の原因となります。

5 簡単にホームシアターを楽しむ

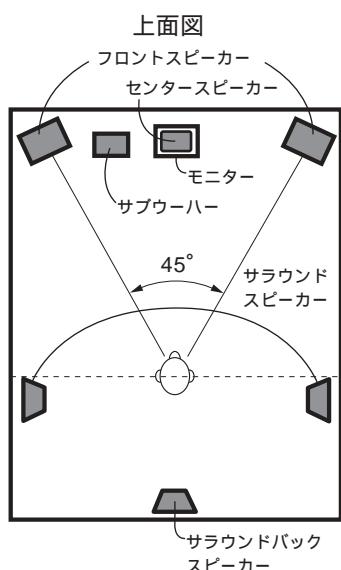
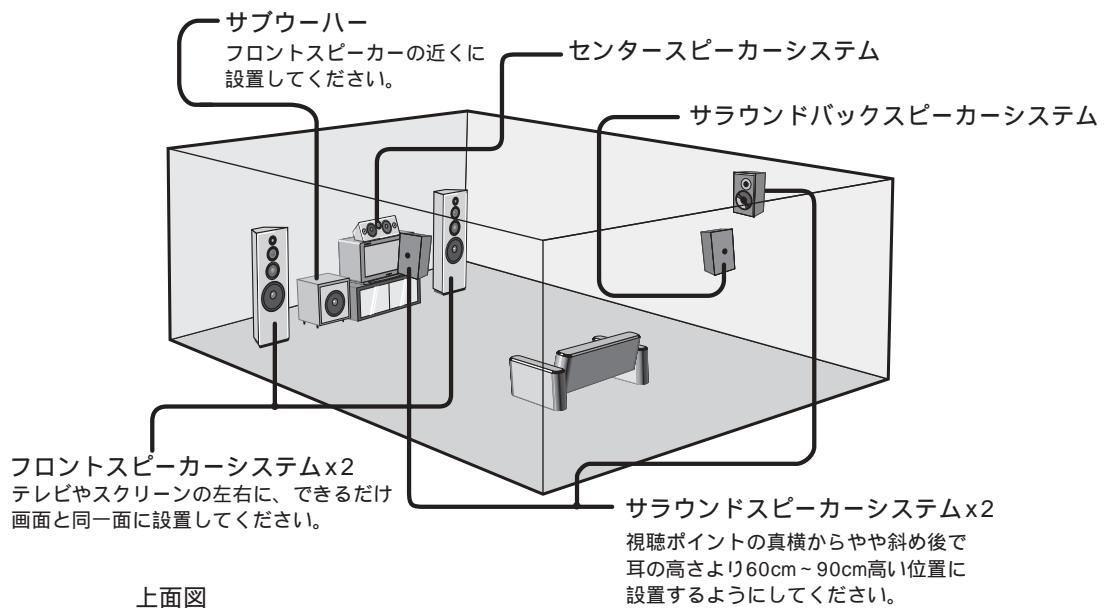
本ページから17ページまでは、ホームシアターを簡単にお楽しみいただくための簡易ガイドです。

すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
なお、接続の際は各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

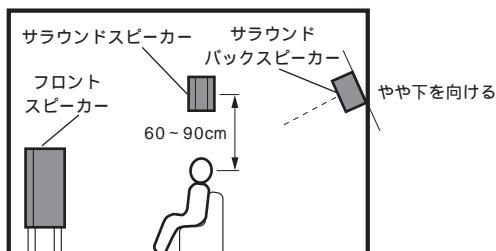
(1) 基本的なシステムレイアウト

- スピーカーシステム（7台）とテレビを組み合わせた、基本的なシステムレイアウトの例です。
- サラウンドスピーカーを2台使用する場合のレイアウトやサラウンドバックを使用しない場合のレイアウトは、スピーカーセッティング例（76ページ）を参照ください。

上面図

フロントスピーカー
センタースピーカー
モニター
サブウーハー
45°
サラウンド
スピーカー
サラウンドバック
スピーカー

- フロント、センタースピーカーはできるだけテレビやスクリーンと同一面で、センタースピーカーは左右のフロントスピーカーの間で、視聴ポイントからフロントスピーカーまでの距離より遠くならない所に置いてください。
- サブウーハーの置き場所の制限は特にありませんが、スクリーンと同一面にあったほうが理想的です。
- センタースピーカーをテレビの上に置いたり、サラウンドスピーカーを壁に吊るす場合、地震で落下したりしないよう、しっかりと固定してください。

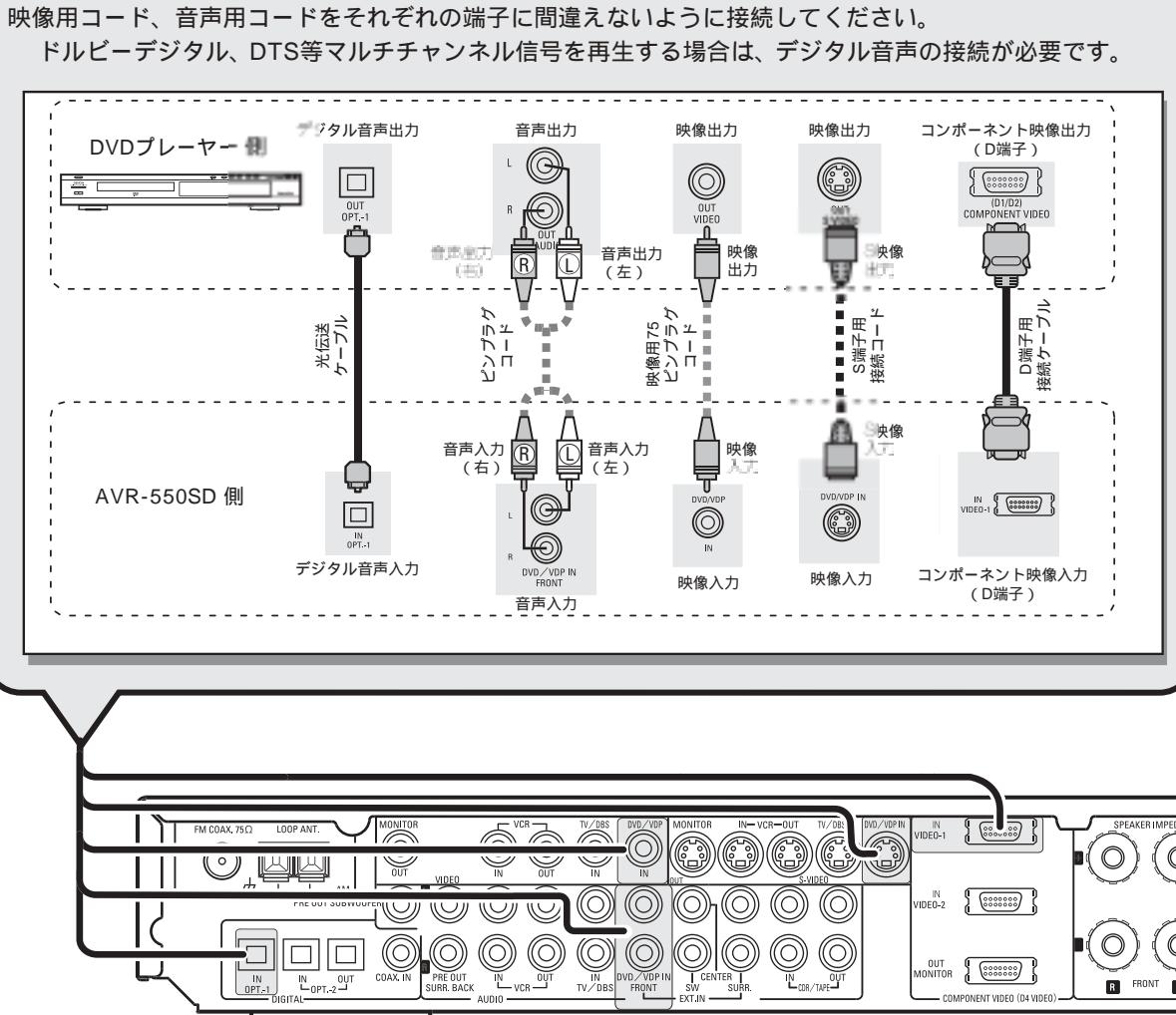
※ 詳しくは、**システムセットアップのしかた**（28〜38ページ）をご参照ください。

側面から見た図

簡単にホームシアターを楽しむ（つづき）

(2) DVDプレーヤーのつなぎかた

映像用コード、音声用コードをそれぞれの端子に間違えないように接続してください。
※ ドルビーデジタル、DTS等マルチチャンネル信号を再生する場合は、デジタル音声の接続が必要です。

デジタル入力の設定

17 COAX VCR

★ デジタル信号は、ここにご紹介した以外の方法で本機に接続し、再生をお楽しみいただくことができます。（詳しくは35ページをご覧ください。）

リモコンでデジタル入力端子を、AV機器を接続したい入力ソースに対して割り当てます。

① System Setup Menu画面でDigital In Assignmentを選択します。
② デジタル入力端子に割り当てたい入力ソースを選択します。

Digital In Assignment

> 17 COAXIAL : <VCR>
18 OPTICAL1 : DVD/VDP
19 OPTICAL2 : TV/DBS

コンポーネント映像入力の設定

20 VIN1 DVD

★ コンポーネント映像信号は、ここにご紹介した以外の方法で本機に接続し、再生をお楽しみいただくことができます。（例えば、VCRをコンポーネント（D端子）映像ケーブルで接続することもできます。詳しくは35ページをご覧ください。）

リモコンでコンポーネント映像入力端子を、AV機器を接続したい入力ソースに対して割り当てます。

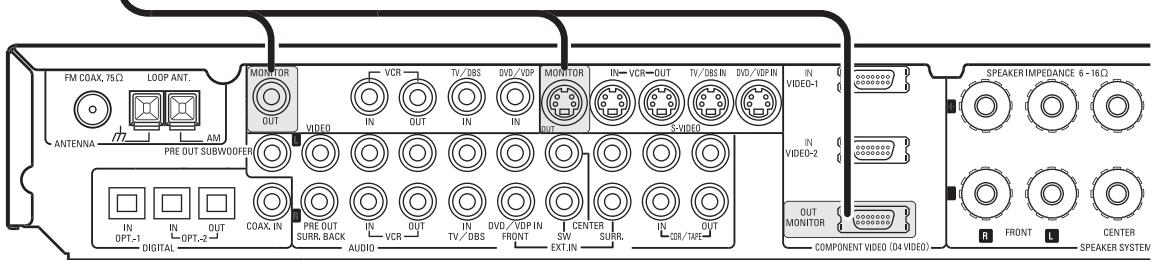
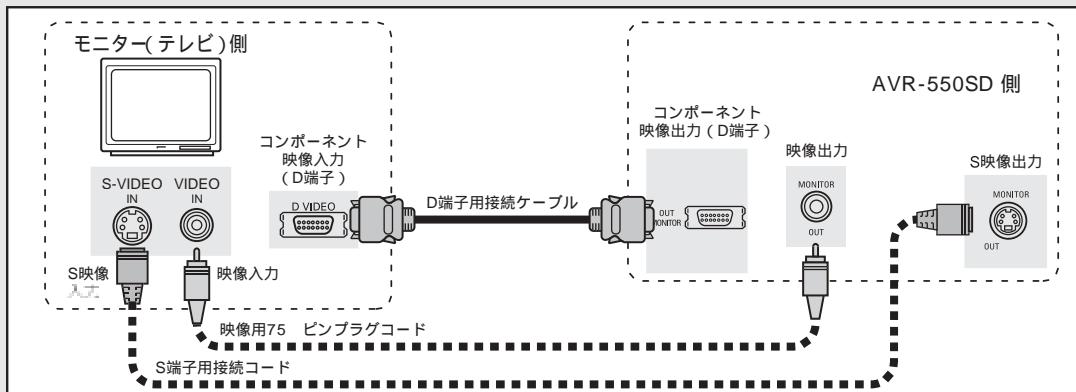
① System Setup Menu画面でVideo In Assignmentを選択します。
② コンポーネント映像入力端子に割り当てたい入力ソースを選択します。

Video In Assignment

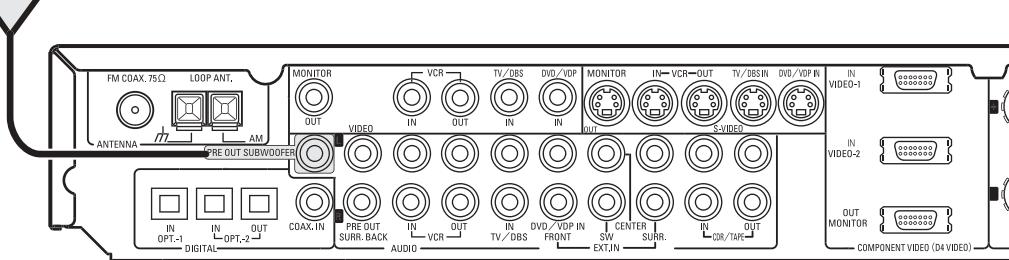
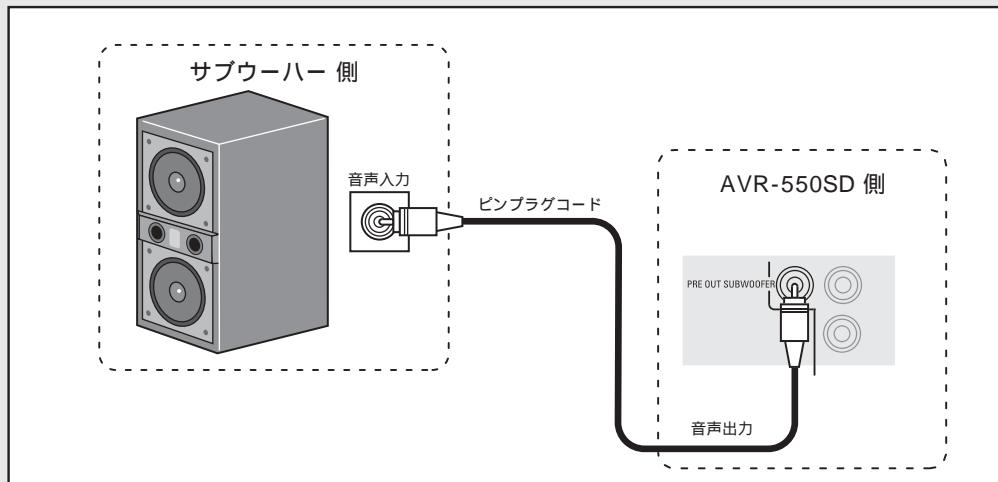
>20 VIDEO1 : <DVD/VDP>
21 VIDEO2 : TV/DBS

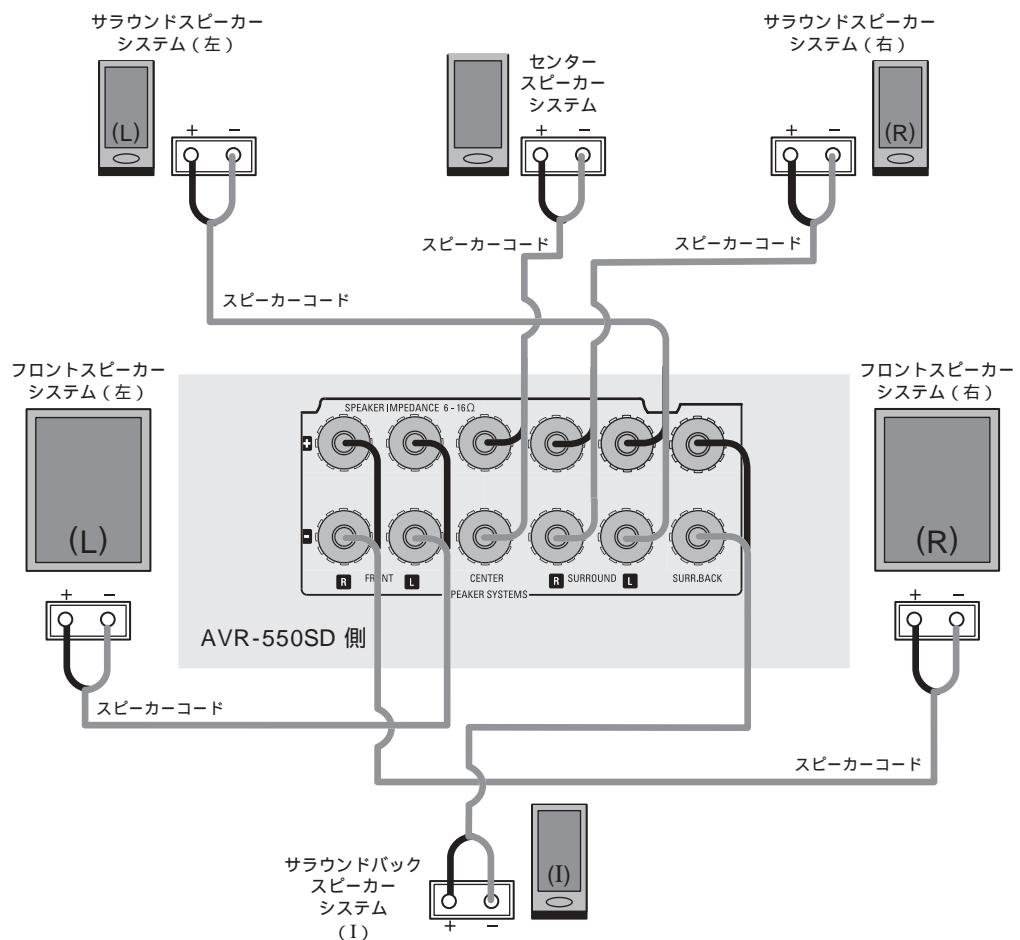
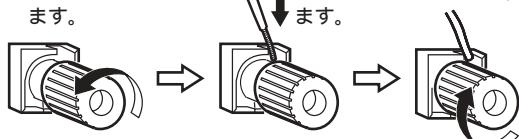
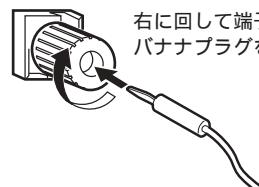
(3) モニター（テレビ）のつなぎかた

★ 本機のS映像端子は、S1、S2規格には対応していません。
★ 本機は、映像信号またはS映像信号を相互に変換する機能を装備しています。この機能により映像用ピンプラグコードまたはS端子用映像コード1本をモニター（TV）に接続するだけで視聴できます。
★ モニターアウト端子以外の映像出力端子については、コンバート機能がないため、録画する場合には個々に接続が必要となります。

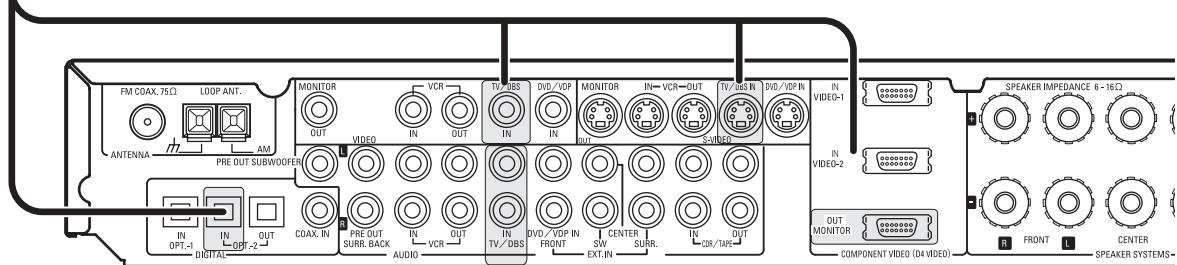
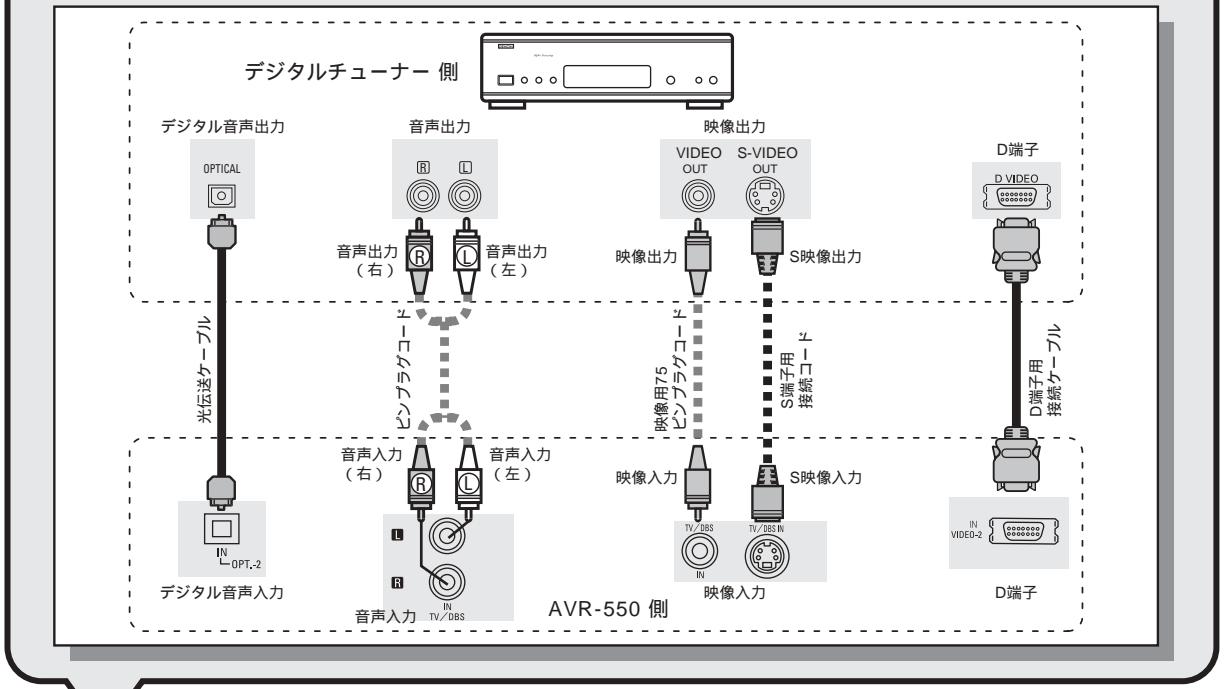
映像ケーブルを使って、モニター（テレビ）を接続します。
※ 本機のオンスクリーンディスプレイを表示させる場合は、VIDEO/S-VIDEOモニターアウト端子と接続してください。
※ コンポーネント映像には、本機のオンスクリーンディスプレイは表示されません。

★ コンポーネント映像端子に入力された信号は、VIDEO映像出力端子（黄）ならびにS端子からは出力されません。また、VIDEO映像入力端子（黄）またはS端子に入力された映像信号もコンポーネント映像端子には出力されません。
★ テレビやモニターによってコンポーネント映像入力端子の表示が異なります（Pr、Pb、Y/Cr、Cb、Y/R-Y、B-Y、Yなど）。詳しくはテレビなどに付属の取扱説明書をよくお読みください。
★ テレビやモニターのコンポーネント映像入力端子（ピンジャック）を使用する場合は、D端子-コンポーネント端子（ピンジャック）接続変換ケーブル（別売り）で本機と接続してください。

(4) サブウーハーのつなぎかた

ピンプラグコードを使って、アンプ内蔵サブウーハー（スーパーウーハー）をサブウーハー端子に接続してください。
※ サブウーハーを2本使うときは市販のモノ-ステレオアダプターをお求めください。

(5) スピーカーのつなぎかた

スピーカーコードを使って、スピーカー端子にスピーカーシステムをつなぎます。
※ 本機のスピーカー端子とスピーカーシステムは、必ず同じ極性（＋と＋、－と－）を接続してください。
※ 接続の際、スピーカーコードの芯線が端子からはみだして他の端子に接触しないように、また、スピーカーコードの芯線どうし、および芯線がリアパネルに接触しないように注意してください。

簡単にホームシアターを楽しむ（つづき）

（6）デジタルチューナー（DBS）のつなぎかた

映像用コード、音声用コードをそれぞれの端子に間違えないように接続してください。
接続するコードは、それぞれ種類が異なります。間違いのないように注意してください。

接続はこれでおしまいです。
つなぎ間違いはありませんか？
もう一度だけ確認してみましょう。

ご注意

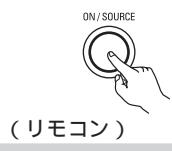
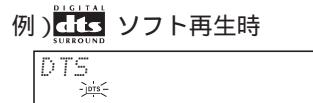
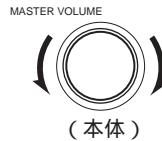
DVDレコーダーなどの二重音声出力について

- 二重音声の情報を持ったAACソースおよびドルビーデジタルソースについては、二重音声設定にしたがって出力されます。（詳しくは37ページを参照してください。）
- PCMソース、アナログソースおよび二重音声の情報を持たないAACとドルビーデジタルソースの入力に対して、本機は主音声と副音声のどちらかを選択して音声出力する機能がありませんので、その場合はアナログ音声出力を使用し、出力機器側のアナログ音声出力設定で主音声と副音声を切り替えてください。出力機器側の主音声と副音声の切り替えについては出力機器側（DVDレコーダーなどの）取扱説明書をご覧ください。

最適なサラウンド再生を楽しむために

デフォルト（初期値）の設定でサラウンド再生を楽しむことができますが、最適なサラウンド再生をおこなうためには、各種パラメーターを設定することをおすすめします。
システムセットアップのしかた（1）～（12）（28～38ページ）を参照して設定をおこなってください。

（7）DVDプレーヤーの再生

● 詳しくは40～41ページをご覧ください。

簡単にホームシアターを楽しむ（つづき）

（8）音、映像は出力されましたか？

● 音、映像が出力されない場合は次の項目を確認してください。

現　　象	原　　因	処　　置
ディスプレイが "DTS" の表示にならない。	● DVDプレーヤーが、DTS対応のプレーヤーではない。 ● DVDプレーヤーのデジタル音声出力の設定が正しくない。	● DTS対応のプレーヤーを使用してください。 ● DVDプレーヤーの音声出力の設定を確認してください。詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をお読みください。
ディスプレイが "DDOLBY D" の表示にならない。	● DVDプレーヤーのデジタル音声出力の設定が正しくない。	● DVDプレーヤーの音声出力の設定を確認してください。詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をお読みください。
映像が出ない。	● プレーヤーとの接続がコンポーネント端子でモニター（TV）との接続がコンポジット端子（黄）またはS端子になっている。	● プレーヤーとの接続をコンポジット端子（黄）またはS端子にするか、モニター（TV）との接続をコンポーネント端子にしてください。

6 接続のしかた

ご注意

● すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
● 左右のチャンネルを確かめてから、正しくLとL、RとRを接続してください。
● 電源プラグはしっかり差し込んでください。
不完全な接続は、雑音発生の原因となります。
● 接続コードと電源コードを一緒に束ねたり、電源トランスなど他の電気製品の近くに接続コードを設置すると、ハムや雑音の原因となることがあります。
● 本機の背面の通風口をふさがないように、各接続コードを配線してください。温度保護回路が作動することがあります。

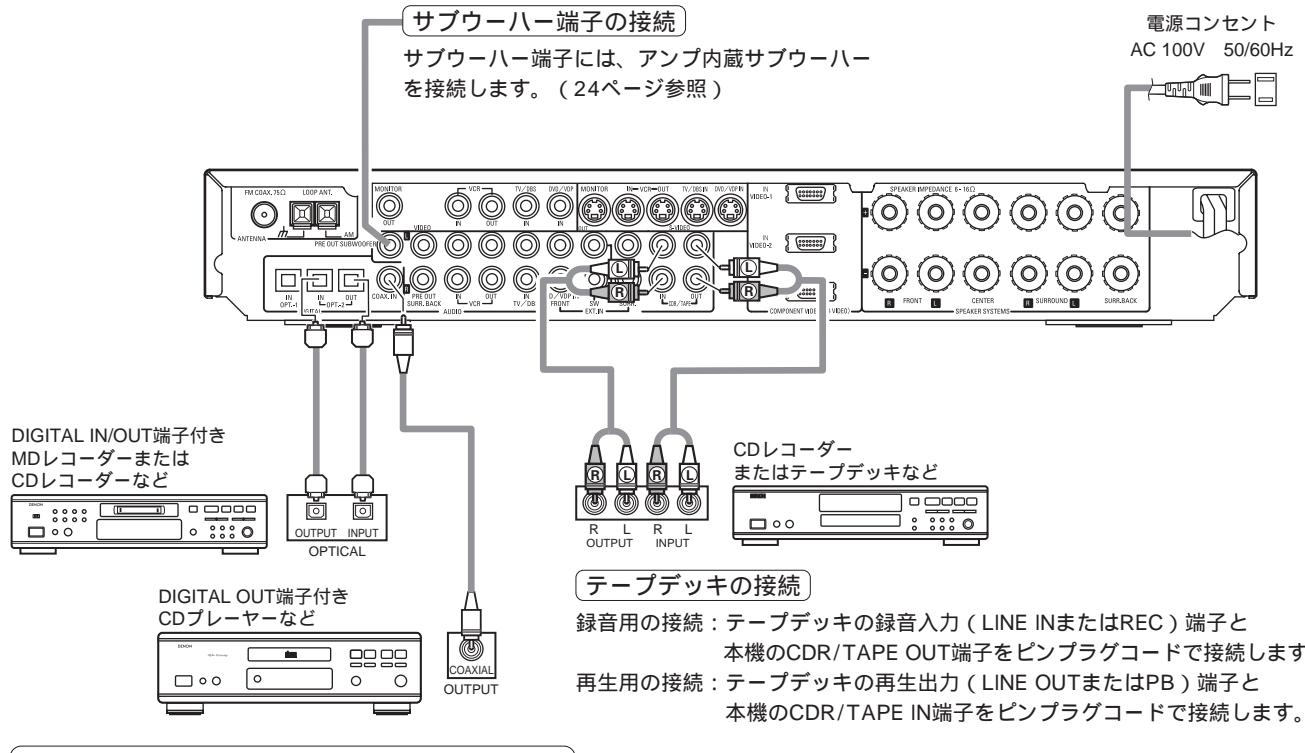
接続のしかた（つづき）

（1）オーディオ機器の接続

★ 接続の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

テープデッキの接続

録音用の接続： テープデッキの録音入力（LINE INまたはREC）端子と本機のCDR/TAPE OUT端子をピンプラグコードで接続します。

再生用の接続： テープデッキの再生出力（LINE OUTまたはPB）端子と本機のCDR/TAPE IN端子をピンプラグコードで接続します。

デジタル入力端子への接続について

- DIGITAL OUTPUT端子の付いている機器を接続します。接続後はデジタル入力の設定をおこなってください。（35ページ参照）
- 同軸（COAXIAL）タイプの接続は、75Ω同軸ケーブル（別売り）を使用してください。
- 光伝送（OPTICAL）の接続は光伝送ケーブル（別売り）を使用してください。

接続のしかた（つづき）

（2）ビデオ機器の接続

★ 映像信号を接続するときは、必ず映像用75Ωピンプラグコード（別売り）を使用してください。
★ 接続の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
★ ビデオ映像端子に接続された信号は、コンポーネント（D端子）映像のモニターアウト端子には出力されません。
★ VCR OUT端子についてはコンバート機能がないため、録画する場合にはビデオ映像端子のみで接続してください。

TVまたはDBSチューナーの接続

TV/DBS端子

- TVまたはDBSチューナーの映像出力（VIDEO OUTPUT）端子と本機のVIDEO TV/DBS IN端子（黄）を映像用75Ωピンプラグコードで接続します。
- TVまたはDBSチューナーの音声出力（AUDIO OUTPUT）端子と本機のAUDIO TV/DBS IN端子をピンプラグコードで接続します。

DVDプレーヤーまたはビデオディスクプレーヤーの接続

DVD/VDP端子

- DVDプレーヤーの映像出力（VIDEO OUTPUT）端子と本機のVIDEO DVD/VDP IN端子（黄）を映像用75Ωピンプラグコードで接続します。
- DVDプレーヤーのアナログ音声出力（ANALOG AUDIO OUTPUT）端子と本機のAUDIO DVD/VDP IN端子をピンプラグコードで接続します。
- 同様の方法でビデオディスクプレーヤーをDVD/VDP端子へ接続することができます。

ご注意

- **ドルビーデジタルRF出力端子付きLDプレーヤーの接続について**
  デジタル入力端子にLDプレーヤーのドルビーデジタルRF出力端子を接続する場合は、市販のアダプターを使用してください。接続の際には、アダプターの取扱説明書もあわせてご覧ください。

モニターTVの接続

MONITOR OUT端子

- TVの映像入力（VIDEO INPUT）端子と本機のVIDEO MONITOR OUT端子を映像用75Ωピンプラグコードで接続します。

デジタル入力端子への接続について

※ デジタル入力端子に入力されるのは音声信号のみです。
詳細は18ページを参照してください。

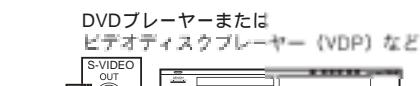
ビデオデッキの接続

VCR端子

映像入出力の接続： ビデオデッキの映像出力（VIDEO OUT）端子と本機のVIDEO VCR IN端子（黄）およびビデオデッキの映像入力（VIDEO IN）端子と本機のVIDEO VCR OUT端子（黄）を映像用75Ωピンプラグコードで接続します。

音声入出力の接続： ビデオデッキの音声出力（AUDIO OUT）端子と本機のAUDIO VCRIN端子、およびビデオデッキの音声入力（AUDIO IN）端子と本機のAUDIO VCR OUT端子をピンプラグコードで接続します。

（3）S映像端子付きビデオ機器の接続

★ 接続の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
★ S映像端子に接続された信号は、コンポーネント（D端子）映像のモニターアウト端子には出力されません。
★ 本機のS映像端子は、S1、S2規格には対応していません。
★ REC OUT端子についてはコンバート機能がないため、録画する場合にはビデオ映像端子のみで接続してください。

DVDプレーヤーまたはビデオディスクプレーヤーの接続

DVD/VDP端子

- DVDプレーヤーのS端子出力（S-OUT)端子と本機のS-VIDEO DVD/VDP IN端子をS端子用接続コードで接続します。
- 同様の方法でビデオディスクプレーヤーをDVD/VDP端子へ接続することができます。

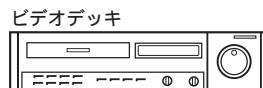
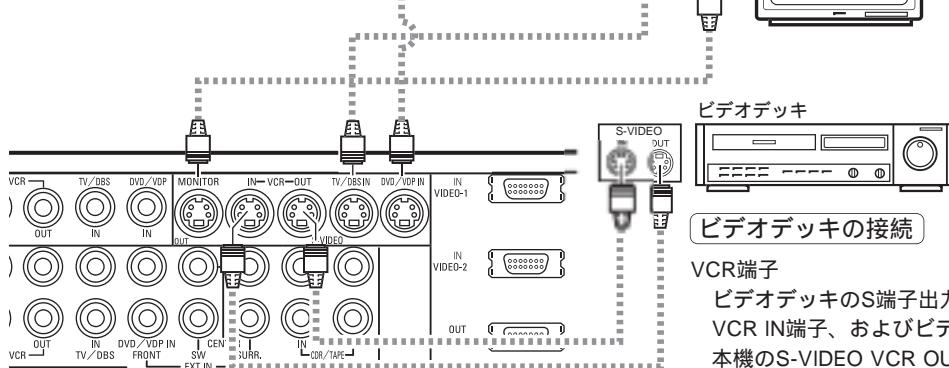
TVまたはDBSチューナーの接続

TV/DBS端子

- TVまたはDBSチューナーのS端子出力（S-OUT)端子と本機のS-VIDEO TV/DBS IN端子をS端子用接続コードで接続します。

モニターTVの接続

MONITOR OUT端子

- モニターTVのS端子映像入力（S-VIDEO INPUT）端子と本機のS-VIDEO MONITOR OUT端子をS端子用接続コードで接続します。

ビデオデッキの接続

VCR端子

- ビデオデッキのS端子出力（S-OUT）端子と本機のS-VIDEO VCR IN端子、およびビデオデッキのS端子入力（S-IN）端子と本機のS-VIDEO VCR OUT端子をS端子用接続コードで接続します。

それぞれの機器の音声入(出) 力については18ページと同様に接続をおこなってください。

接続のしかた（つづき）

（4）コンポーネント（D端子）映像端子付きビデオ機器の接続

★ 接続の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
★ 本機とD端子付きDVDプレーヤー、BSチューナー、モニターTVなどを接続する場合は、D端子から入力された解像度等の識別信号を伝送するD端子用ケーブルのご使用を推奨します。
★ コンポーネント（D端子）映像入力はシステムセットアップでファンクションの割り当てを変更することができます。詳細は35ページのコンポーネント（D端子）映像入力の設定を参照してください。

DVDプレーヤーの接続

VIDEO-1 IN端子

- DVDプレーヤーのD映像出力（D VIDEO OUTPUT）端子と本機のVIDEO-1 D4 VIDEO IN端子をD端子用接続ケーブルで接続します。

BSチューナーの接続

VIDEO-2 IN端子

- BSチューナーのD映像出力（D VIDEO OUTPUT）端子と本機のVIDEO-2 D4 VIDEO IN端子をD端子用接続ケーブルで接続します。

モニターTVの接続

MONITOR OUT端子

- TVのD映像入力（D VIDEO INPUT）端子と本機のD4 VIDEO MONITOR OUT端子をD端子用接続ケーブルで接続します。

ご注意

- コンポーネント（D端子）映像端子に入力された信号は、VIDEO映像出力端子（黄）およびS端子からは出力されません。また、VIDEO映像入力端子（黄）またはS端子に入力された映像信号もコンポーネント（D端子）映像端子には出力されません。
- 本機のD端子は、D_1〜D_4（525i、525p、1125i、750p）の映像信号に対応しています。

■ ビデオコンバージョン信号

本機への信号入力	MONITOR OUT端子		
	映像信号 MONITOR OUT端子（黄）	S映像信号 MONITOR OUT端子	コンポーネント映像信号 MONITOR OUT端子
映像信号入力端子	○	○ （アップコンバージョン）	×
S映像信号入力端子	○ （ダウンコンバージョン）	○	×
コンポーネント映像信号入力端子	×	×	○

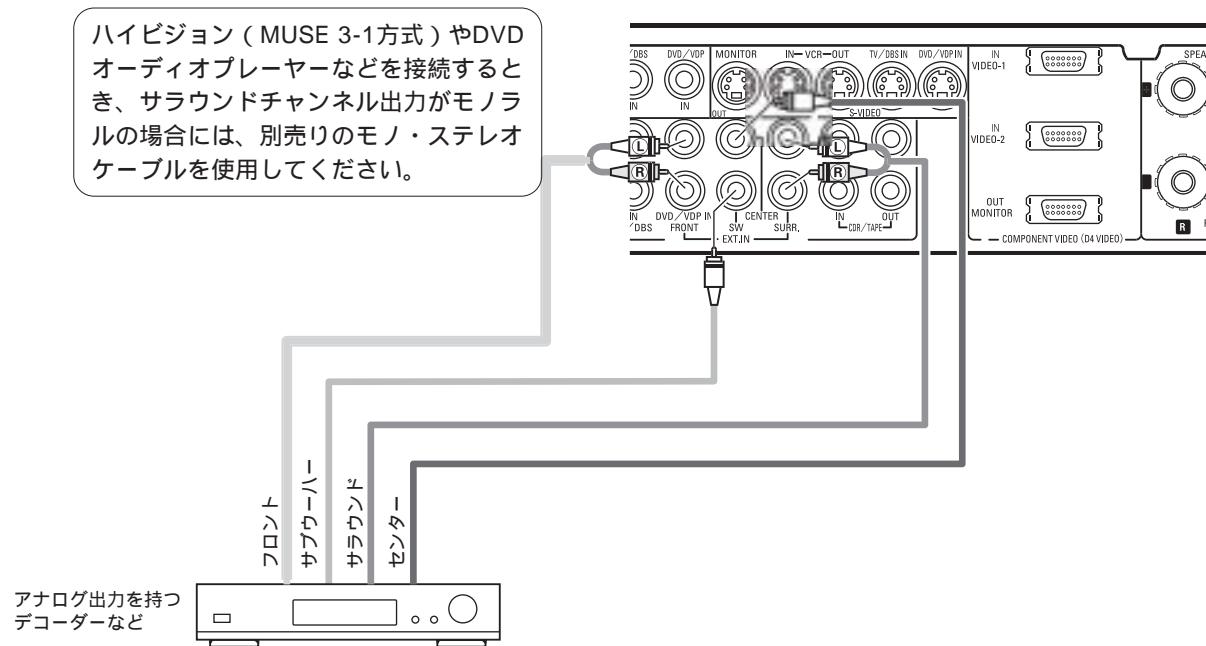
（○：ビデオ信号出力　　×：ビデオ信号出力無し）

※ 映像信号からS映像信号にアップコンバージョンしても画質は向上しません。

接続のしかた（つづき）

（5）外部入力（EXT. IN）端子の接続

★ この入力端子は、ハイビジョンのMUSE 3-1方式、DVDオーディオプレーヤーなどのマルチ・チャンネル音声を入力するための端子です。

★ 接続の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

※ 外部入力（EXT. IN）端子での再生については、42ページをご覧ください。

接続のしかた（つづき）

(6) スピーカーシステムの接続

- スピーカー端子とスピーカーシステムは、必ず同じ極性（⊕と⊕、⊖と⊖）を接続してください。
- 接続の際、スピーカーコードの芯線が端子からはみだして他の端子に接触しないようにしてください。またスピーカーコードの芯線どうし、および芯線がリアパネルに接触しないようにご注意ください。

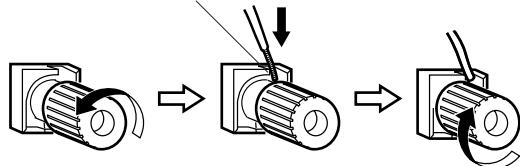
■ スピーカーのインピーダンスについて

- スピーカーは、インピーダンスが6〜16Ωのスピーカーをご使用ください。
- 指定されたインピーダンス以下のスピーカーを使用して、長時間にわたって再生したり、大出力で楽しんだりすると、保護回路が動作することがあります。

ご注意

通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

■ スピーカーコードの接続

芯線をよくねじるか端末処理をしてください。

① スピーカー端子を左に回してゆるめます。
②コードの芯線を差し込みます。
③ 右に回して端子を締めます。

■ バナナプラグの接続

右に回して端子を締め付け、バナナプラグを挿入します。

保護回路について

本機には高速プロテクター回路が内蔵されています。これはパワーアンプの出力が誤って短絡された際に大電流が流れたり、本機の周囲の温度が異常に高くなったり、または長時間にわたり、本機を大出力で使用した際の極端な温度上昇などが発生した場合に、スピーカーを保護するためのものです。
保護回路が動作すると、スピーカー出力は遮断され、スタンバイLEDが点滅します。このような場合は、電源コードを抜いてからスピーカーコードや入力コードの配線に異常がないかを確認の上、本機の温度が極端に上がっている場合は本機が冷えるのを待って、周囲の通風状態を良くしてから、もう一度電源コードを挿入して、本機の電源を入れ直してください。
配線や本機の周囲の通風に問題がないのにも関わらず、保護回路が動作してしまう場合は、本機が故障していることも考えられますので、電源を切った上で、弊社お客様相談窓口または修理相談窓口にご連絡ください。

スピーカーインピーダンスにおけるご注意

指定されたインピーダンス以下のスピーカー（例えばスピーカーインピーダンスが4Ωなど）を使用して、長時間にわたり大出力で再生したりすると、極端な温度上昇などにより保護回路が動作することがあります。保護回路が動作すると、スピーカー出力は遮断されますので、電源コードを抜いてください。本機が冷えるのを待って、周囲の通風状態を良くしてから、もう一度電源コードを挿入して電源を入れ直してください。

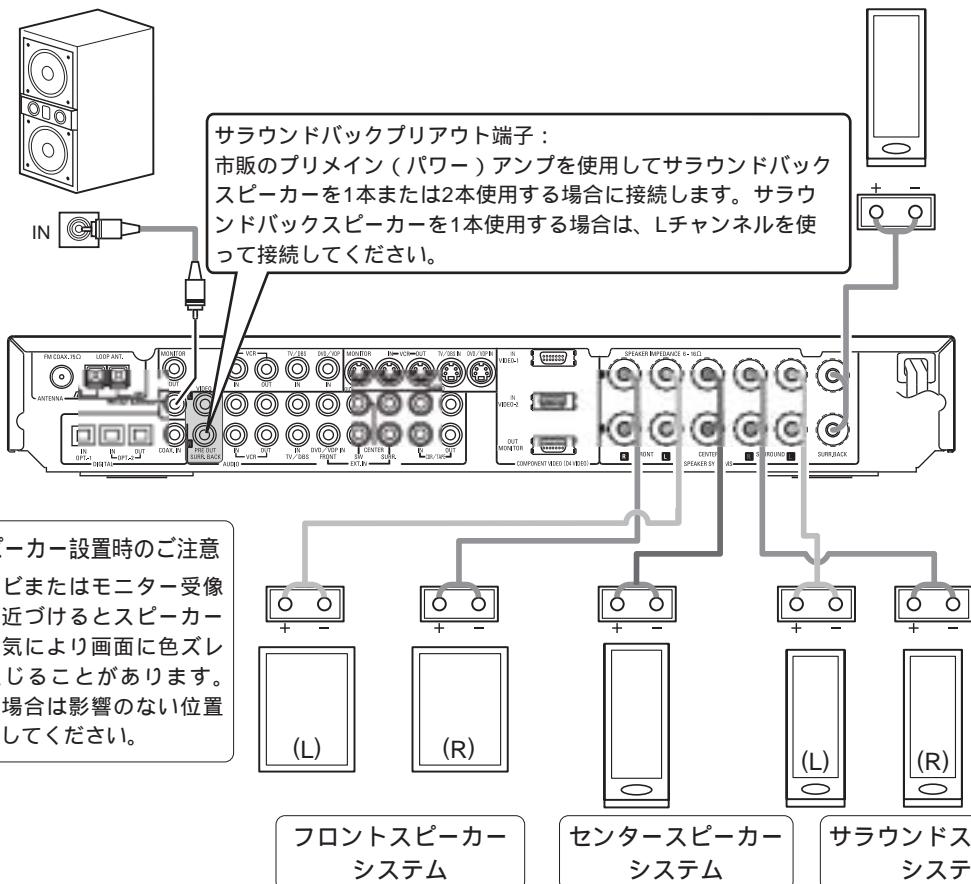
接続のしかた（つづき）

■ 接続のしかた

★ 接続の際は、スピーカーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

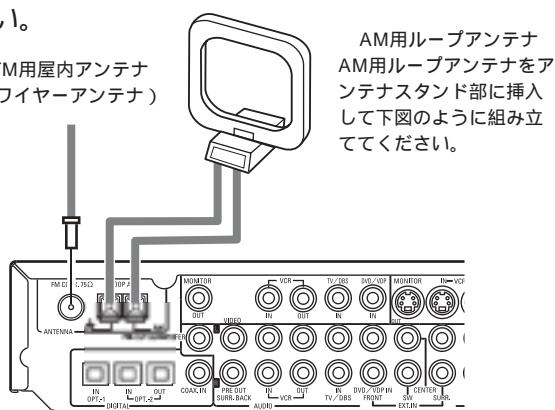
スピーカー設置時のご注意

テレビまたはモニター受像機に近づけるとスピーカーの磁気により画面に色ズレが生じることがあります。この場合は影響のない位置に離してください。

フロントスピーカーシステム　センタースピーカーシステム　サラウンドスピーカーシステム

■ 付属のアンテナの接続

1	**FM用屋内アンテナをFMアンテナ端子（FM COAX.75Ω）に接続します。**
2	**組み立てたAM用ループアンテナをAMアンテナ端子（AM LOOP ANT.）とアース端子（⏚）に接続します。**

■ FM用屋内アンテナの設置方法

FM放送を受信（85ページ参照）し、音を聞きながら歪みや雑音の最も少ない位置にアンテナの先端をテープなどで、壁やラックなどに固定してください。

■ AM用ループアンテナの接続

付属のAM用ループアンテナを下図のようにアンテナ端子に接続してください。

1	**ロックを押して外します。**
2	**アンテナ線を端子部に挿入します。**
3	**ロックを持ち上げて固定します。**

■ AM用ループアンテナの設置方法

AM放送を受信（85ページ参照）し、音を聞きながら本機からできるだけ離して歪みや雑音の最も少ない位置に設置してください。
接続の極性を逆にした方が良い場合もあります。
AM用ループアンテナを接続しなかったり、また接続していても金属部分に接近しているとAM放送を良好に受信することができません。

接続のしかた（つづき）

★付属のアンテナで放送がきれいに聞こえないときは、必要な放送用の屋外アンテナを使用してください。

■ 屋外アンテナを立てる場所について

- 放送局の送信アンテナがある方向に立てます。
- ビルや山のかげなどでは、最も良く受信できるところに立てて方向を変えてください。
- 送電線の下には立てないでください。送電線がアンテナに触れると大変危険です。
- 自動車や電車の雑音が入らないよう、道路や線路から離れたところへ立ててください。
- 落雷の恐れがありますので、あまり高いところには立てないでください。

ご注意

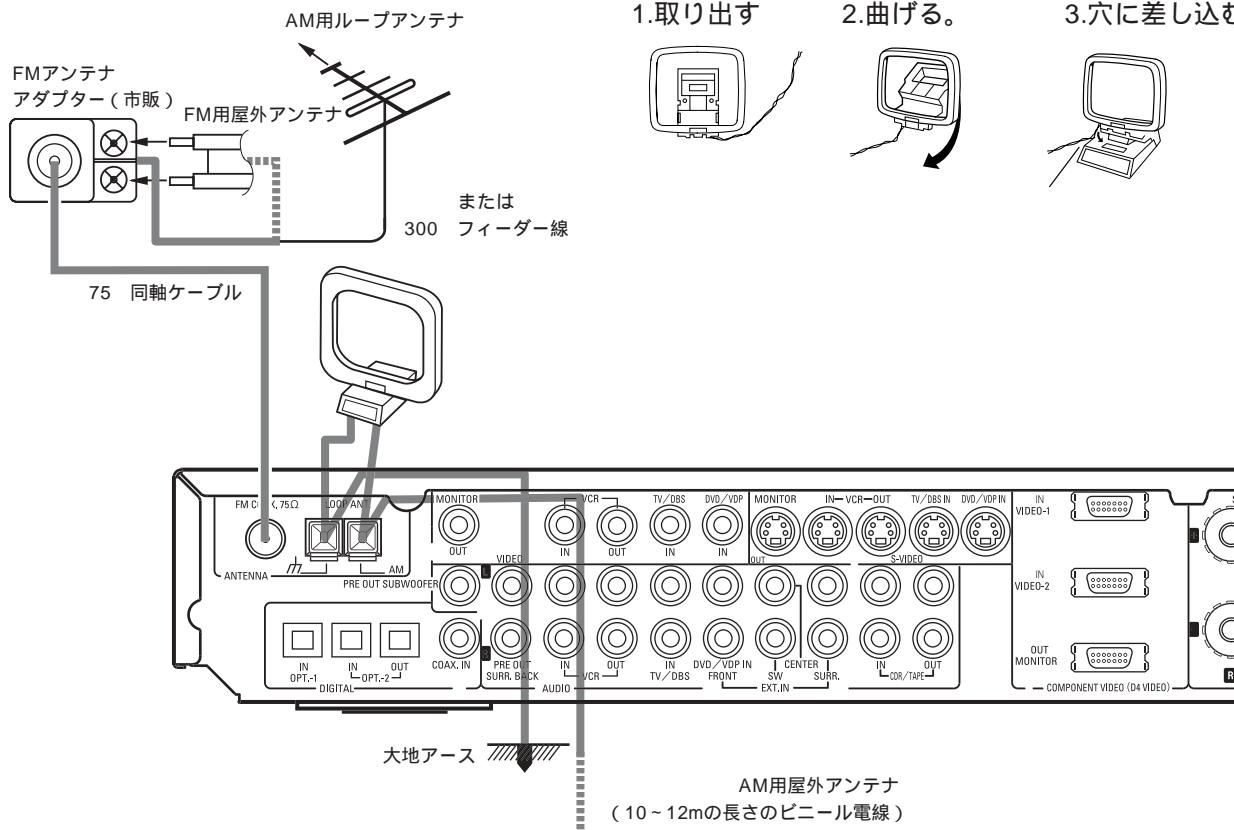
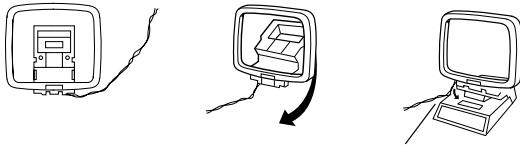
- 本機のアース端子（ ⏚ ）はAM用ループアンテナのアースで安全アースではありません。
- FM用アンテナアダプターは、本機のアンテナ端子に合った市販のものを使用してください。
- 75Ω同軸ケーブルおよび300Ωフィーダー線のFMアンテナアダプターへの接続は、FMアンテナアダプターの取扱説明書に従ってください。
- ガス管に接続して大地アースをとるのは、大変危険ですのでおやめください。

■ FM用屋外アンテナの接続

1	**FM用屋外アンテナを75Ω同軸ケーブルまたは300Ωフィーダー線で市販のFMアンテナアダプターを使用して接続します。**
2	**FMアンテナ端子（FM COAX.75Ω）に接続します。** • 75Ω同軸ケーブルまたは300Ωフィーダー線どちらか1本だけを接続してください。 • 付属のFM用屋内アンテナは外してください。

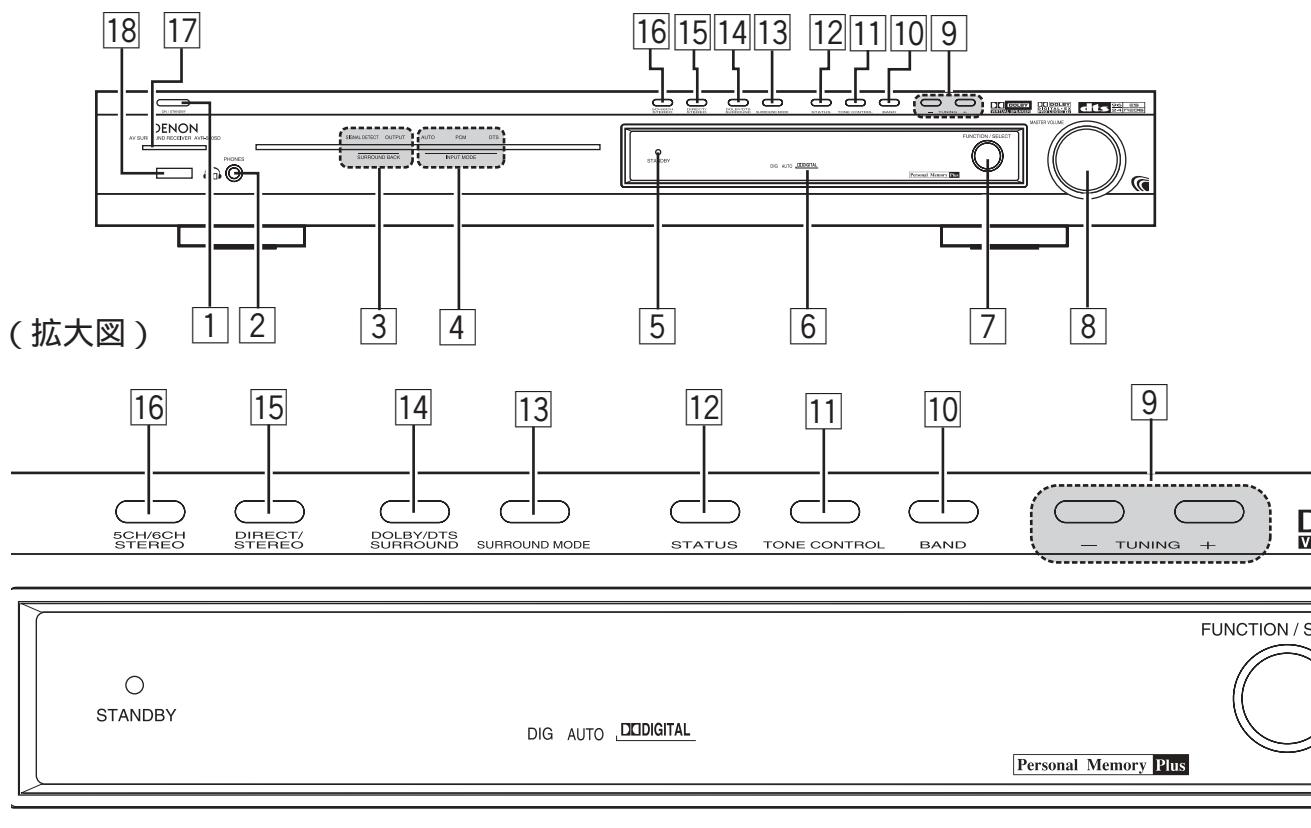
■ AM用屋外アンテナの接続

1	**AM用屋外アンテナをAMアンテナ端子（AM）に接続します。** • 付属のAM用ループアンテナは、必ず接続しておいてください。

■ AM用ループアンテナの設置方法

7 各部の名前

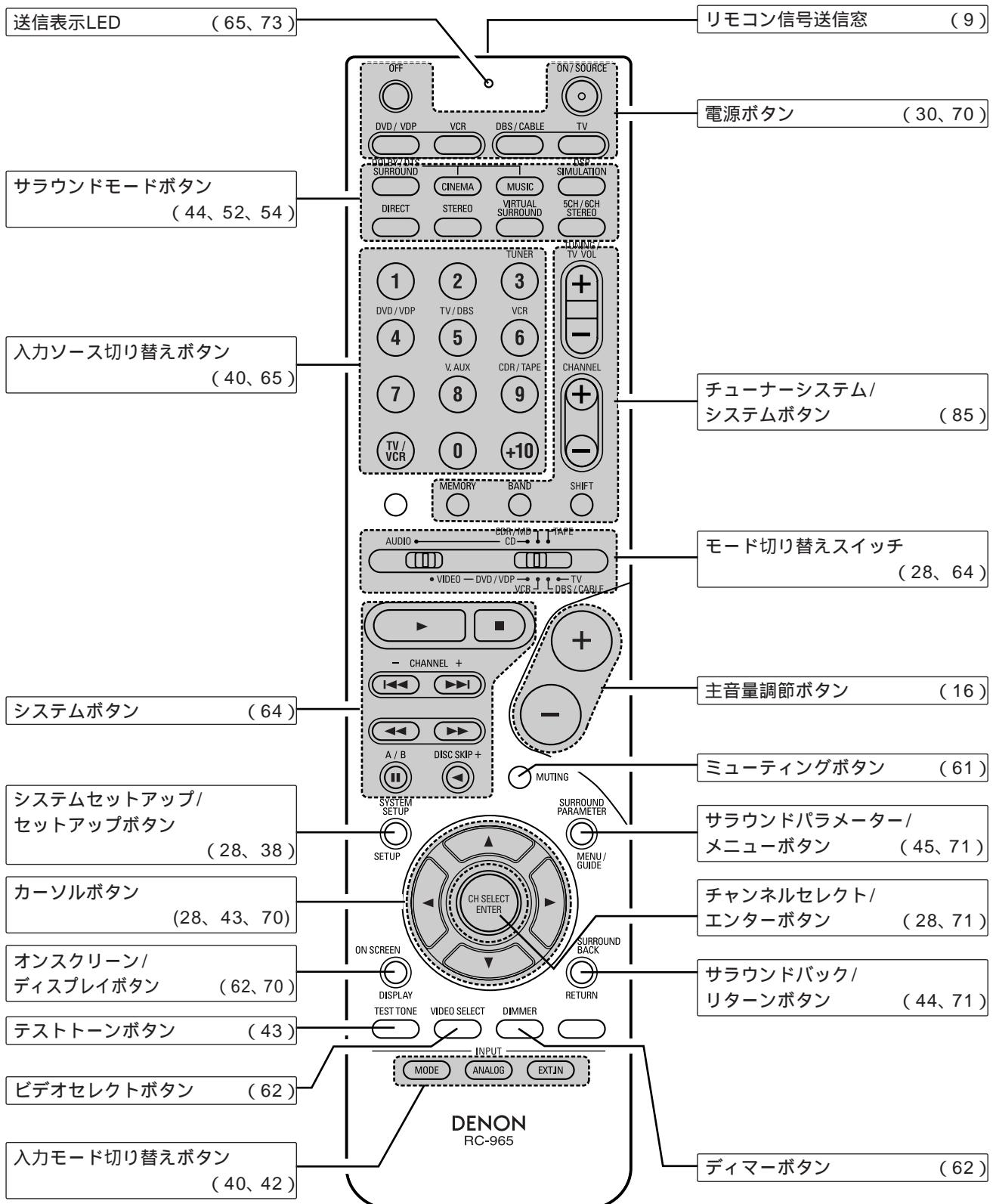
(1) フロントパネル

★ 各部のはたらきなど、詳しい説明については（　）内のページを参照してください。

1 **電源ボタン** (30)
2 **ヘッドホンジャック（PHONES）** (60)
3 **サラウンドバック出力表示LED** (44)
4 **入力モード表示LED（INPUT）** (41)
5 **スタンバイLED**
6 **ディスプレイ**
7 **入力ファンクッション/セレクトつまみ**
8 **主音量調節つまみ**
(MASTER VOLUME) (41)
9 **チューニングボタン** (85)
10 **バンドボタン** (85)
11 **トーンコントロールボタン**
(TONE CONTROL) (61)

12 **ステータスボタン（STATUS）** (62)
13 **サラウンドモードボタン**
(SURROUND MODE) (41、46、55)
14 **ドルビー/DTSサラウンドボタン**
(DOLBY/DTS SURROUND)
(44、46、47)
15 **ダイレクト/ステレオボタン**
(DIRECT/STEREO) (63)
16 **5CH/6CHステレオボタン**
(5CH/6CH STEREO) (54)
17 **電源表示LED** (30)
18 **リモコン受光部**
(REMOTE SENSOR) (9)

各部の名前（つづき）

(2) リモコン

★ 各部のはたらきなど、詳しい説明については（　）内のページを参照してください。
★ 本機以外の機器の操作（システムボタン）の説明は、64〜73ページを参照してください。

8 システムセットアップのしかた

★『接続のしかた』（17〜25ページ参照）に従って他のAV機器との接続が終わったら、本機のオンスクリーンディスプレイ機能によりモニターTV上で各種セッティングをおこないます。
これによりはじめて本機をメインとしたリスニングルームのAVシステムが完成します。
★ マイコンの初期化（89ページ参照）をおこなうことにより、システムセットアップの内容を初期値（工場出荷時）に戻すことができます。

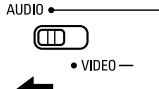
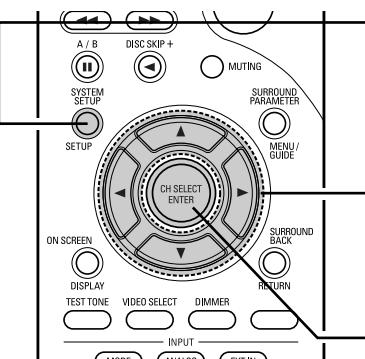
■ オンスクリーンディスプレイ表示信号について

同じ機器からVIDEO信号とS映像信号を両方とも本機に接続した場合、オンスクリーンディスプレイ表示信号は、S映像信号MONITOR OUT端子から出力され、VIDEO映像信号MONITOR端子からは出力されません。
※ S映像信号MONITOR OUT端子にモニターTVを接続していない場合は、オンスクリーンディスプレイ表示信号は、VIDEO映像信号MONITOR OUT端子（黄）に出力されます。

	本機への信号入力		オンスクリーンディスプレイ表示信号の出力	
	VIDEO映像信号 入力端子（黄）	S映像信号 入力端子	VIDEO映像信号 MONITOR OUT端子（黄）	S映像信号 MONITOR OUT端子
1	×	×	○	○
2	○	×	○	○
3	×	○	○	○
4	○	○	×	○

（○：信号有り　×：信号無し）　　（○：オンスクリーン出力有り　×：オンスクリーン出力無し）

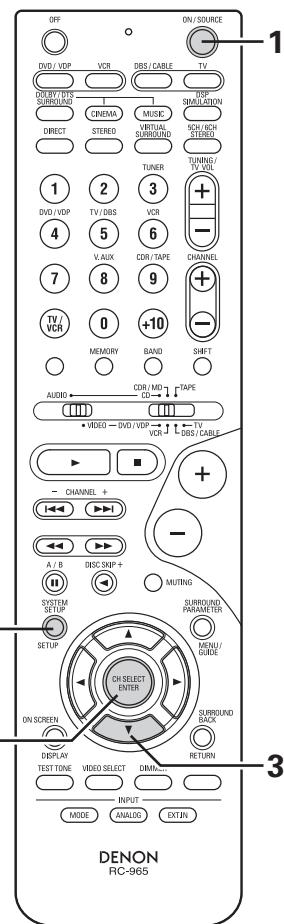
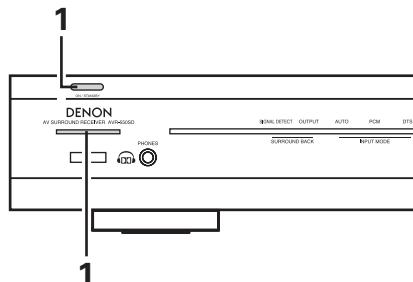
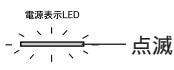
ご注意

● COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子にはオンスクリーンディスプレイ表示信号は出力されません。

システムセットアップのしかた（つづき）

★ システムセットアップの内容と初期設定（工場出荷時）

<table>
<tr><th colspan="3">システムセットアップ</th><th colspan="7">初　期　設　定</th></tr>
<tr><td rowspan="2">Speaker Configuration</td><td colspan="2" rowspan="2">サラウンド再生の際、実際に使用するスピーカーの組み合わせの有無や低域の再生能力に応じた大きさを入力することにより、本機内部で自動的に各スピーカーから出力される信号の成分や周波数特性が設定されます。</td><td>Front Sp.</td><td>Center Sp.</td><td>Surround Sp.</td><td>Surround Back Sp.</td><td>Subwoofer</td></tr>
<tr><td>Small</td><td>Small</td><td>Small</td><td>None</td><td>Yes</td></tr>
<tr><td>Subwoofer mode</td><td colspan="2">重低音信号を再生するサブウーハー、スピーカーを選択します。</td><td colspan="7">LFE</td></tr>
<tr><td>Crossover Frequency</td><td colspan="2">各スピーカーの低音域をサブウーハーから何Hz以下で出力するかを設定します。</td><td colspan="7">120Hz</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Delay Time</td><td colspan="2" rowspan="2">リスニングポジションに応じて各スピーカー、サブウーハーから発声される音声のタイミングを最適にするためのパラメーターです。</td><td>Front L</td><td>Front R</td><td>Center</td><td>Subwoofer</td><td>Surround L</td><td>Surround R</td><td>Surround Back</td></tr>
<tr><td>3.6m</td><td>3.6m</td><td>3.6m</td><td>3.6m</td><td>3.0m</td><td>3.0m</td><td>(None)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Channel Level</td><td colspan="2" rowspan="2">最適な効果を得られるように、各スピーカーやサブウーハーから出力される音量をそれぞれチャンネル毎に調整します。</td><td>Front L</td><td>Front R</td><td>Center</td><td>Subwoofer</td><td>Surround L</td><td>Surround R</td><td>Surround Back</td></tr>
<tr><td>0dB</td><td>0dB</td><td>0dB</td><td>0dB</td><td>0dB</td><td>0dB</td><td>(None)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Digital in Assignment</td><td rowspan="2">各入力ソースに対して、デジタル入力端子を割り当てます。</td><td>入力ソース</td><td>VCR</td><td>DVD/VDP</td><td>TV/DBS</td><td>—</td><td>—</td></tr>
<tr><td>デジタル入力</td><td>COAXIAL</td><td>OPTICAL 1</td><td>OPTICAL 2</td><td>—</td><td>—</td></tr>
<tr><td rowspan="2">Video In Assignment</td><td rowspan="2">各入力ソースに対して、コンポーネントビデオ入力端子を割り当てます。</td><td>入力ソース</td><td>DVD/VDP</td><td>TV/DBS</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr>
<tr><td>ビデオ入力</td><td>VIDEO 1</td><td>VIDEO 2</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr>
<tr><td>Auto Surround Mode</td><td colspan="2">入力信号に対して、最後に再生したサラウンドモードを記憶するかどうかを設定します。</td><td colspan="7">Auto Surround Mode = ON</td></tr>
<tr><td>Ext. In Subwoofer Level</td><td colspan="2">Ext. Inのサブウーハーに接続されたアナログ入力信号の再生レベルを設定します。</td><td colspan="7">+15dB</td></tr>
<tr><td>Bilingual Mode</td><td colspan="2">ドルビーデジタルソースおよびAACソースの入力に対して、二重音声の出力内容を設定します。</td><td colspan="7">MAIN</td></tr>
<tr><td>On Screen Display</td><td colspan="2">本機をリモコンや本体操作ボタンなどにより操作した際に、確認のためモニター画面上にあらわれる、オンスクリーン表示の表示有無を設定します。</td><td colspan="7">On Screen Display = ON</td></tr>
</table>

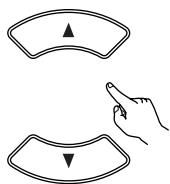
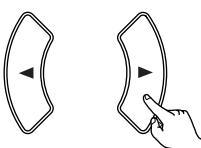
(1) システムセットアップの前に

★ セットアップをおこなう前に、本機のMONITOR OUT端子にモニターTVを接続し、本機の映像入力端子と接続されているすべての再生機器の電源をOFFにしてください。（モニターTVとの接続方法は、19、20ページを参照してください。）

ご注意

- オンスクリーンディスプレイの表示信号は、ビデオ機器の再生中はS-VIDEO MONITOR OUT端子に優先的に出力されます。例えば、モニターTVが本機のS-ビデオとビデオの両モニター出力端子に接続されている状態で、S-ビデオとビデオの入力端子両方に接続している機器（VDPなど）から信号が本機に入力されているときには、オンスクリーンディスプレイの表示信号はS-ビデオモニター出力に優先して出力されます。ビデオモニター出力端子に出力させたい場合は、S-VIDEO MONITOR OUT端子にはコードを接続しないでください。
- ヘッドホンを使用している場合は、セットアップメニューは表示されません。
- システムセットアップを途中で終了したい場合は、再度システムセットアップボタンを押してください。
  システムセットアップ中どこからでもシステムセットアップを終了することができます。
  変更した設定値が確定され、オンスクリーン表示が消えます。
- システムセットアップの設定を間違えた場合は、System Setup Menu画面で再設定したいメニューを選び、設定し直すことができます。

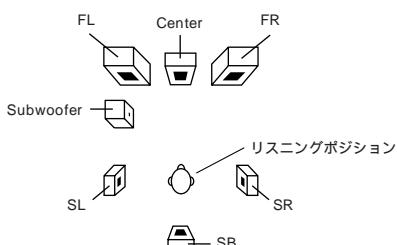
(2) スピーカーの種類・有り無しの設定

★ 実際に使用されるスピーカーの組み合わせに対して、自動的に各チャンネルの出力成分や特性を調節します。
★ お手持ちのスピーカーシステムに合わせてセットアップをおこなってください。本セットアップをおこなうことにより最適なシステムでお楽しみいただけます。

4 **各々のスピーカーの有無または大きさのパラメーターを選択します。**

◎ スピーカーの選択　◎ パラメーターの選択

1 FRNT Small

Speaker Configuration

>1. Front Sp. <Small
2. Center Sp. Small
3. Surround Sp. Small
4. S.Back Sp. Small
1Spkr
5. Subwoofer Yes

FL Center FR
Subwoofer
リスニングポジション
SL SR
SB

5 **Subwoofer modeの設定に切り替えます。**

（リモコン）

ご注意

Large/Smallの選択は、スピーカーの外形で判断せずにクロスオーバー周波数（32ページ参照）で設定した周波数を基準とした低域・再生能力で判断してください。この判断がつかない場合は、スピーカーを破壊しない範囲で“ Small ”に設定した場合と“ Large ”に設定した場合の音を比較した上で選択してください。

パラメーターについて

Large（ラージ）：
クロスオーバー周波数（32ページ参照）で設定した周波数以下の低音を十分再生できるスピーカーを使用するときに選択します。

Small（スモール）：
クロスオーバー周波数（32ページ参照）で設定した周波数以下の低音再生に十分な音量が得られないスピーカーを使用するときに選択します。この設定をおこなった場合、設定した周波数以下の低音はサブウーハーに振り分けられます。

None（ノーン）：
スピーカーを設置していないときに選択します。

Yes/No（イエス／ノー）：
サブウーハーを設置しているときには“ Yes ”、設置していないときには“ No ”を選択します。

※ サブウーハーの低域再生能力が十分な場合、フロント、センター、サラウンドの各スピーカーの設定を“ Small ”にしても良好な音場再生を得ることができます。
※ フロントスピーカーを“ Small ”に設定すると自動的にサブウーハーは“ Yes ”に設定され、サブウーハーを“ No ”に設定すると自動的にフロントスピーカーは“ Large ”に設定されます。

Surround back speakerついて

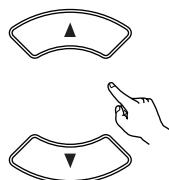
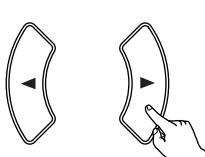
S.Back Sp.の選択によってスピーカーシステムは以下のように変わります。

Noneを選択した場合 …5.1chスピーカーシステム

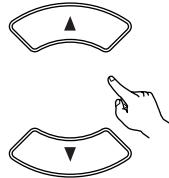
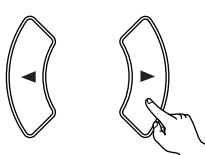
LargeまたはSmallを選択し、1Spkrを選択した場合 ……………………6.1chスピーカーシステム
Surround Backの音声はSPEAKER TERMINALとPRE OUT端子のLチャンネル両方から出力されます。どちらか一方に接続してください。
PRE OUT端子に接続する場合には別途市販のプリメイン（パワー）アンプが必要になります。

2Spkrを選択した場合 …7.1chスピーカーシステム
Surround Backの音声はPRE OUT端子のみから出力されます。市販のプリメイン（パワー）アンプに接続し音声を出力してください。
SPEAKER TERMINALのSurr.Back端子からは音声は出力されません。

(3) サブウーハーモードおよびクロスオーバー周波数の設定

★ ご使用になるスピーカーシステムに合わせて、サブウーハーモードとクロスオーバー周波数の設定をします。

クロスオーバー周波数について

『Speaker Configurationの設定』でSubwooferを『Yes』に設定したとき、各スピーカーの低音域をサブウーハーから何Hz以下（クロスオーバー周波数）で出力するかを設定します。
『Small』に設定したスピーカーは、クロスオーバー周波数以下の音はカットして出力され、カットされた低音域はサブウーハーから出力します。

ご注意： 一般的なスピーカーシステムを使用する場合は、クロスオーバー周波数を80Hzに設定することを推奨しますが、小型スピーカーを使用する場合は、より高い周波数に設定することで、クロスオーバー周波数付近での周波数特性を改善できる場合もあります。

ドルビーおよびDTS信号再生時以外のサブウーハーの動作についてのご注意

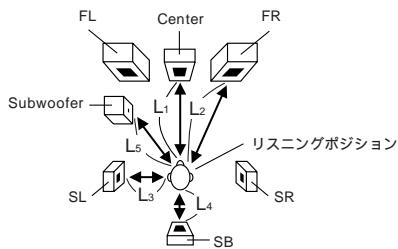
ドルビーおよびDTS以外のサラウンドモードでは、サブウーハーが『YES』に設定されていると、低域成分が常にサブウーハーチャンネルに出力されます。
詳細は、サラウンドパラメーター 一覧表を参照してください。（59ページ参照）

サブウーハーモードについて

- サブウーハーモードの設定は『Speaker Configurationの設定』（31ページ参照）でフロントスピーカーを『Large』、サブウーハーを『Yes』に設定した場合のみ有効です。
- 『LFE+Main』モードを選択すると、Largeに指定されたチャンネルの低音域信号は、そのチャンネルとサブウーハーチャンネルから同時に再生されます。このモードでは、より均一な低音域が室内に広がりますが、部屋の大きさと形によっては干渉のために実際の低音域音量が低下することもあります。
- 『LFE』再生モードを選択すると、Largeに指定されたチャンネルの低音域信号はそのチャンネルからのみ再生されます。この再生モードは、室内の低音域干渉が起こりにくくなります。
- 音楽ソースや映画ソースを再生してみて、量感のある低音域が得られる方の再生モードを選択してください。
- 音楽ソースや映画ソースにLFE（低音域信号）が含まれていない場合は、サブウーハーから出力されません。

（4）ディレイタイムの設定

★ リスニングポジションと各スピーカーとの距離を入力して、サラウンドのディレイタイムを設定します。

準備： リスニングポジションと各スピーカーとの距離（下図のL1〜L5）を測定します。

L1：センタースピーカーとリスニングポジションとの距離
L2：フロントスピーカーとリスニングポジションとの距離
L3：サラウンドスピーカーとリスニングポジションとの距離
L4：サラウンドバックスピーカーとリスニングポジションとの距離
L5：サブウーハーとリスニングポジションとの距離

9 ▲ ▼ **でDelay Timeを選択し**
CH SELECT ENTER **を押しDelay Timeに切り替えます。**

System Setup
a .Speaker Configuration
> b .Delay Time
c .Channel Level
d .Digital In Assignment
e .Video In Assignment
f .Auto Surround Mode
g .Ext. In SW Level

10 設定したいスピーカーを選択します。

8 FL 3.6m

6.1chスピーカーシステムの場合

Delay Time

> 8 Front L	< 3.6m >
9 Front R	3.6m
10 Center	3.6m
11 Subwoofer	3.6m
12 SL	3.0m
13 SR	3.0m
14 SB	3.0m

7.1chスピーカーシステムの場合

Delay Time

> 8 Front L	< 3.6m >
9 Front R	3.6m
10 Center	3.6m
11 Subwoofer	3.6m
12 SL	3.0m
13 SR	3.0m
14 SBL	3.0m
15 SBR	3.0m

11 ［例］センタースピーカーとリスニングポジションとの距離を設定します。

ボタンを押すたびに数値が0.1m単位で変化しますので、測定した距離に最も近い値を選択します。

※ 各スピーカーに設定した距離の差が6m以下になるように設定してください。

12 システムセットアップメニュー画面に切り替えます。

CH SELECT ENTER

（リモコン）

※ Speaker Configuration（スピーカー コンフィグレーション）の設定で『NONE』を選択したときは、距離の設定はできません。（31ページ参照）

（次ページへ続きます。）

（5）チャンネルレベルの設定

★ 各チャンネル間の再生レベルが等しくなるように調整します。

★ リスニングポジション各スピーカーより出力されるテストトーン（再生音）を聞きながら調整します。

★ 調整はリモコンからのダイレクト操作でもおこなえます。（詳しくは43ページを参照してください。）

★ サラウンドバックプリアウト端子に市販のプリメインアンプを接続し、サラウンドバックスピーカーを使用する場合は、プリメインアンプのボリュームでもサラウンドバックスピーカーのレベルが変化しますので、本設定とあわせてプリメインアンプのボリュームの調整をおこなってください。

13

でChannel Levelを選択し、（CH SELECT ENTER）**を押します。**

```
System Setup
  a .Speaker Configuration
  b .Delay Time
> c .Channel Level
  d .Digital In Assignment
  e .Video In Assignment
  f .Auto Surround Mode
  g .Ext. In SW Level
```

14

Test Tone（テスト トーン）モードを選択します。

“ Auto ” と “ Manual ” の内、希望するモードを反転表示させます。

```
16 T.TONE AT
```

```
16  Channel Level
>Test  Tone  [Auto]>Manual
 Test  Tone  Start    Yes<
 Level  Clear   Yes<
```

［例］“ Auto ” モードを選択した場合

◎ **Auto（オート）：**
各スピーカーより自動的に出力されるテストトーンを聞きながらレベルを調整します。

◎ **Manual（マニュアル）：**
テストトーンを出力させたいスピーカーを選択してレベルを調整します。
最初の設定は “ Manual ” でおこなうと詳細な設定ができます。

15

でTest Tone Startを選択し

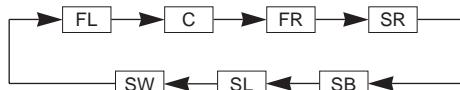
でYesを選択します。

```
T.TONE ST<YES
```

```
16 Channel Level
 Test Tone  [Auto]>Manual
>Test Tone Start  Yes<
 Level Clear  Yes<
```

16

a) “ Auto ” モードを選択した場合

次の順序で、2周目までは4秒間隔で、3周目からは2秒間隔でテストトーンが各スピーカーより自動的に出力されます。

各スピーカーのテストトーンが同じ音量で聞こえるように調整します。

音量は－12dB～＋12dBの範囲で、1dB単位で調整できます。

6.1chスピーカーシステムの場合

```
Test  Tone  Auto
 Front L     +12dB
 Center        0dB
>Front R     <[0dB]>
 Surr. R       0dB
 S.Back        0dB
 Surr. L       0dB
 Subwoofer     0dB
```

7.1chスピーカーシステムの場合

```
Test  Tone  Auto
 Front L     +12dB
 Center        0dB
>Front R     <[0dB]>
 Surr. R       0dB
 S.BACK R      0dB
 S.BACK L      0dB
 Surr. L       0dB
 Subwoofer     0dB
```

b) “ Manual ” モードを選択した場合

テストトーンを出力させたいスピーカーをカーソル▲または▼で選択します。その後、カーソル◀または▶ボタンを押して各スピーカーのテストトーンが同じ音量に聞こえるように調整します。

6.1chスピーカーシステムの場合

```
Test  Tone  Manual
>Front L    <[-12dB]>
 Center        0dB
 Front R       0dB
 Surr. R       0dB
 S.Back        0dB
 Surr. L       0dB
 Subwoofer     0dB
```

7.1chスピーカーシステムの場合

```
Test  Tone  Auto
            Manual
>Front L    <[+12dB]>
 Center        0dB
 Front R       0dB
 Surr. R       0dB
 S.BACK R      0dB
 S.BACK L      0dB
 Surr. L       0dB
 Subwoofer     0dB
```

17

システムセットアップメニュー画面に切り替えます。

（リモコン）

システムセットアップのしかた（つづき）

※ チャンネルレベルの設定にてチャンネルレベルを調整した場合には、調整した値がすべての再生モードに対して設定されます。
チャンネルレベル設定後、再生モード別にチャンネルレベルを調整する場合は、43ページの操作をおこなってください。

（6）デジタル入力の設定

★ 本機のデジタル入力端子に接続したAV機器の種類を入力します。

（7）コンポーネント（D端子）映像入力の設定

★ 本機のコンポーネント（D端子）映像入力端子に接続したAV機器の種類を入力します。

ご注意

- 本機リアパネルのOPTICAL-2はCDレコーダーまたはMDレコーダーなどのデジタル録音機器用に光デジタル出力端子を備えていますので、デジタル録音の際にご利用ください。
- 本機リアパネルのOPTICAL-2 OUT端子に接続した機器の出力をOPTICAL-2 IN端子以外に接続しないでください。

システムセットアップのしかた（つづき）

（8）オートサラウンドモードの設定

★ 下記の3種類の入力信号に対して、最後に再生したサラウンドモードを記憶し、次に同じ信号が入力された場合には、記憶したサラウンドモードで自動的に再生します。
なお、サラウンドモードは各入力ソースに対しても個別に記憶されます。

入　力　信　号	初期設定
① アナログおよびPCMの2チャンネル信号	STEREO
② ドルビーデジタルの2チャンネル信号	DOLBY PLII Cinema
③ ドルビーデジタルやDTSなどのマルチチャンネル信号	DOLBY またはDTS SURROUND

（9）外部入力（EXT. IN）サブウーハーレベルの設定

★ EXT. INのサブウーハーに接続されたアナログ入力信号の再生レベルを設定します。

システムセットアップのしかた（つづき）

(10) バイリンガルモードの設定

★ AACソースおよびドルビーデジタルソースの音声出力内容を設定します。

ご注意

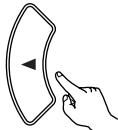
バイリンガルモードは、AACソースおよびドルビーデジタルソースで、二重音声の情報がある場合のみ有効となります。二重音声の情報がないAACソース、ドルビーデジタル、DTS、PCMおよびアナログソースに対しては、切り替えても無効です。

(11) オンスクリーンディスプレイの設定（OSD）

★ メニュー画面以外のオンスクリーンディスプレイ表示のON/OFFの切り換えができます。

(12) オートプリセットメモリーの設定

★ FM放送を自動的にプリセットするときに使用し、40局までプリセットすることができます。
FM放送が自動的にプリセットできないときは、マニュアルチューニング操作をおこない、後にプリセットメモリーの操作をおこなってください。

★ 以上でシステムセットアップは終了です。システムセットアップは一度設定をおこなったら、接続するAV機器やスピーカーを取り替えたり、スピーカーの配置を変えない限り、再度設定をおこなう必要はありません。

★ SLEEP TIMERの設定は88ページを参照してください。

(13) システムセットアップ後の操作

1 **System Setup Menu画面上でシステムセットアップボタンを押します。**

※ 変更した設定値が確定され、オンスクリーン表示が消えます。

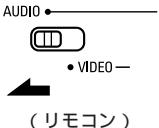
本ボタンを押すと、システムセットアップ中どこからでも、システムセットアップを終了することができます。

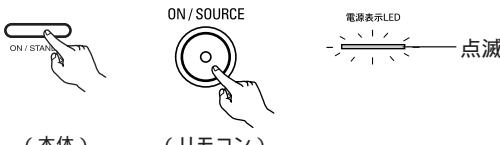
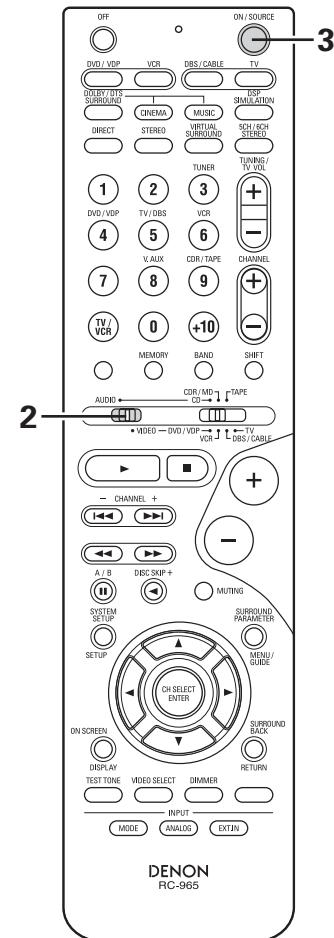
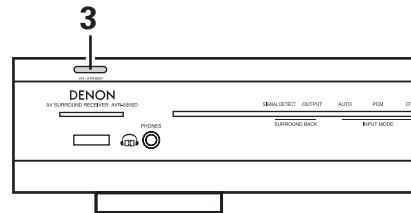
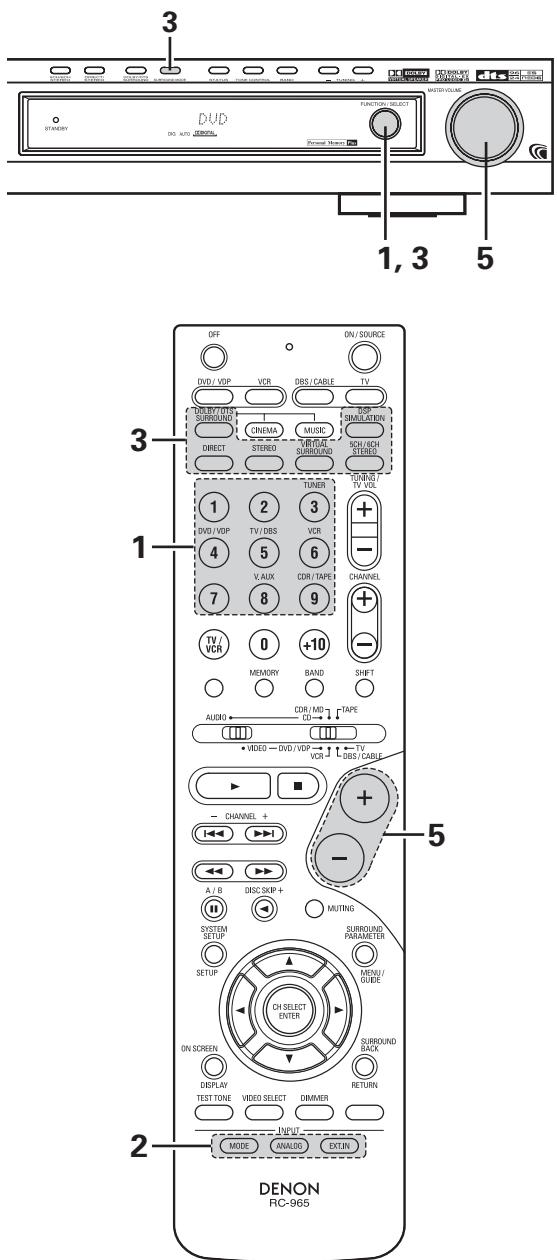
9 操作のしかた

（1）入力ソースの再生のしかた

1 操作する前に

1 『接続のしかた』（17～25ページ）を参照して、接続に間違いがないことを確認します。

2 モード切り替えスイッチを『AUDIO』の位置にします。

3 **電源を入れます。**

● 電源表示 LED が点滅して、電源が入ります。

● 電源ボタンを押すと電源が入り、ディスプレイが点灯します。
● 電源ボタンを押してから音声が出力されるまで、数秒間かかります。これは電源ON/OFF時の雑音を防止するミューティング回路が内蔵されているためです。
● 電源ボタンを押してスタンバイ状態にしても一部の回路は通電していますので、外出やご旅行の場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

2 入力ソースの再生

1 再生したい入力ソースを選択します。

［例］DVD

FUNCTION / SELECT

（本体）

DVD / VDP

（リモコン）

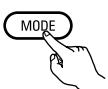
2 入力モードを選択します。

◎ **AUTO、PCM、DTSモードの選択**
モード切り替えボタンを押すたびに次のように切り替わります。

MODE

（リモコン）

AUTO → **PCM** → **DTS**

2 つづき

◎ **ANALOGモードの選択**
アナログボタンを押して、ANALOG入力に切り替えます。

（リモコン）

◎ **外部入力（EXT. IN）モードの選択**
外部入力ボタンを押して、外部入力（EXT. IN）に切り替えます。

（リモコン）

入力モード選択機能

入力モードは、各入力ソース毎に選択が可能です。また、選択された入力モードは、入力ソース毎に記憶されます。

① **AUTO（オールオートモード）**
選択された入力ソース毎にデジタル入力端子・アナログ入力端子に入力されている信号の種類を検出し、自動的に本機のサラウンドデコーダー内部のプログラムを切り替え、再生するモードです。デジタル入力の設定（35ページ参照）をしているソースで選択することが可能です。
デジタル信号の有無を検出し、デジタル入力端子に入力されている信号を判断し、DTS/ドルビーデジタル/AAC/PCMいずれかの方式で、自動的にデコード・再生をおこないます。
デジタル信号が入力されていない場合は、アナログ入力端子を選択します。

② **PCM（PCM信号再生専用モード）**
PCM信号が入力されたときだけデコード・再生をおこないます。
ノイズを発生する場合がありますので、PCM信号を再生する場合以外はこのモードを使用しないでください。

③ **DTS（DTS信号再生専用モード）**
DTS信号が入力されたときだけデコード・再生をおこないます。

④ **ANALOG（アナログ音声信号再生専用モード）**
アナログ入力端子に入力されている信号を再生します。

⑤ **EXT. IN**
（外部デコーダー用入力端子選択モード）
外部デコーダー用入力端子に入力されている信号をサラウンド回路を通さずに再生します。

ご注意

DTS方式で記録されたCDやLDを、PCMモードやANALOGモードで再生すると、ノイズが出力されます。DTS方式で記録された音楽用CDを再生するときは、DTSモードを選択してください。

（次ページへ続きます。）

3 **再生モードを選択します。**

※ リモコンのサラウンド選択ボタンを探すか、本体のサラウンドモードボタンを押してから、セレクトつまみを回してください。

［例］ステレオ

（本体）

（本体）

（リモコン）

※ サラウンドパラメーター、チャンネルレベルおよびトーンコントロールを調整中にサラウンドモードを選択したい場合は、サラウンドモードボタンを押してからセレクトつまみを操作してください。

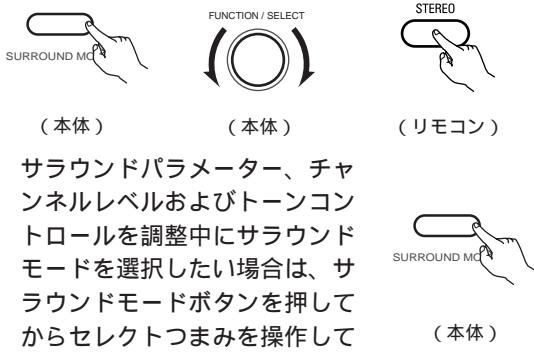
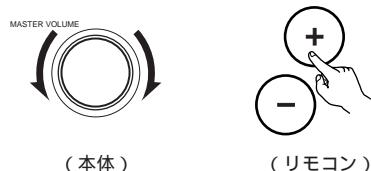
（本体）

4 **選択した機器の再生をはじめます。**

● 操作のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

5 **音量を調節します。**

（本体）

（リモコン）

※ 音量は−70〜0〜18dBの範囲で1dBステップで調節できます。但し、34、43ページに記載されている方法でチャンネルレベルを設定しているとき、どれか1つのチャンネルでも＋1dB以上に設定していると音量は18dBまで調整できません。また、アナログ入力でサブウーハーを使用した再生時や、サラウンドモードによっては、DSP処理のため音量は18dBまで調整できません。

入力モードの表示

● AUTOモード時

● DIGITAL PCMモード時

● DIGITAL DTSモード時

● ANALOGモード時

入力信号の表示

● DOLBY DIGITAL

● DTS

● PCM

● AAC

※ デジタル信号が正常に入力されると DIG が点灯します。点灯しない場合はデジタル入力機器のセットアップ（35ページ）や接続が正しいか、または機器の電源が入っているかを確認してください。

DTSソースの再生をおこなう場合の入力モード

● DTS対応のCDやLDをANALOGモードまたはPCMモードで再生すると、DTS再生できないためノイズが出力されます。
DTS対応のソースを再生する場合は、必ずデジタル（OPTICAL/COAXIAL）入力端子に接続し、入力モードを“ AUTO ”または“ DTS ”に設定してください。

● AUTOモードでDTSを再生した場合、再生のはじめおよびサーチ中にノイズを発生する場合があります。このような場合は、“ DTS ”モードで再生してください。

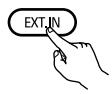
ご注意

● オーディオ以外のデータの記録されたCD-ROMディスクを再生した場合は、ディスプレイに DIG が点灯しますが、音声は聞けません。

● DVDプレーヤーの中には、デジタル出力の有無を機器側の設定でおこなうものがありますので、プレーヤーの取扱説明書も確認してください。

3 外部入力（EXT. IN）端子での再生について

1

入力モードを外部入力（EXT.IN）に設定します。

（リモコン）

設定後は選択されている端子のFL（フロント左）、FR（フロント右）、C（センター）、SL（サラウンド左）、SR（サラウンド右）に接続された入力信号をサラウンド回路を通さずに直接フロント（左/右）、センター、サラウンド（左/右）の各スピーカーシステムに出力します。
また、SW（サブウーハー）端子に入力された信号はSUB WOOFER端子に出力されます。

2

【外部入力モードの解除のしかた】

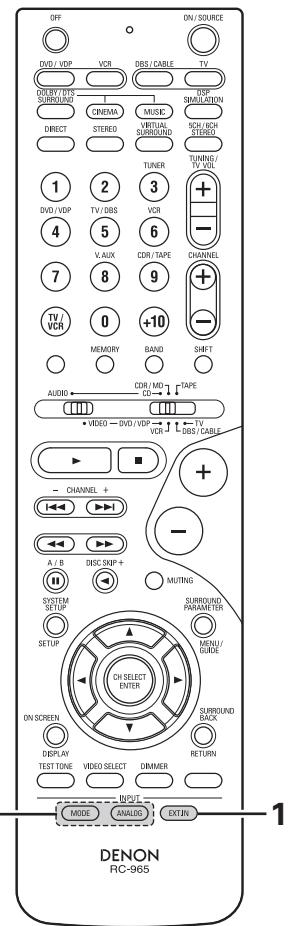
外部入力の設定を解除するときには、入力モード切り替えボタンまたは アナログボタンを押して、再生したい入力モードに切り替えてください。
（詳しくは40、41ページを参照してください。）

（リモコン）

（リモコン）

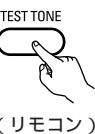
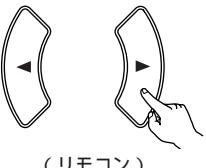
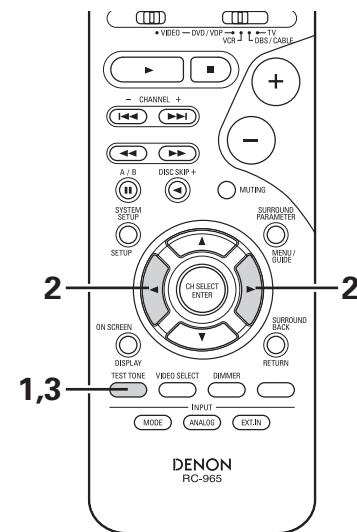
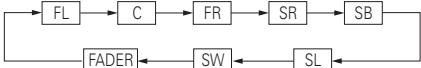
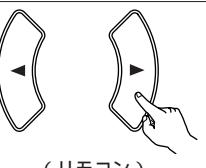
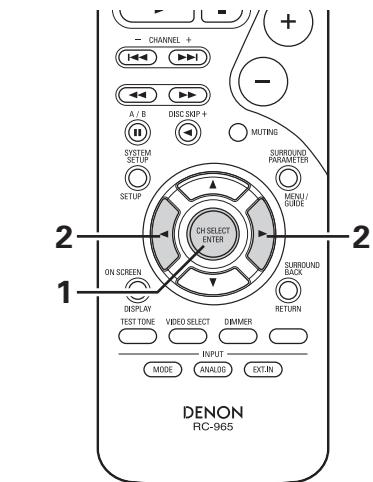
入力モードを外部入力に設定している場合は、サラウンドモード（DIRECT、STEREO、DOLBY/DTS SURROUND、5CH/6CH STEREO、VIRTUAL SURROUND (DOLBY VIRTUAL SPEAKER) DSP SIMULATION）の設定はできません。

ご注意

- 外部入力モード以外の再生モードでは、この端子のC (センター)、SL (サラウンド左)、SR (サラウンド右)、SW (サブウーハー）に入力された信号は再生できません。また入力端子に接続されていないチャンネルからは出力できません。
- 外部入力モードは、どの入力ソースにおいても設定できます。映像と合わせてお楽しみいただく場合は、映像信号を接続した入力ソースを選択後、本モードに設定してください。

操作のしかた（つづき）

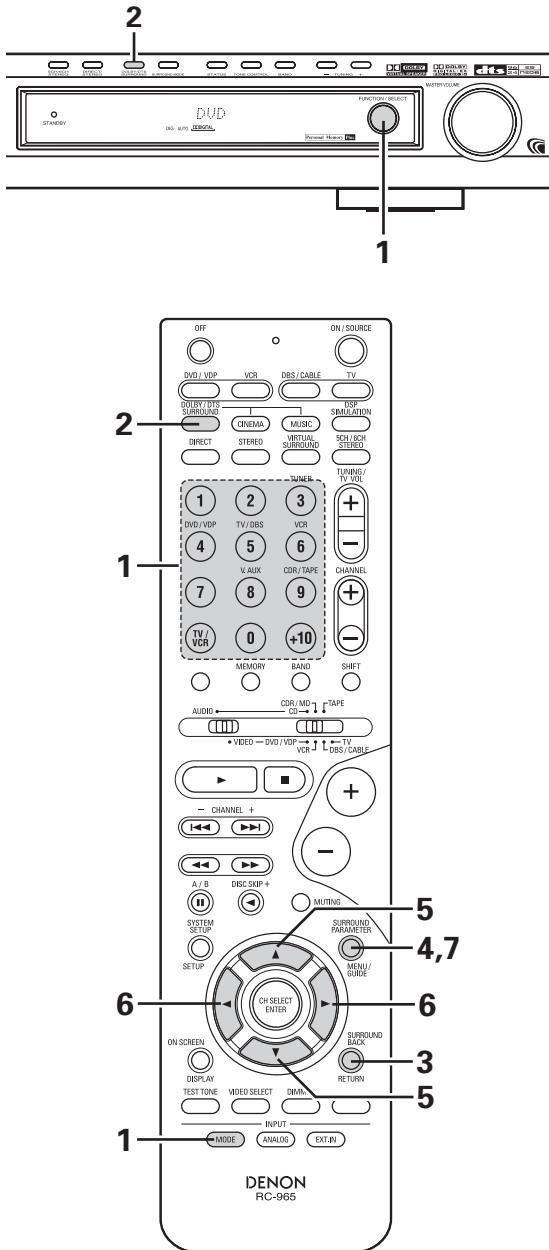
（2）サラウンド再生のしかた

1 サラウンド再生の前に

★ サラウンド再生の前に、必ずテストトーンにより各スピーカーの再生レベルの調節をおこなってください。調節はシステムセットアップ（34ページ参照）でもできますが、下記の通りリモコンでも調節できます。
★ リモコンでのテストトーンによる調節は“ AUTO ”のみで、ドルビーサラウンドモードとDTSサラウンドモード時のみ有効で、調節したレベルは上記各サラウンドモードに自動的に記憶されます。

★ テストトーンによる調節後は、再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、下記の操作により各チャンネルレベルの調節をおこなってください。

- 各チャンネルの音量レベルは、－12～＋12dBの範囲で調整することができます。
- サブウーハー（SW）チャンネルの音量レベルを“ OFF ”に設定することができます。

ご注意

サブウーハーチャンネルの音量レベルを『OFF』に設定したときは、システムセットアップの設定に関わらず、フロントチャンネル（左/右）からLFEを含む低域信号が出力されます。
小型のフロントスピーカーを使用される場合は、低域再生能力を超え、歪みが発生することがありますので『OFF』に設定しないでください。

2 ドルビーデジタルモード、DTSサラウンドモード（デジタル入力のみ）

1

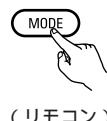
入力ソースを選択します。

デジタル入力での再生

① デジタル（COAXIAL/OPTICAL）が設定されている（35ページ参照）入力ソースを選択します。

（本体）

（リモコン）

② DTSサラウンドモードの場合は、入力モードを " AUTO " または " DTS " に設定します。
ドルビーデジタルモードの場合は、入力モードを " AUTO " に設定します。

（リモコン）

2

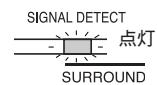
再生するプログラムソースにあわせて、ドルビーまたはDTSサラウンドモードを選択します。

（本体）

（リモコン）

3

DOLBY DIGITAL または dts マークの付いたプログラムソースを再生します。

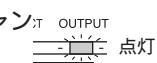
- ドルビーデジタルソース再生中はドルビーデジタル表示LEDが点灯します。 点灯
- DTSソース再生中は、DTS表示LEDが点灯します。 点灯
- 認識信号の記録された6.1chサラウンドソースを再生中は、SIGNAL DETECT表示LEDが点灯します。

※ SIGNAL DETECT表示LEDが点灯しているときには、サラウンドバックボタンを使用してサラウンドバックチャンネルをオンすることをおすすめします。

※ DTS 96/24ソースを最適なシステムでお楽しみいただくには、サラウンドバックチャンネルをオフにすることをおすすめします。

サラウンドバックボタンでサラウンドバックチャンネルのオン/オフを切り替えることができます。

（リモコン）

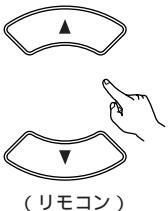
- サラウンドバックチャンネルがオンのときは、サラウンドバックチャンネル出力表示LEDが点灯します。 OUTPUT 点灯 UND BACK

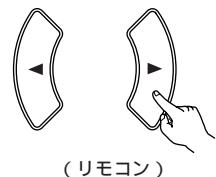
（次ページへ続きます。）

4 ソースに合わせてSurround Parameter画面を表示させます。

※ 各パラメーターについては『サラウンドパラメーターについて④』（57ページ）を参照ください。
※ デフォルト（初期値）は、再生するプログラムソースによって最適に再生するモードが設定されています。

（リモコン）

※ リモコンで操作する場合は、モード切り替えスイッチが『AUDIO』に設定されていることを確認してください。

5 各種パラメーターを選択します。

（リモコン）

6 パラメーターを設定します。

（リモコン）

7 サラウンドパラメーターボタンを押し通常の表示に戻します。

SURROUND
PARAMETER

（リモコン）

ご注意

- Defaultを選択してカーソルボタン◁を押すと、自動的に“ CINEMA EQ. ”と“ D.COMP. ”がOFFに、“ LFE ”と“ TONE ”が初期値に設定されます。
- 2chのドルビーデジタルソースが入力されている場合は、ドルビープロロジックII（またはIIx)モードになります。

■ダイアログノーマライゼーションについて

ドルビーデジタルプログラムソースの再生中は、ダイアログノーマライゼーション機能が自動的に動作します。
この機能は、ドルビーデジタルの基本機能であり、プログラムソース毎に異なるレベルで記録されている信号のレベル（標準レベル）を自動的に補正する作用があります。
本内容は、ステータスボタンまたはオンスクリーンボタンで確認できます。

OFFSET － 4dB

数字は再生中のプログラムを標準レベルに補正をした場合の補正レベルを表わします。

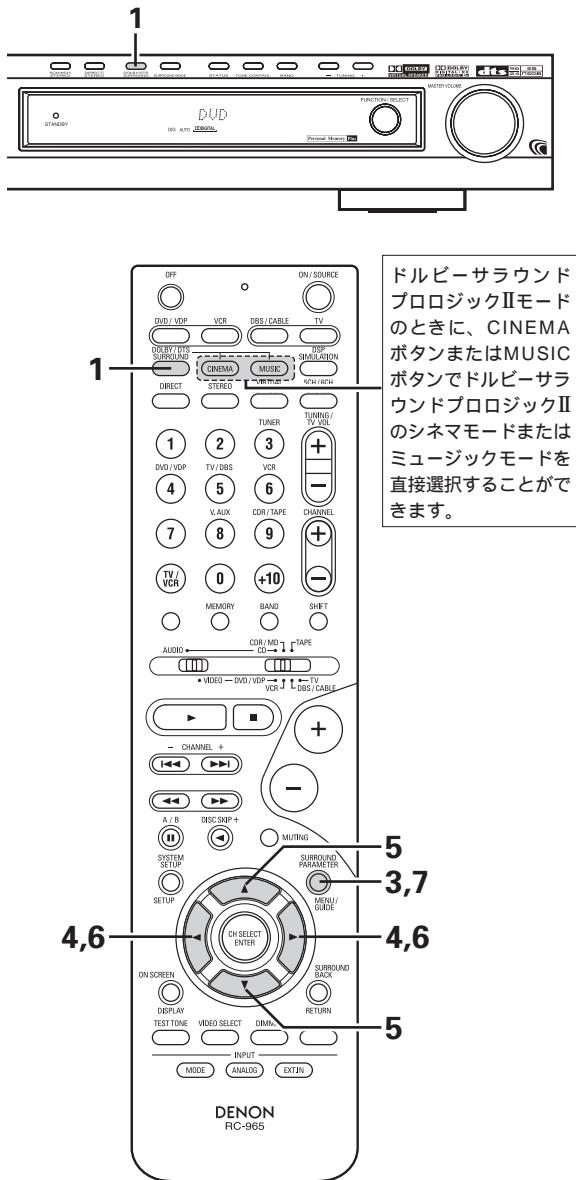
3 AACサラウンドモード（デジタル入力のみ）

★ AACサラウンドモードは、サラウンドバックスピーカーの設定により6.1ch再生をおこなうことができます。なお、6.1ch再生をおこなっているときは、“ AAC+DD EX ”が表示されます。

ご注意

- BSデジタルチューナーのデジタル音声出力が『AAC』に設定されていることを確認してください。
  詳しくは、接続した機器の取扱説明書をご覧ください。
- AACのプログラムソースは、上記のサラウンドモード以外でも使用できます。お好みに合わせて各種サラウンドモードをお楽しみください。
- BSデジタルチューナーによっては、AACのデジタル出力が出ない機器やデジタル出力の設定が必要な機器があります。詳しくは、接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

4 ドルビーサラウンドプロロジックII（プロロジックIIx）モード

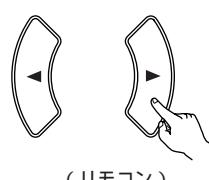
ドルビーサラウンドプロロジックIIモードのときに、CINEMAボタンまたはMUSICボタンでドルビーサラウンドプロロジックIIのシネマモードまたはミュージックモードを直接選択することができます。

1 ドルビーサラウンドプロロジックII（プロロジックIIx）モードを選択します。

● ドルビープロロジック表示が点灯します。

2 DOLBY SURROUND マークの付いたプログラムソースを再生します。

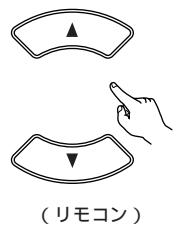
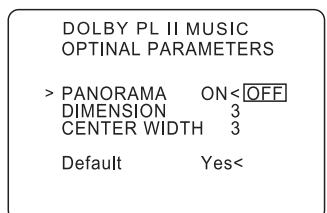
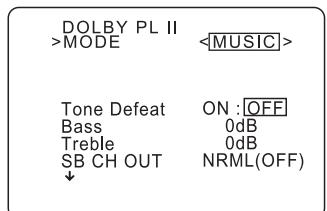
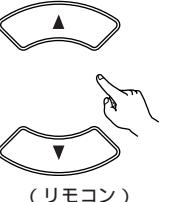
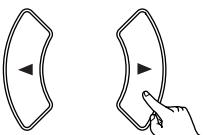
● 操作のしかたは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

3 サラウンドパラメーターモードにします。

※ リモコンで操作する場合は、モード切り替えスイッチ1が『AUDIO』に設定されていることを確認してください。

4 再生モードを選択します。

操作のしかた（つづき）

5 **各種パラメーターを選択します。**

- 各パラメーターについては、『サラウンドパラメーターについて③』（56ページ）を参照ください。

（リモコン）

6 **各サラウンドパラメーターを設定します。**

（リモコン）

7 **設定が終了したら、サウンドパラメーターボタンを押してください。通常の画面に戻ります。**

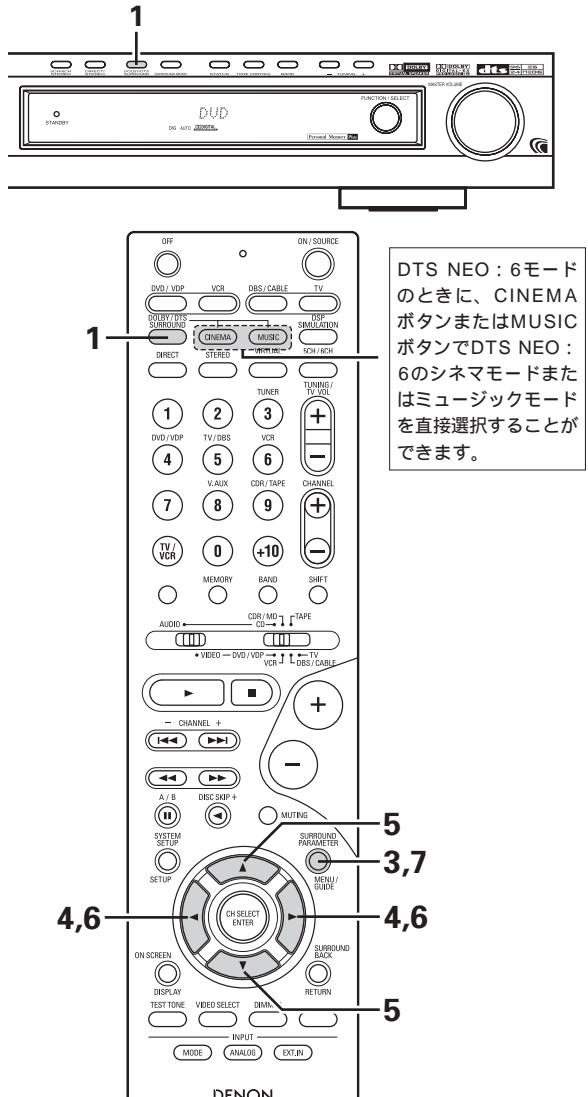
（リモコン）

ご注意

- ドルビーサラウンドプロロジックⅡモードは、2チャンネルソースを5.1チャンネルに拡張するモードです。

5 DTS NEO:6モード

★ アナログ入力およびPCMデジタル入力の2ch信号に対して、サラウンド再生をおこなうことができます。

ご注意

●『DEFAULT』を選択してカーソルボタンを押すと、自動的に『MODE』と『TONE』初期値に『CINEMA EQ』がOFFに設定されます。

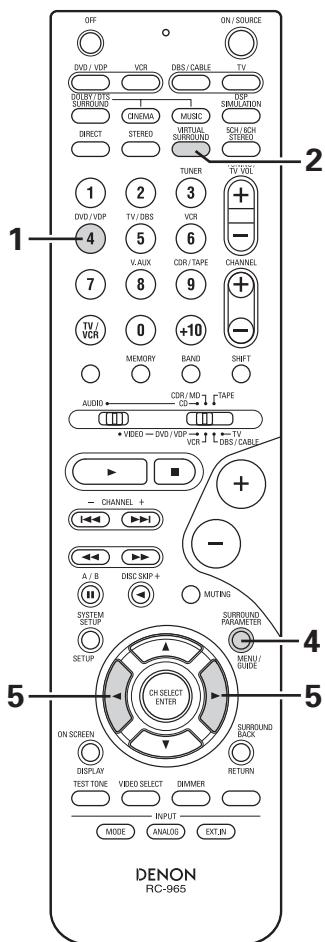
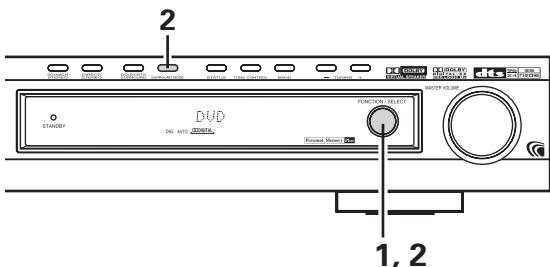
操作のしかた（つづき）

(3) ドルビーバーチャルスピーカーモードでの再生のしかた

★ ドルビーバーチャルスピーカーモードは、ドルビーラボラトリーズの立体音響技術によりフロント2チャンネルスピーカーだけで、マルチチャンネルサラウンド音場を再生できるモードです。
★ フロント2チャンネルスピーカーでは、標準とワイドの2モードが選択できます。
★ ドルビーデジタル、DTS, AAC のマルチチャンネルソースだけでなく2チャンネルソースにも効果的です。2チャンネルソースに対しては、2チャンネルモード設定によりバーチャル1（ドルビープロロジックIIシネマ）、バーチャル2（ドルビープロロジック）の再生が選択できます。
★ また、5.1チャンネルなどのマルチチャンネルスピーカー構成に於いてもスピーカー構成に応じたドルビーバーチャルスピーカーモードの効果があります。

1 ドルビーデジタル、DTS、AAC サラウンドの再生（デジタル入力のみ）

◎適応ソース

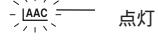
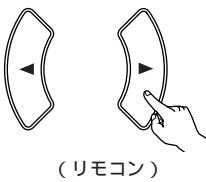
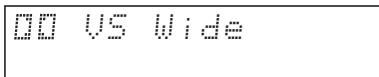
● デジタル入力
　ドルビーデジタルマルチチャンネルソース
　DTSソース
　AACマルチチャンネルソース

（次ページへ続きます。）

5

各種サラウンドパラメーターを選択し、設定します。

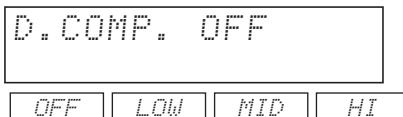
（リモコン）

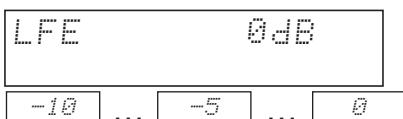
◎ **DOLBY VSモードの設定**

DD VS Wide

※ 選択されているモードが表示されます。
※ 設定できない場合は表示されません。

◎ **D.COMP. の設定**

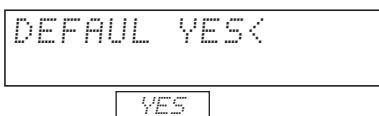
D.COMP. OFF

OFF　LOW　MID　HI
← →

※AACの再生時には、このパラメーターは表示されません。

◎ **LFEレベルの設定**

※ LEFレベルは-10dB〜0dBの範囲で1dB単位で調節できます。

◎ **DEFAULTの設定**

DEFAUL YES<

YES
←

※『YES』を選択すると工場出荷時の初期設定に戻ります。

※ サラウンドパラメーターの表示中は、リモコンのカーソル▲,▼ボタンで前後に項目を切り替えることができます。

※ サラウンドパラメーターの設定が終了したら、再度サラウンドパラメーターボタンを押すと通常状態に戻り、設定した内容は自動的に確定されます。

ご注意

- 『DEFAULT』を選択してカーソルボタン（◀）を押す（『YES』を選択）と、自動的に『D.COMP.』が『OFF』に、『LFE』が初期値に設定されます。（AACソースは『D.COMP.』は無効です。）
- DTS信号の再生は入力モード『DTS』でも再生できます。（41ページ参照）この場合はDTS信号が入力されたときだけデコード、再生をおこないます。

サラウンドパラメーターについて①

DOLBY VS
（ドルビーバーチャルスピーカーモード）

- REF（標準モード）
  標準的なモードです。
- WIDE（ワイドモード）
  フロントチャンネルの音場を拡大します。

※ サラウンドスピーカーを接続している時には、ワイドモードに固定されます。

D.COMP.
（ダイナミックレンジコンプレッション）

- ドルビーデジタル音声またはDTSのダイナミックレンジを調整するパラメーターです。深夜など、比較的小さな音量で再生する場合に『HI』側にすると音のピークを抑え、また小さな音を増幅することにより、ダイナミックレンジが狭くなり、聞きやすくなります。『OFF』の場合は、機能オフとなります。

「OFF」◄►「LOW」◄►「MID」◄►「HI」
ダイナミックレンジ　大 ◄──────► 小

- DTSソースの場合、対応するソフトのみ表示されます。

LFE（ローフリクエンシーエフェクト）

プログラムソースと可変範囲

1. ドルビーデジタル　－10dB〜0dB
2. DTSサラウンド　－10dB〜0dB
3. MPEG2 AAC　－10dB〜0dB

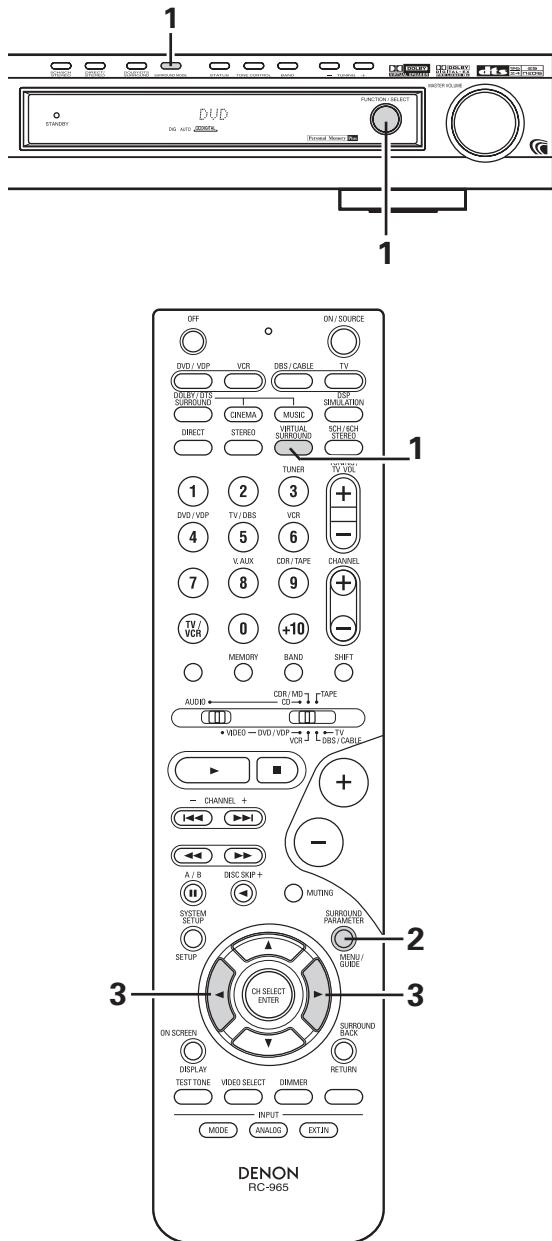
- ドルビーデジタルで録音されたソフトを再生する場合は、正しいドルビーデジタル再生のためにLFEレベルを0dBに設定するようお勧めします。
- DTSで録音された映画ソフトを再生する場合は、正しいDTS再生のためにLFEレベルを0dBに設定するようお勧めします。
- DTSで録音された音楽ソフトを再生する場合は、正しいDTS再生のためにLFEレベルを-10dBに設定するよう勧めします。

2 2チャンネルモードの設定

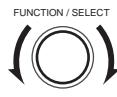
★ ドルビーバーチャルスピーカーでは入力された信号に応じ、自動的にドルビーデジタル、DTS、AAC、サラウンドモードでのドルビーバーチャルスピーカー再生ができます。

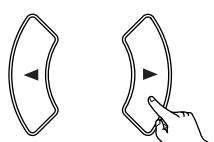
★ 入力信号が2chの場合には、2チャンネルモードの設定により2つの再生モード（バーチャル1、バーチャル2）から1つを選択して設定できます。（バーチャル１モード：工場出荷設定）

バーチャル1：2chソースをドルビープロロジックIIシネマ処理によりバーチャル再生します。

バーチャル2：2chソースをドルビープロロジック処理によりバーチャル再生します。

1 **サラウンドモードを『DOLBY VIRTUAL SPEAKER』（『DOLBY VS』）にします。**

●“ サラウンドモード ” を表示した後、通常の表示に切り替わります。

2 **SURROUND PARAMETERボタンを押して、2chモードを選択します。**

※ デジタル入力が無信号、またはPCM信号、AACの2ch信号のときやアナログ入力を選択したときに選択できます。

3 **リモコンのカーソルボタン（◀,▶）で希望する2chモードを選択します。**

※ サラウンドパラメーターの設定が終了したら、再度サラウンドパラメーターボタンを押すと表示が通常状態に戻り、設定内容は自動的に確定されます。

サラウンドパラメーターについて②

1.VIRTUAL1（バーチャル1モード）
2chソースをドルビープロロジックIIシネマ処理して再生します。ドルビーサラウンド録音された映画ソースをはじめ、一般的なステレオ録音ソースの再生にも適しています。

2.VIRTUAL2（バーチャル2モード）
2chソースをドルビープロロジック処理して、再生します。従来のドルビープロロジック再生互換モードです。ドルビーサラウンド録音ソースに対して録音時の再生イメージに忠実なデコードをおこないます。

（4）DENONオリジナルサラウンドについて

★ 本機はデジタル信号処理により、音場を疑似的に再現する高性能なDSP（デジタル・シグナル・プロセッサー）を内蔵しています。6通り用意されたサラウンドモードを再生するソースに合わせて選択して、リスニングルームの状態によりパラメーターを調節することで、よりリアルでパワフルな音場を再現することができます。なお、各サラウンドモードはドルビーサラウンドプロロジックまたはドルビーデジタル録音されていないソースでもその効果をお楽しみいただけます。

1 各サラウンドモードとその特長

1	5CH/6CH STEREO（チャンネル チャンネル ステレオ）	サラウンド信号のLchにはフロントLchの信号、サラウンド信号のRchにはフロントRchの信号を出力し、センターchにはLchとRchの同相成分を出力します。ステレオサウンドを楽しむためのモードです。
2	MONO MOVIE（モノ ムービー）（注1）	モノラル録音の映画ソースを広がりのある音場の雰囲気で楽しみたいときに選択します。
3	ROCK ARENA（ロック アリーナ）	反射音が回り込んでくるアリーナでのライブコンサートの雰囲気で楽しみたいときに使用します。
4	JAZZ CLUB（ジャズ クラブ）	天井が低く、固い壁に囲まれたライブハウスのような場所で、アーティストがすぐ近くで演奏するような雰囲気で楽しみたいときに選択します。
5	VIDEO GAME（ビデオ ゲーム）	ビデオゲームソースで楽しみたいときに使用します。
6	MATRIX（マトリクス）	ステレオ録音された音楽ソースを、広がり感を強調して楽しみたいときに選択します。サラウンドCHからは、入力された信号の差の成分（広がり感の成分）に遅延処理を加えた信号が出力されます。

※ 再生するプログラムソースによっては、十分な効果が得られないことがあります。
この場合には、サラウンドモードの名称にこだわらずに各モードを試して、お好みの音場を創り出してください。

（注1）：モノラル録音ソースを再生する場合、LまたはRの片チャンネル入力では音が片寄るため、両チャンネルに入力してください。

ご注意

- サンプリング周波数が96kHzのPCM信号再生時は『DIRECT』、『STEREO』、『DOLBY PRO LOGICII』、『DOLBY VIRTUAL SPEAKER』および『DOLBY HEADPHONE』モードでお楽しみいただけます。
  他のサラウンドモードで再生中にこの信号が入力されると、サラウンドモードは自動的に『STEREO』モードに切り替わります。

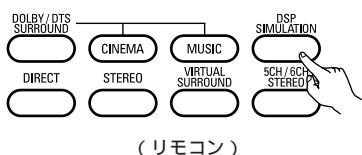
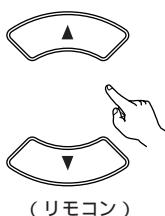
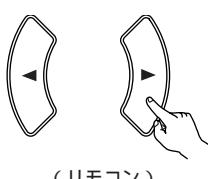
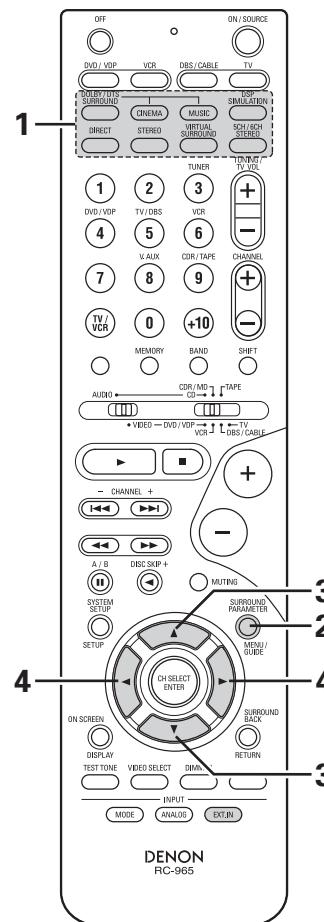
パーソナルメモリープラスについて

本機には、入力ファンクションごとに選択され『パーソナルメモリープラス』という機能を搭載しています。入力ファンクションを切り替えるたびに、前回使用されたときの記憶が自動的に呼び出されます。

◎ パーソナルメモリープラス機能で各入力ファンクションスごとに自動的に記憶される内容
　① サラウンドモード
　② 入力モード選択機能

※ サラウンドパラメーターおよびトーンコントロールの設定、各出力チャンネルの再生レベルは、サラウンドモードごとに記憶します。

2 DSPサラウンドシミュレーションのしかた

■ サラウンドモードとサラウンドパラメーターをリモコンで操作する場合

ご注意

- Defaultを選択してカーソルボタン◁を押すと、自動的にROOM SIZEは“ medium ”、EFFECT LEVELは“ 10 ”、DELAY TIMEは“ 30ms ”、LFEは“ 0dB ”にそれぞれ設定されます。
- ROOM SIZEは各サラウンドモードにおける広がり感の効果を音場の大きさで表現したものです。再生する部屋の大きさを表わすものではありません。

操作のしかた（つづき）

■ サラウンドモードを本体で操作する場合

1

サラウンドモードボタンを押して、ファンクッション/セレクトつまみを回して、サラウンドモードを選択します。

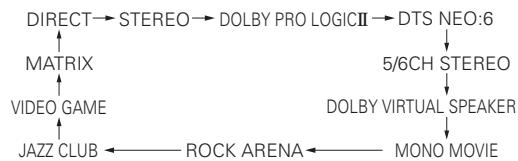
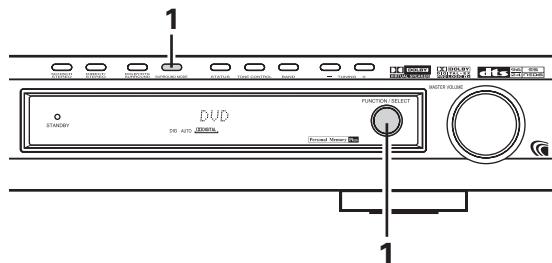
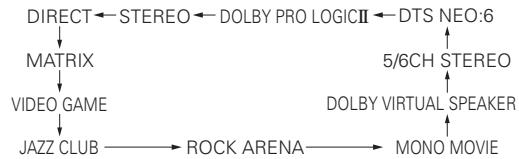
SURROUND MO　　　FUNCTION / SELECT

（本体）　　　（本体）

◎ 時計周り：

DIRECT → STEREO → DOLBY PRO LOGICⅡ → DTS NEO:6
↑　　　　　　　　　　　　　　　　↓
MATRIX　　　　　　　　　　　5/6CH STEREO
↑　　　　　　　　　　　　　　　　↓
VIDEO GAME　　　　　　DOLBY VIRTUAL SPEAKER
↑　　　　　　　　　　　　　　　　↓
JAZZ CLUB ← ROCK ARENA ← MONO MOVIE

◎ 反時計周り：

DIRECT ← STEREO ← DOLBY PRO LOGICⅡ ← DTS NEO:6
↓　　　　　　　　　　　　　　　　↑
MATRIX　　　　　　　　　　　5/6CH STEREO
↓　　　　　　　　　　　　　　　　↑
VIDEO GAME　　　　　　DOLBY VIRTUAL SPEAKER
↓　　　　　　　　　　　　　　　　↑
JAZZ CLUB → ROCK ARENA → MONO MOVIE

ご注意

PCMデジタル信号またはアナログ信号をDOLBY PRO LOGICⅡ、DTS NEO:6のサラウンドモードで再生中に、入力信号がドルビーデジタルでエンコードされたデジタル信号に切り替わった場合には、強制的にドルビーサラウンドモードに切り替わります。
また、入力信号がDTS信号に切り替わった場合には、強制的にDTSサラウンドに切り替わります。

3 サラウンドパラメーターについて

サラウンドパラメーターについて③

1．ドルビープロロジックⅡおよびドルビープロロジックⅡx

- **MODE CINEMA：**
  ドルビーサラウンド録音された映画ソースをはじめ、一般的なステレオ録音ソースの再生に適したモードです。高精度デコーダーによる5チャンネルデコードをおこない、2チャンネルソースでも360度均一なサラウンド音場を実現します。
  主にステレオ音楽成分を多く含むソースの場合、MUSICモードの方がより効果的な場合もあります。試聴結果によって、効果的なモードを選択してください。
- **MODE MUSIC：**
  ステレオ音楽信号のサラウンド再生に適したモードです。音楽信号の残響成分に多く含まれる逆相信号の再生をサラウンドチャンネルでおこない、同時にサラウンドチャンネルの周波数特性をサラウンド音に最適化させることにより、自然な、且つ広がり感のある音楽再生をおこないます。
  音楽信号は、そのジャンル、状態（ライブ音楽等）など信号ソースの内容により音場の広がり方が異なります。そのためMUSICモードには、更に音場の調整を可能とする、各種のオプションパラメーターがあります。

  PANORAMA
  フロントステレオの音場イメージを、サラウンドチャンネルまで拡大します。
  ノーマル状態でステレオイメージが狭く、サラウンド効果が薄いと感じられる場合に効果的です。

  DIMENSION
  音場イメージの中心をフロント、またはサラウンド側にシフトします。
  ソースの残響成分の大きさに拠らず、各チャンネルの再生バランスを調整することが可能です。音場イメージがフロント側、サラウンド側のいずれかに偏った場合に、それらを補正することができます。

  CENTER WIDTH
  センターの信号成分の再生方法を、センターチャンネルのみの再生からフロントチャンネルのみの再生の間で調整します。
  セパレーションを重視したセンターチャンネル再生をおこなった場合、フロントチャンネルの音場について定位が明確化する反面、全体の音場イメージがセンターに集中したり、各チャンネル間の繋がりが希薄に感じられることがあります。このパラメーターを調整することにより、音場イメージの安定感を増加させ、自然な左右の広がりを得ることができます。
- **MODE GAME**
  従来のMUSIC/CINEMAモードに加えて、ゲームに最適なGAMEモードに対応しています。GAMEモードは、2チャンネル音声に対してのみ使用できます。
- **MODE DOLBY PL：**
  従来のドルビープロロジック再生互換モードです。ドルビーサラウンド録音ソースに対して、録音時の再生イメージに忠実なデコードをおこないます。

2．DTS NEO:6

- **MODE CINEMA：**
  映画再生に最適なモードです。セパレーション特性を重視してデコードすることにより、2チャンネルソースでも6.1チャンネルソースと同じような雰囲気で楽しむことが可能です。
  同相成分は主にセンター（C）に、逆相成分はサラウンド（SL,SR,SB）に振り分けられる特性を持つため、従来のサラウンド録音されたソース再生にも効果があります。
- **MODE MUSIC：**
  主に音楽再生に適したモードです。フロントチャンネル（FL,FR）の信号はデコーダーを通らずそのまま再生されるため音質の変化が無く、更にセンター（C）とサラウンド（SL,SR,SB）チャンネルから出力されるサラウンド信号の効果により、音場にナチュラルな拡がり感が加わります。

  CENTER IMAGE
  センターチャンネルの広がりを調整するパラメーターです。

サラウンドパラメーターについて④

CINEMA EQ.（シネマイコライザー）：
映画ソフト再生中に会話部分が耳ざわりと感じるときに使用します。（高域の成分を下げます。ドルビープロロジックⅡ、ドルビーデジタル、DTSサラウンド、DTS NEO;6、MPEG-2 AAC、ワイドスクリーンモードのみ有効です。）

D.COMP.（ダイナミックレンジコンプレッション）：
ダイナミックレンジの圧縮をおこないます。（ドルビーデジタルならびにDTSで録音されたプログラムソース再生時のみ有効です。）“ OFF ”、“ LOW ”、“ MID ”（MIDDLE）、“ HI ”（HIGH）の4つのパラメーターから選択します。
このパラメーターは、DTSソースを再生する場合、対応するソフトのみ表示されます。

LFE（ローフリクエンシーエフェクト）：
プログラムソースと可変範囲：
1. ドルビーデジタル　－10dB～0dB
2. DTSサラウンド　－10dB～0dB
3. MPEG-2 AAC　－10dB～0dB

ドルビーデジタルで録音されたソフトを再生する場合は、正しいドルビーデジタル再生のためにLFEレベルを0dBに設定するようおすすめします。
DTSで録音された映画ソフトを再生する場合は、正しいDTS再生のためにLFEレベルを0dBに設定するようおすすめします。
DTSで録音された音楽ソフトを再生する場合は、正しいDTS再生のためにLFEレベルを－10dBに設定するようおすすめします。

TONE（トーン）：
トーンコントロールの調整をおこないます。
ダイレクト以外のサラウンドモードで設定が可能です。サラウンドモードごとに設定が可能です。
（Dolby/DTS/AACサラウンドモードは、共通です。）

AFDM（Auto Flag Detect Mode）：
OFF ………………従来の5.1chソースおよび下記の認識信号が記録されていないソースに対して6.1ch再生をおこなう場合は“ OFF ” モードに設定してください。
ON…………………この機能は専用の認識信号が記録されたソフトに対してのみ働きます。再生するソフトがTHXサラウンドEX、またはDTS ESで記録されている場合には、自動的にサラウンドバックスピーカーを用いた6.1ch再生をおこない、そうでない場合には、サラウンドバックスピーカーを用いない通常の5.1chなどの再生をおこなう機能です。

SB CH OUT（サラウンドバックチャンネルアウト）：
“ OFF ”………………サラウンドバックスピーカーを使用しない再生をおこないます。
“ NON-MTRX ”……サラウンドバックスピーカーを使用した再生をおこないます。
サラウンドバックチャンネルにはL、Rチャンネルともにサラウンドチャンネルと同じ信号が出力されます。
“ MTRX ON ”………サラウンドバックスピーカーを使用した再生をおこないます。
デジタルマトリックス処理をおこないサラウンドバックチャンネルを再生します。
“ ES MTRX ”………dts信号を再生する場合にサラウンドバック信号をデジタルマトリックス処理をして再生するモードです。
“ ES DSCRT ” ……dts信号でディスクリート6.1chソースである認識番号が含まれている場合に、リースに含まれているサラウンドバック信号を再生するモードです。
“ PLⅡx CINEMA ”…PLⅡx CINEMAモードでデコードし、サラウンドバック信号を再生するモードです。
PLⅡx CINEMAモードで再生する場合はシステムセットアップでSp.Backを2spkrsに設定します。
“ PLⅡx MUSIC ” …PLⅡx MUSICモードでデコードし、サラウンドバック信号を再生するモードです。
PLⅡx MUSICモードで再生する場合は、システムセットアップでSp.Backを1spkrまたは2spkrsに設定します。

※ 2チャンネルソースの場合
“ OFF ” ……………サラウンドバックを使用しない再生をおこないます。
“ ON ”………………サラウンドバックを使用する再生をおこないます。

サラウンドパラメーターについて④のつづき

ROOM SIZE（ルームサイズ）：

音場の大きさを設定します。
“ small ”、“ med.s ”、“ medium ”、“ med.l ”、“ large ” の5つのパラメーターがあります。“ small ” では小さな音場空間、“ large ” では大きな音場空間を再現します。

EFFECT（エフェクト）：

サラウンドの効果の大きさを設定します。
“ 1 ” ～ “ 15 ” の15段階で設定できます。音が歪んで変に感じられるときは、低いレベルに設定してください。

DELAY TIME（ディレイタイム）：

マトリクスモードに限り、“ 0ms ” ～ “ 110ms ” の範囲でディレイタイムを設定できます。

Subwoofer ON/OFF：

サブウーハー出力のON/OFFを設定できます。

■ 入力信号に対するサラウンドモード表示

モード	入力信号								
	ANALOG	LINEAR PCM	DTS			DOLBY DIGITAL		AAC	
			DTS (5.1ch)	DTS 96/24 (5.1ch)	DTS (6.1ch)	D.D. (2ch)	D.D. (5.1ch)	2ch	2ch以外
PURE DIRECT, DIRECT	○	○	○	○	○	○	○	○	○
STEREO	○	○	○	○	○	○	○	○	○
DTS SURROUND	DTS NEO:6	DTS NEO:6	＊DTS+PLⅡx (CINEMA,MUSIC)	＊DTS+PLⅡx (CINEMA,MUSIC)	＊DTS+PLⅡx (CINEMA,MUSIC)	×	×	×	×
DOLBY SURROUND	＊DOLBY PRO LOGIC Ⅱ DOLBY PRO LOGIC Ⅱx (CINEMA,MUSIC,GAME)	＊DOLBY PRO LOGIC Ⅱ DOLBY PRO LOGIC Ⅱx (CINEMA,MUSIC,GAME)	×	×	×	＊DOLBY PRO LOGIC Ⅱ DOLBY PRO LOGIC Ⅱx (CINEMA,MUSIC,GAME)	＊DOLBY DIGITALEX DOLBY DIGITAL DOLBY DIGITAL + PRO LOGIC Ⅱx (CINEMA,MUSIC)	＊DOLBY PRO LOGIC Ⅱ DOLBY PRO LOGIC Ⅱx (CINEMA,MUSIC,GAME)	MPEG2+AAC AAC+PL Ⅱx (CINEMA,MUSIC)
DTS SIMULATION	○	○	×	×	×	×	×	×	×

○：選択可
＊：サラウンドパラメーター『SB CH OUT』の設定によりサラウンドモード名が変わります。
◎：入力信号によりサラウンドモード名が変わります。
×：選択不可

■ サラウンドモードとパラメーター 一覧表

モード	チャンネル出力						ドルビーデジタル信号再生時	DTS信号再生時	PCM信号再生時 (96k)	アナログ信号再生時	AAC信号再生時
	FRONT L/R	CENTER	SURROUND L/R	SUB-WOOFER	SURROUND BACK	SURROUND BACK(PRE OUT)L/R					
DIRECT	○	×	×	◎	×	×	○	○	○(○)	○	○
STEREO	○	×	×	◎	×	×	○	○	○(○)	○	○
EXTERNAL INPUT	○	◎	◎	◎	×	×	×	×	×	○	×
DOLBY PRO LOGICⅡ	○	◎	◎	◎	◎	◎	○ ＊	×	○(○)	○	×
DOLBY PRO LOGICⅡx	○	◎	◎	◎	◎	◎	○ ＊	×	○	○	×
DTS NEO:6	○	◎	◎	◎	◎	◎	×	○ ＊	○	○	×
DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	×	×	×	×
DTS SURROUND (DTS ES MTRX 6.1)	○	◎	◎	◎	◎	◎	×	○	×	×	×
MPEG2 AAC	○	◎	◎	◎	◎	◎	×	×	×	×	○
5/6 CH STEREO	○	◎	◎	◎	◎	◎	×	×	○	○	×
ROCK ARENA	○	◎	◎	◎	◎	◎	×	×	○	○	×
JAZZ CLUB	○	◎	◎	◎	◎	◎	×	×	○	○	×
VIDEO GAME	○	◎	◎	◎	◎	◎	×	×	○	○	×
MONO MOVIE	○	◎	◎	◎	◎	◎	×	×	○	○	×
MATRIX	○	◎	◎	◎	◎	◎	×	×	○	○	×
DOLBY VIRTUAL SPEAKER	○	◎	◎	◎	×	×	○	○	○(○)	○	○
DOLBY HEADPHONE	○(HPのみ)	×	×	×	×	×	○	○	○(○)	○	○

○：信号有り
×：信号無し
◎：スピーカーコンフィグレーションの設定により、
ON/OFF可能

○：制御可能
×：制御不可能

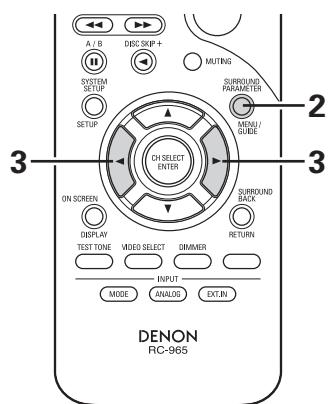
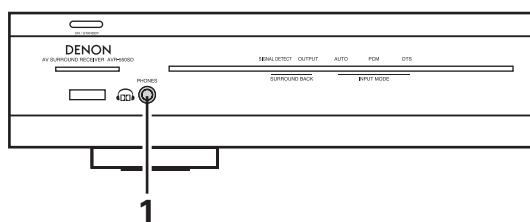
＊：2チャンネル時のみ

モード	パラメーター（　　）内は初期値													
		サラウンドパラメーター							プロロジックⅡ/Ⅱx MUSIC MODEのみ			NEO:6 MUSIC MODEのみ	ドルビー/DTS信号再生時	
	TONE CONTROL	MODE	DECODER	CINEMA EQ	ROOM SIZE	EFFECT	DELAY TIME	SB CH OUT	PANORAMA	DIMENSION	CENTER WIDTH	CENTER IMAGE	D. COMP	LFE
DIRECT	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)
STEREO	○ (0dB)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)
EXTERNAL INPUT	○ (0dB)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
DOLBY PRO LOGICⅡ	○ (0dB)	○ (CINEMA)	×	○ (＊3)	×	×	×	○	○ (OFF)	○ (3)	○ (3)	×	○ (OFF)	×
DOLBY PRO LOGICⅡx	○ (0dB)	○ (CINEMA)	×	○ (＊4)	×	×	×	○	○ (OFF)	○ (3)	○ (3)	×	○ (OFF)	×
DTS NEO:6	○ (0dB)	○ (CINEMA)	×	○ (＊4)	×	×	×	○	×	×	×	○ (0.2)	○ (OFF)	×
DOLBY DIGITAL	○ (0dB)	×	×	○ (OFF)	×	×	×	○	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)
DTS SURROUND (DTS ES MTRX 6.1)	○ (0dB)	×	×	○ (OFF)	×	×	×	○	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)
MPEG2 AAC	○ (0dB)	×	○ (OFF)	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (OFF)
5/6 CH STEREO	○ (0dB)	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)
ROCK ARENA	○ (0dB)	×	×	×	○ (Medium)	○ (10)	×	○	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)
JAZZ CLUB	○ (0dB)	×	×	×	○ (Medium)	○ (10)	×	○	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)
VIDEO GAME	○ (0dB)	×	×	×	○ (Medium)	○ (10)	×	○	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)
MONO MOVIE	○ (0dB)	×	×	×	○ (Medium)	○ (10)	×	○	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)
MATRIX	○ (0dB)	×	○	×	×	×	○ (30msec)	○	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)
DOLBY VIRTUAL SPEAKER	○ (0dB)	○ ＊1	(VIRTUAL1)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)
DOLBY HEADPHONE	○ (0dB)	○(DH1)	○ ＊2	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○ (OFF)	○ (0dB)

（＊1）：サラウンドスピーカー無し時のみ
（＊2）：2チャンネルソース再生時のみ
（＊3）：CINEMA, DOLBY PLモードのみ
（＊4）：CINEMAモードのみ

○：制御可能
×：制御不可能

(5) ドルビーヘッドホンでの再生のしかた

★ 本機はドルビーラボラトリーズとレイクテクノロジー社との共同開発によるヘッドホン再生における立体音響技術であるドルビーヘッドホンモードを搭載しています。
★ サラウンドモードが DOLBY DTS、 DOLBY VIRTUAL、 のとき本機のヘッドホン端子にヘッドホンプラグを挿入するとドルビーヘッドホンモードになります。
★ ドルビーヘッドホンモードは、音場効果により DH1, DH2, DH3 のモードと通常のステレオ再生をする BYPASS の4モードが選択できます。
★ ドルビーデジタルモード、DTS, AAC, のマルチチャンネルソースに対応しており、2チャンネルソースに対しても2チャンネルモード設定により、シネマ、ミュージック1、ミュージック2での再生が選択できます。

1 **ヘッドホンジャックにヘッドホン（別売り）を差し込みます。**

- ヘッドホンプラグを差し込むと自動的にスピーカー出力がOFFとなり、スピーカーより音は出ません。

2 **サラウンドパラメーターを表示させます。**

（リモコン）

3 **各種サラウンドパラメーターを選択し、設定します。**

（リモコン）

- **DOLBY Hモードの設定**

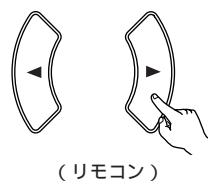
DOH DH1

DH1 / DH2 / DH3 / BYPASS
← →

- **2デコーダーの設定**

DOH CINEMA

- **操作のたびに下記のように切り替わります。**

CINEMA → MUSIC1 ↔ MUSIC2 → CINEMA

※ 無信号または2チャンネルソース再生時に選択できます。

以下（3）ドルビーバーチャルスピーカーでの再生のしかたと同様のパラメーターがあります。

◎ D.COMPの設定
◎ LFEレベルの設定
◎ DEFAULTの設定

※ サラウンドパラメーターの設定が終了したら、再度サラウンドパラメーターボタンを押すか、ENTERボタンを押すと表示が通常状態に戻り、設定内容は自動的に確定されます。

操作のしかた（つづき）

サラウンドパラメーターについて⑤

DOLBY H（ドルビーヘッドホンモード）

DH1 …………**リファレンスルーム**
（小さな残響音の少ない部屋）

DH2 …………**ライブな部屋**
（DH1よりやや残響間の多い部屋）

DH3 …………**大きな部屋**
（DH1より大きな部屋で距離感や音の拡散効果が得られます。）

DECODER（デコーダー）

アナログ、PCMなどの2チャンネルソースを再生中に選択できます。以下のデコーダーでマルチチャンネル化してからドルビーヘッドホンで再生します。
BYPASSモード時には表示されません。

CINEMA ……Dolby Pro Logic II Cinema モード
MUSIC1 ……Dolby Pro Logic II Music モード
MUSIC2 ……2チャンネルのままドルビーヘッドホンで再生します。

（6）その他の一般操作のしかた（再生したあとに）

1 音質を調節するには

★ トーンコントロールはダイレクトモードでは動作しません。
★ トーンコントロールの設定は、フロントスピーカーのみおこなえます。
★ トーンコントロールをおこなった場合は、主音量レベルを18dBまで調整できなくなります。
（主音量レベルの最大値はサラウンドモードによって異なります。）

1 **トーンコントロールボタンを押します。**
※ ボタンを押すたびに次のように切り替わります。

DEFEAT → BASS → TREBLE

（本体）

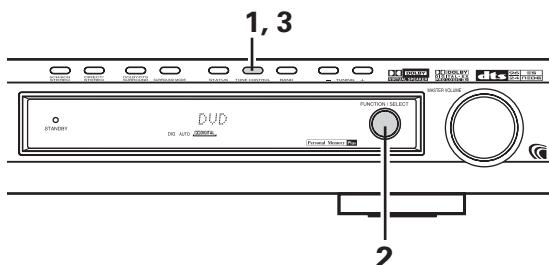
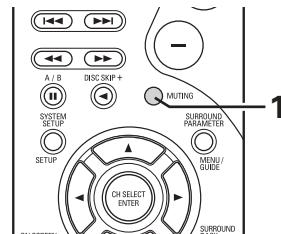
2 **調整するボリウム名を表示させた状態でセレクトつまみを回して、レベルを調整します。**

（本体）

● 強くするとき：右に回す。
（＋6dBまで1dBステップで調整可能です。）
● 弱くするとき：左に回す。
（－6dBまで1dBステップで調整可能です。）

3 **音質を調節しない場合は、トーンデフィートオンモードに設定します。**

（本体）

※ 信号が音質調整回路（BASS、TREBLE）を通らないため、より高音質でお楽しみいただけます。

2 一時的に音を消すには（ミューティング）

1 **ミューティングボタンを押します。**
※ 解除するときは、もう一度ミューティングボタンを押してください。

（リモコン）

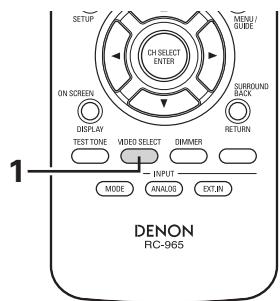
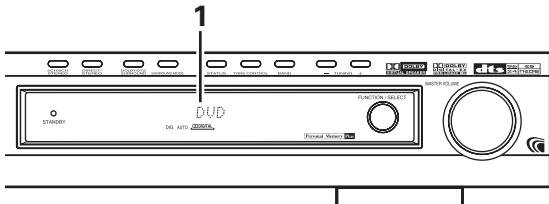
ご注意

● 主音量調節つまみまたは主音量調節ボタンを操作すると解除されます。
● 本機の電源をオフにすると、設定が解除されます。

操作のしかた（つづき）

3 今聞いている音に好きな映像を組み合わせるには

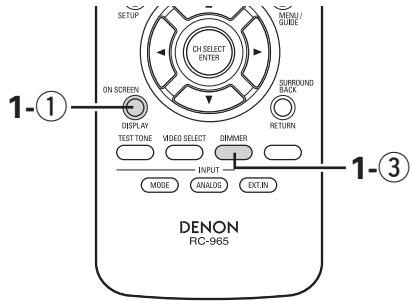
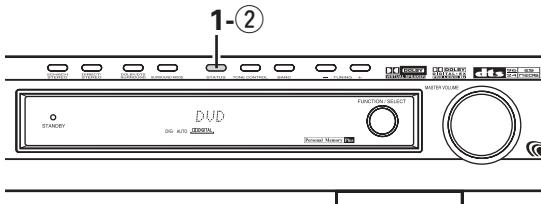
ディスプレイ　IN=V SOURCE

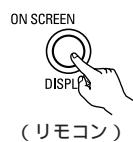
1

好きな映像が出るまで、ビデオセレクトボタンを押します。

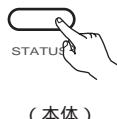
（リモコン）

※ 解除するときには、次のいずれかの操作をおこなってください。
- もう一度ビデオセレクトボタンを押して、“ SOURCE ” を選択します。
- または入力ソースをビデオ系入力（DVD/VDP, TV/DBS, VCR）に切り替えます。

4 今再生しているプログラムソースなどを確認するには

1

① オンスクリーン/ディスプレイボタンを押します。
- 押すたびに、ビデオモニター出力端子に接続したモニターテレビの画面上で現在のプログラムソースやサラウンドなど各種設定が確認できます。

（リモコン）

② ステータスボタンを押します。
- 押すたびに、ディスプレイ上で現在のプログラムソースやサラウンドなど各種設定が確認できます。

（本体）

③ ディマーボタン押すと、ディスプレイの明るさを調節できます。

※ 押すたびに明るさが3段階に変化し、最後には消すことができます。

（リモコン）

（7）より高音質な再生のしかた

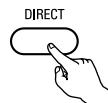
★ 本機には音楽専用の2CH再生モードとして、2つのモードを装備しています。
お好みに合わせてご使用ください。

1

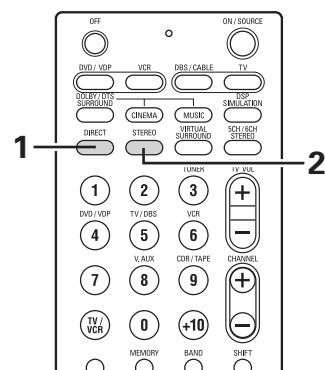
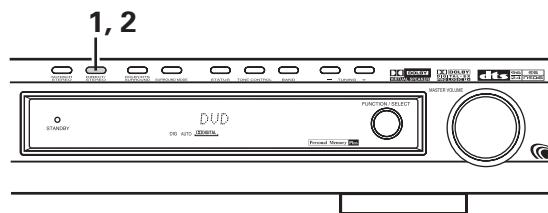
DIRECT（ダイレクト）モード

● 映像を見ながら、音の良い2チャンネル再生ができるモードです。音声信号の処理経路がトーン回路などを通らずストレートに伝送されるので、より良い音質で再生ができます。

（本体）　（リモコン）

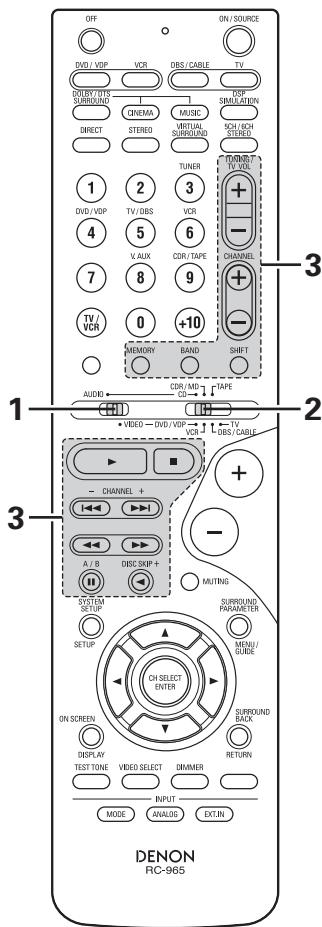
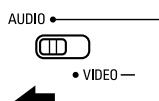
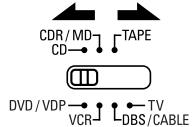
2

STEREO（ステレオ）モード

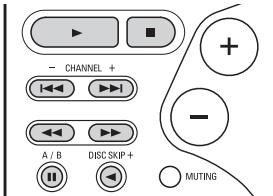
● 映像を見ながら、トーン調整をして自在に音の印象を変化させて楽しむモードです。

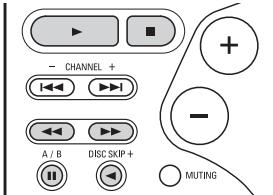
（本体）　（リモコン）

10 リモコンによる他機器の操作のしかた

★ 付属のリモコン（RC-965）は本機の操作だけでなく、DENON製リモコン対応のAV機器を操作することができます。また、他のリモコンのコントロール信号を記憶していますので、DENON製品以外のリモコン対応機器を操作することができます。

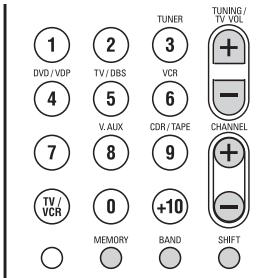
(1) DENON製オーディオ機器の操作のしかた

★ 操作する前に各機器の電源を入れてください。
★ お手持ちの機器の形式、年式によって操作できないボタンもあります。

1	**モードスイッチ1を『AUDIO』の位置にします。**
2	**モードスイッチ2を操作したい機器（CD、CDR/MDまたはTAPE）の位置にします。**
3	**オーディオ機器を操作します。** ● 詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。 ※ 機種によっては操作できないものがあります。

3 つづき

1. CDプレーヤー（CD）またはCDレコーダー、MDレコーダー（CDR/MD）のシステムボタン

▶	：再生
■	：停止
⏮、⏭	：オートサーチ（頭出し）
◀◀、▶▶	：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
❚❚	：一時停止
DISC SKIP＋	：ディスクの切り替え（CDチェンジャーのみ）

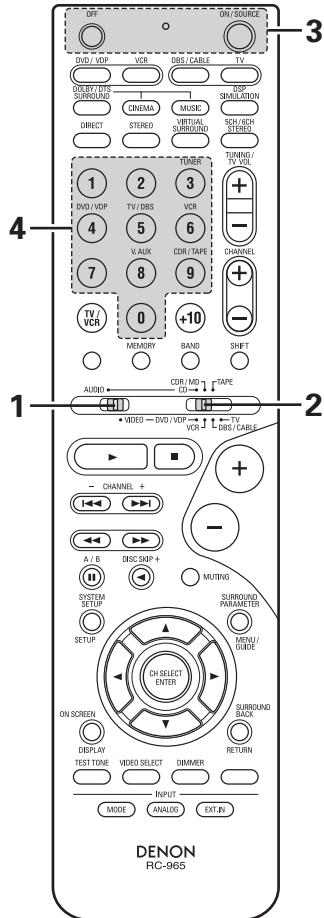
2. テープデッキ（TAPE）のシステムボタン

▶	：正方向再生
■	：停止
◀◀	：巻き戻し
▶▶	：早送り
A / B	：A / Bデッキの切り替え
◀	：逆方向再生

3. チューナーのシステムボタン

※ チューナーはモードスイッチ2が『CD』、『CDR/MD』または『TAPE』のどの位置でも操作することができます。

TUNING ＋、－	：チューニングのアップ/ダウン
CHANNEL ＋、－	：プリセットチャンネルのアップダウン
SHIFT	：プリセットチャンネル範囲の切り替え
BAND	：AM/FM受信バンドの切り替え
MEMORY	：プリセットメモリー

リモコンによる他機器の操作のしかた（つづき）

（2）プリセットメモリーについて

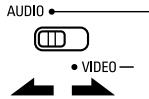
★ お手持ちの機器のメーカーをプリセットメモリーすることにより、付属のリモコンで各社の機器を操作することができます。なお、**機種によっては操作できないものや正常に動作しないボタンがあります。**

■ 工場出荷時および初期化時のプリセットコードは以下の通りです。

CD ······································DENON
CDR/MD ·····················DENON (CDR)
TAPE ··································DENON
DVD/VDP ····················DENON (DVD)
VCR ···································HITACHI
DBS/CABLE ················ABC (ABLE)
TV ·····································HITACHI

■ DENON製DVDプレーヤーのプリセットコード

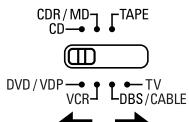
DENON製DVDプレーヤー	プリセットコード番号
DVD-900/1000/1500/2800 /3800/A1/770SD/550SD	111
DVD-800/1600/2000 DVD-2500/3300	014

※ 工場出荷時の初期設定は『111』です。

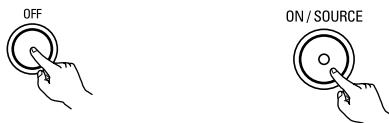
1 **モードスイッチ1を『AUDIO』または『VIDEO』の位置にします。**

AUDIO
VIDEO

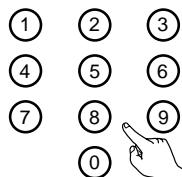
※ CD、CDR/MDおよびTAPEをプリセットメモリーする場合は、『AUDIO』の位置にしてください。
※ DVD/VDP、VCR、DBS/CABLEおよびTVをプリセットメモリーする場合は、『VIDEO』の位置にしてください。

2 **モードスイッチ2をメモリーしたい機器の位置にします。**

CDR/MD CD TAPE
DVD/VDP VCR TV DBS/CABLE

3 **電源ON/SOURCEボタンとOFFボタンを同時に押します。**

● 送信表示LED（インジケーター）が点滅します。

OFF　ON/SOURCE

4 **リモコンコード表（66〜70ページ）を参照して、メモリーする機器のメーカーに対応する数字（3桁）を入力します。**

1 2 3
4 5 6
7 8 9
0

5 **続けて他の機器のメモリーをおこなう場合は操作*1*〜*4*をくり返しおこなってください。**

ご注意

- プリセットメモリー中でも押したボタンの信号は送信されますので、メモリー中は誤動作防止のためリモコン受光部を覆ってください。
- リモコンコード表中のメーカー製品であっても形式・年式によっては使用できないものがあります。
- メーカーによってはリモコンコードを数種類持っています。動作しない場合は設定を変えて確認してください。
- **CDR/MD、DVD/VDPおよびDBS/CABLEは、各々どちらか一方の機器しかプリセットメモリーすることができません。**

【各メーカーのプリセットコードの組み合わせ】

※ *[ ]は、工場出荷時または初期化時のプリセットコードを示します。

DVD

Denon	014, ***[111]**
Aiwa	009
Hitachi	010
JVC	006, 011
Konka	012, 013
Magnavox	005
Mitsubishi	004
Panasonic	014
Philips	005, 015, 016, 017
Pioneer	003, 008
Sanyo	018
Sony	002, 019, 020
Toshiba	001, 021, 022
Zenith	023

VDP

Denon	028, 029, 112
Magnavox	026
Mitsubishi	028
Panasonic	029, 030
Philips	026
Pioneer	028, 031
RCA	032
Sony	033, 034, 035, 036

VCR

Admiral	081
Aiko	095
Aiwa	009
Akai	026, 027, 070, 072, 082, 083, 084
Alba	055
Amstrad	009
ASA	042
Asha	087
Audio Dynamic	005, 085
Audiovox	088
Beaumark	087
Broksonic	086, 093
Calix	088
Candle	006, 087, 088, 089, 090
Canon	049, 057
Capehart	025, 055, 056, 071
Carver	015
CCE	095
Citizen	006, 007, 087, 088, 089, 090, 095
Craig	007, 087, 088, 091, 115
Curtis Mathes	006, 049, 073, 080, 087, 090, 092
Cybernex	087
Daewoo	025, 055, 059, 074, 089, 093, 095, 096
Daytron	025, 055
DBX	005, 085
Dumont	053
Dynatech	009
Electrohome	001, 088, 097
Electrophonic	088
Emerson	001, 009, 017, 027, 086, 088, 089, 092, 093, 097, 100, 101, 102, 103, 104, 117
Fisher	009, 028, 031, 053, 054, 091, 099, 115
GE	007, 011, 049, 050, 051, 052, 073, 080, 087
Go Video	047, 048
Goldstar	000, 006, 012, 062, 088
Gradiente	094
Grundig	042
Harley Davidson	094
Harman Kardon	040, 062
Hi-Q	091
Hitachi	009, 013, 023, 026, 058, ***[108]**, 109, 110, 111
JC Penny	004, 005, 007, 023, 028, 049, 062, 085, 087, 088
Jensen	013, 026
JVC	004, 005, 006, 026, 029, 043, 044, 045, 046, 085
Kenwood	004, 005, 006, 026, 029, 033, 045, 085, 090
Kodak	088
Lloyd	009, 094
LXI	088
Magnavox	015, 016, 042, 049, 063, 106
Magnin	087
Marantz	004, 005, 006, 015, 042, 049, 085, 090
Marta	088
MEI	049
Memorex	009, 033, 049, 053, 060, 081, 087, 088, 091, 094, 115
Metz	123, 124, 125, 126, 127, 128
MGA	001, 017, 027, 041, 097
MGN Technology	087
Midland	011
Minolta	013, 023
Mitsubishi	001, 003, 008, 013, 014, 017, 027, 029, 039, 040, 041, 045, 097

Motorola	081
Montgomery Ward	001, 002, 007, 009, 049, 063, 081, 115, 117
MTC	009, 087, 094
Multitech	007, 009, 011, 087, 090, 094
NAD	038
NEC	004, 005, 006, 018, 026, 029, 045, 061, 062, 085
Nikko	088
Noblex	087
Optimus	081, 088
Optonica	021
Panasonic	024, 049, 064, 066, 067, 068, 069, 107
Perdio	009
Pentax	009, 013, 023, 058, 090
Philco	015, 016, 049
Philips	015, 021, 042, 049, 105
Pilot	088
Pioneer	005, 013, 029, 036, 037, 038, 045, 085
Portland	025, 055, 090
Proscan	063, 080
Pulsar	060
Quartz	033
Quasar	034, 035, 049
Radio Shack	001, 002, 021, 081, 087, 088, 091, 094, 097, 098, 115
Radix	088
Randex	088
RCA	007, 013, 019, 023, 058, 063, 064, 065, 073, 080, 082, 087
Realistic	009, 021, 031, 033, 049, 053, 081, 087, 088, 091, 094, 097, 098
Ricoh	055
Salora	033, 041
Samsung	007, 011, 051, 059, 070, 083, 087, 089, 113
Sanky	081
Sansui	005, 026, 029, 045, 061, 085, 114
Sanyo	032, 033, 053, 087, 091, 115, 116
SBR	042
Scott	017, 020, 086, 089, 093, 117
Sears	013, 023, 028, 031, 033, 053, 054, 088, 091, 098, 099, 115
Sentra	055
Sharp	001, 002, 021, 097
Shogun	087
Sony	075, 076, 077, 078, 079, 121, 122
STS	023
Sylvania	009, 015, 016, 017, 041, 049, 094
Symphonic	009, 094
Tandy	009
Tashiko	009, 088
Tatung	004, 026, 030
Teac	004, 009, 026, 094
Technics	024, 049
Teknika	009, 010, 022, 049, 088, 094
TMK	087, 092
Toshiba	013, 017, 020, 041, 059, 089, 098, 099, 117
Totevision	007, 087, 088
Unirech	087
Vecrtor Research	005, 062, 085, 089, 090
Victor	005, 045, 046, 085
Video Concepts	005, 027, 085, 089, 090
Videosonic	007, 087
Wards	013, 021, 023, 087, 088, 089, 091, 094, 097, 118, 119, 120
XR-1000	094
Yamaha	004, 005, 006, 026, 062, 085
Zenith	060, 078, 079

TV

Admiral	045, 121
Adventura	122
Aiko	054
Akai	016, 027, 046
Alleron	062
A-Mark	007
Amtron	061
Anam	006, 007, 036
Anam National	061, 147
AOC	003, 007, 033, 038, 039, 047, 048, 049, 133
Archer	007
Audiovox	007, 061
Bauer	155
Belcor	047
Bell & Howell	045, 118
Bradford	061
Brockwood	003, 047
Candle	003, 030, 031, 032, 038, 047, 049, 050, 122
Capehart	003
Celebrity	046
Circuit City	003
Citizen	029, 030, 031, 032, 034, 038, 047, 049, 050, 054, 061, 095, 122, 123
Concerto	031, 047, 049
Colortyme	003, 047, 049, 135
Contec	013, 051, 052, 061
Cony	051, 052, 061
Craig	004, 061

(次ページへ続きます。)

Crown	029
Curtis Mathes	029, 034, 038, 044, 047, 049, 053, 095, 118
Daewoo	027, 029, 039, 048, 049, 054, 055, 106, 107, 137
Daytron	003, 049
Dimensia	044
Dixi	007, 015, 027
Electroband	046
Electrohome	029, 056, 057, 058, 147
Elta	027
Emerson	029, 051, 059, 060, 061, 062, 118, 123, 124, 139, 148
Envision	038
Etron	027
Fisher	014, 021, 063, 064, 065, 118
Formenti	155
Fortress	012
Fujitsu	004, 062
Funai	004, 062
Futuretech	004
GE	020, 036, 037, 040, 044, 058, 066, 088, 119, 120, 125, 147
Goldstar	000, 015, 029, 031, 039, 048, 051, 056, 057, 067, 068, 069, 116
Grundy	062
Hitachi	029, 031, 051, 052, 070, 111, 112, 113, 124, ***[134]**
Hitachi Pay TV	151
Infinity	017, 071
Janeil	122
JBL	017, 071
JC Penny	020, 034, 039, 040, 041, 048, 050, 058, 066, 069, 076, 088, 090, 095, 125, 136, 159
JCB	046
JVC	019, 051, 052, 072, 073, 091, 117, 126
Kawasho	018, 046
Kenwood	038, 056, 057
Kloss	010, 032
Kloss Novabeam	005, 122, 127, 131
KTV	074, 123
Loewe	071
Logik	144
Luxman	031
LXI	008, 014, 017, 024, 040, 044, 063, 071, 075, 076, 077, 118, 125
Magnavox	005, 010, 017, 030, 033, 038, 050, 056, 071, 078, 079, 085, 089, 108, 109, 110, 127, 131, 132, 145
Marantz	015, 017, 071, 080
Matsui	027
Memorex	014, 027, 045, 083, 118, 144
Metz	160, 161, 162, 163
MGA	001, 039, 048, 056, 057, 058, 065, 081, 083
Midland	125
Minutz	066
Mitsubishi	001, 016, 039, 048, 056, 057, 058, 065, 081, 082, 083, 105
Montgomery Ward	011, 020, 144, 145, 146
Motorola	121, 147
MTC	031, 034, 039, 048, 095
NAD	008, 075, 076, 128
National	002, 036, 061, 147
National Quenties	002
NEC	031, 038, 039, 048, 057, 084, 086, 135, 147
Nikko	054
NTC	054
Optimus	128
Optonica	011, 012, 093, 121
Orion	004, 139
Panasonic	002, 009, 017, 036, 037, 071, 141, 143, 147
Philco	005, 010, 030, 050, 051, 056, 079, 085, 127, 131, 132, 145, 147
Philips	005, 015, 017, 050, 051, 056, 078, 087, 088, 089, 131, 132, 147
Pioneer	124, 128, 142
Portland	054
Price Club	095
Proscan	040, 044, 125
Proton	035, 051, 092, 129
Pulsar	042
Quasar	036, 037, 074, 141
Radio Shack	011, 044, 063, 093, 118
RCA	040, 044, 125, 130, 137, 151, 152
Realistic	014, 063, 093, 118
Saisho	027
Samsung	003, 015, 034, 053, 055, 057, 094, 095, 136, 153
Sansui	139
Sanyo	013, 014, 021, 022, 063, 064, 081, 096
SBR	015
Schneider	015
Scott	062
Sears	008, 014, 021, 022, 023, 024, 025, 040, 052, 057, 062, 063, 064, 065, 073, 075, 076, 097, 098, 125, 159
Sharp	011, 012, 013, 026, 093, 099, 100, 104, 121

Siemens	013
Signature	045, 144
Simpson	050
Sony	043, 046, 138, 146, 150
Soundesign	030, 050, 062
Spectricon	007, 033
Squareview	004
Supre-Macy	032, 122
Supreme	046
Sylvania	005, 010, 017, 030, 078, 079, 085, 089, 101, 127, 131, 132, 145, 155
Symphonic	004, 148
Tandy	012, 121
Tatung	036, 124
Technics	037
Teknika	001, 030, 032, 034, 052, 054, 078, 083, 095, 144, 156, 157
Tera	035, 129
Toshiba	008, 014, 034, 063, 075, 076, 095, 097, 136, 158, 159
Universal	020, 066, 088
Victor	019, 073, 126
Video Concepts	016
Viking	032, 122
Wards	005, 045, 066, 078, 085, 088, 089, 093, 102, 103, 131, 132, 148
Zenith	042, 114, 115, 140, 144, 149
Zonda	007

CABLE

ABC	006, ***[007]**, 008, 009
Archer	010, 011
Century	011
Citizen	011
Colour Voice	012, 013
Comtronic	014
Eastern	015
Garrard	011
Gemini	030, 033, 034
General Instrument	030, 031, 032
Hytex	006
Jasco	011
Jerrold	009, 016, 017, 026, 032
Magnavox	018
Movie Time	019
NSC	019
Oak	000, 006, 020
Panasonic	001, 005
Philips	011, 012, 013, 018, 021
Pioneer	002, 003, 022
RCA	029
Regency	015
Samsung	014, 023
Scientific Atlanta	004, 024, 025
Signal	014
SL Marx	014
Starcom	009
Stargate	014
Teleview	014
Tocom	007, 016
TV86	019
Unika	011
United Artists	006
Universal	010, 011
Viewstar	018, 019
Zenith	027, 028

DBS (SATELLITE)

Alphastar	054
Chaparral	035, 036
Dishnet	053
Drake	037, 038
Echostar Dish	062, 066
GE	048, 055, 056
General Instruments	039, 040, 041
Grundig	070, 071, 072, 073
Hitachi	058, 059
Hughes Network	063, 064, 065, 069
JVC	057
Kathrein	074, 075, 076, 083
Magnavox	060
Nokia	070, 080, 084, 085, 086
Philips	060
Primestar	051
Proscan	048, 055, 056
RCA	048, 055, 056, 068
Realistic	042
Sierra I	036
Sierra II	036
Sierra III	036
Sony	049, 067
STS1	043
STS2	044
STS3	045
SRS4	046
Technisat	077, 078, 079, 081, 082
Toshiba	047, 050
Uniden	061

CD

Denon	***[111]**
Aiwa	001, 035, 043
Burmster	002
Carver	003, 035

（次ページへ続きます。）

リモコンによる他機器の操作のしかた（つづき）

Emerson	004, 005, 006, 007
Fisher	003, 008, 009, 010
JVC	018, 019
Kenwood	011, 012, 013, 014, 017
Magnavox	006, 015, 035
Marantz	016, 028, 035
MCS	016, 024
Onkyo	025, 027
Optimus	017, 020, 021, 022, 023
Philips	014, 032, 033, 035
Pioneer	006, 022, 030
Sears	006
Sony	023, 031
Teac	002, 009, 028
Technics	016, 029, 036
Wards	035, 037
Yamaha	038, 039, 040, 041
Zenith	042

CDR

Denon	***[111]**, 112
Philips	112

MD

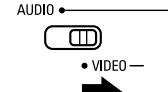
Denon	113
Kenwood	003, 004
Onkyo	007
Sharp	005
Sony	006

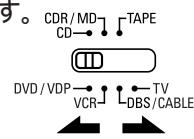
TAPE

Denon	***[111]**
Aiwa	001, 002
Carver	002
Harman/Kardon	002, 003
JVC	004, 005
Kenwood	006
Magnavox	002
Marantz	002
Onkyo	016, 018
Optimus	007, 008
Panasonic	012
Philips	002
Pioneer	007, 008, 009
Sony	013, 014, 015
Technics	012
Victor	004
Wards	007
Yamaha	010, 011

(3) プリセットメモリーした ビデオ機器の操作のしかた

1 **モードスイッチ1を『VIDEO』の位置にします。**

AUDIO •
• VIDEO —

2 **モードスイッチ2を操作したい機器（DVD/VDP、VCR、DBS/CABLEまたはTV）の位置にします。**

CDR / MD
CD
TAPE
DVD / VDP
VCR
TV
DBS / CABLE

3 **ビデオ機器を操作します。**

● 詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

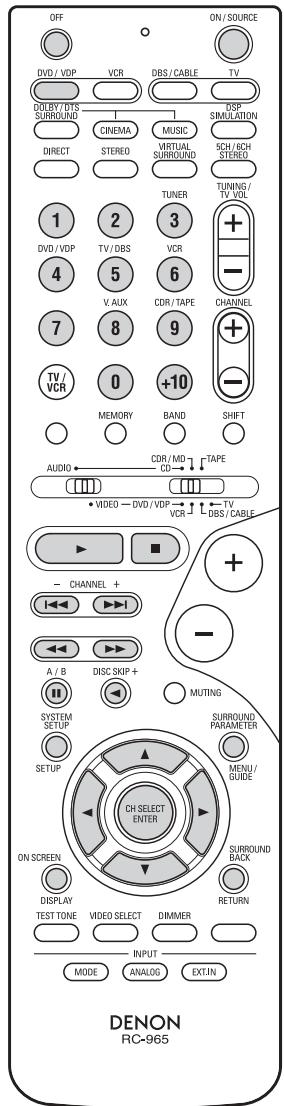
※ 機種によっては操作できないものがあります。

ご注意

● オーディオ機器（CD、CDR、MDおよびTAPE）はDENON製オーディオ機器と同じボタンで操作することができます。

● テレビの音量操作とチャンネル切り替えはモードスイッチ2が『DVD/VDP』、『VCR』または『TV』のどの位置でも操作することができます。

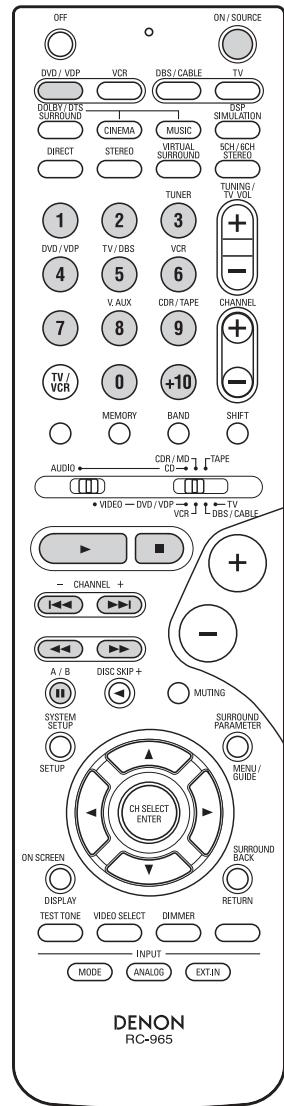
3 つづき

1. デジタルビデオディスクプレーヤー（DVD）の システムボタン

POWER ON	：電源ON
POWER OFF	：DENON DVDの電源OFF
0〜9、＋10	：10キー
▶	：再生
■	：停止
◀◀、▶▶ (頭出し)	：オートサーチ（頭出し）
◀◀、▶▶	：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
❚❚	：一時停止
DISC SKIP +	：ディスクの切り替え（DVDチェンジャーのみ）
SET UP	：DVDのセットアップ
MENU/GUIDE	：メニューの呼び出し
DISPLAY	：ディスプレイの切り替え
RETURN	：メニューのリターン
▲、▼、◀、▶	：カーソル上、下、左、右
ENTER	：設定の確定

ご注意

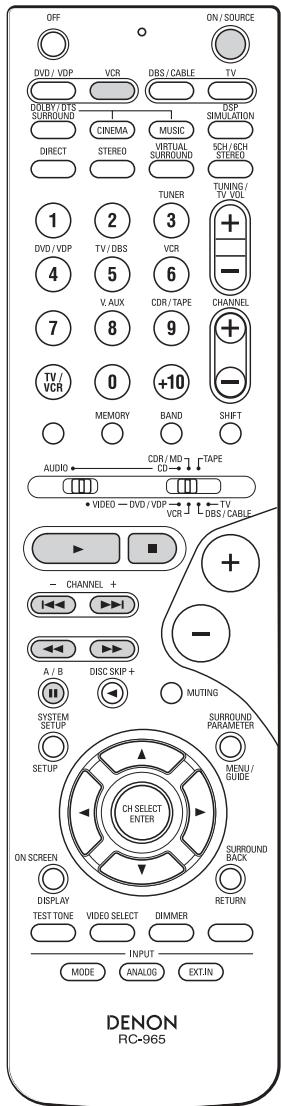
- DVDのリモコンボタンはメーカーによって機能名が異なる場合がありますので、各機器のリモコンの動作と照らし合わせてご使用ください。

3 つづき

2. ビデオディスクプレーヤー（VDP）の システムボタン

POWER	：電源のON/OFF
0〜9、＋10	：10キー
▶	：再生
■	：停止
◀◀、▶▶ (頭出し)	：オートサーチ（頭出し）
◀◀、▶▶	：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
❚❚	：一時停止

（次ページへ続きます。）

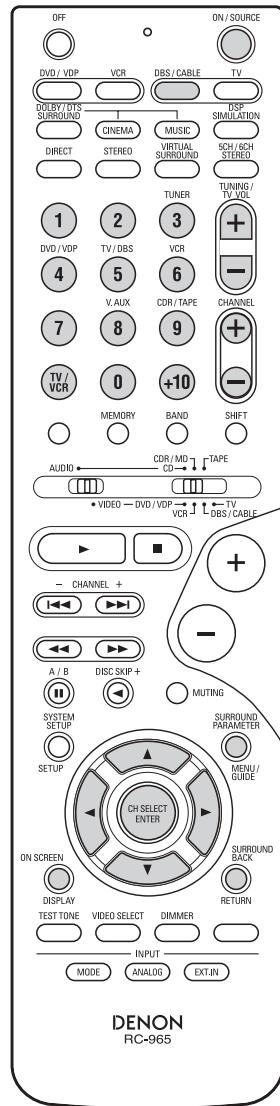
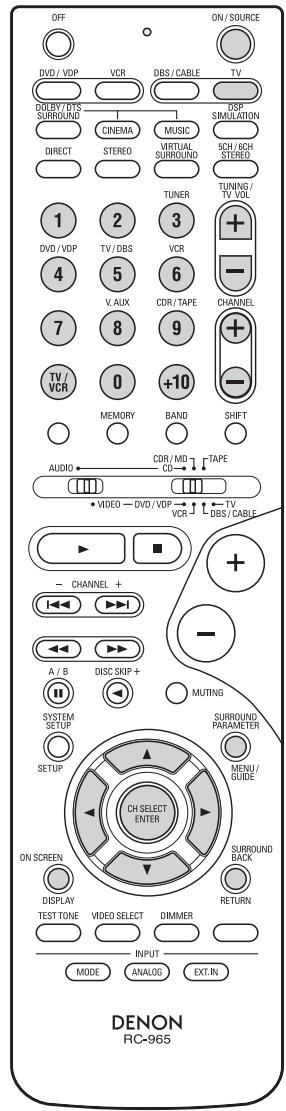
リモコンによる他機器の操作のしかた（つづき）

3. ビデオデッキ（VCR）のシステムボタン

POWER　：電源のON/OFF
CHANNEL ＋、ー　：チャンネルの切り替え
►　：再生
■　：停止
◄◄、►►　：マニュアルサーチ（早戻し、早送り）
II　：一時停止

4. 衛星放送（DBS）チューナーまたはケーブル（CABLE）のシステムボタン

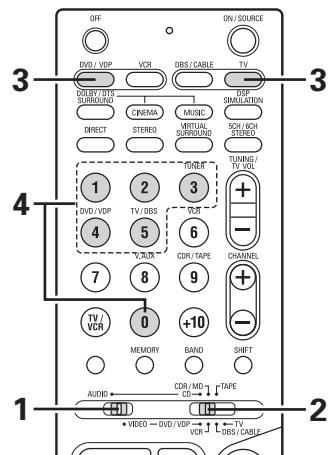
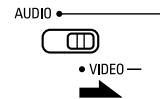
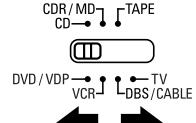
POWER　：電源のON/OFF
0〜9、＋10　：チャンネル
TV/VCR　：テレビ/ビデオの切り替え
TV VOL ＋、ー　：音量のアップ/ダウン
CHANNEL ＋、ー　：チャンネルの切り替え
MENU/GUIDE　：メニューの呼び出し
▲、▼、◄、►　：カーソル上、下、左、右
ENTER　：設定の確定
DISPLAY　：ディスプレイの切り替え
RETURN　：メニューのリターン

3 つづき

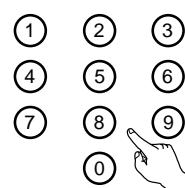
5. モニターテレビ（TV）のシステムボタン

POWER	：電源のON/OFF
0〜9、+10	：チャンネル
TV/VCR	：テレビ/ビデオの切り替え
TV VOL +、−	：音量のアップ/ダウン
CHANNEL +、−	：チャンネルの切り替え
MENU/GUIDE	：メニューの呼び出し
▲、▼、◀、▶	：カーソル上、下、左、右
ENTER	：設定の確定
DISPLAY	：ディスプレイの切り替え
RETURN	：メニューのリターン

(4) パンチスルーについて

★ パンチスルーはモードスイッチ2がDBS/CABLEまたはTVの位置でもCD、CDR/MD、TAPE、DVD/VDPまたはVCRの再生（▶）、停止（■）、一時停止（❚❚）、早送り（▶▶）巻き戻し（◀◀）およびオートサーチ（❙◀◀ ▶▶❙）ボタンを操作することができる機能です。

※ 工場出荷時の初期設定は『設定なし』です。

1 **モードスイッチ1を『VIDEO』の位置にします。**

2 **モードスイッチ2をパンチスルーさせたい機器（DBS/CABLEまたはTV）の位置にします。**

3 **DVD/VDPの電源ボタンとTVの電源ボタンを同時に押します。**
● 送信表示LED（インジケーター）が点滅します。

4 **下表を参照して、パンチスルーしたい機器に対応する番号を入力します。**

パンチスルーしたい機器	番号
CD	1
TAPE	2
CDR/MD	3
DVD/VDP	4
VCR	5
設定なし	0

11 スピーカーのセットアップについて

■セッティングの前に……ソース毎に異なる最適なサラウンド再生

現在、マルチチャンネル信号、すなわち2チャンネル以上のチャンネルを持つ信号（フォーマット）にはさまざまな種類があります。

★マルチチャンネル信号の種類

ドルビーデジタル、ドルビープロロジック、DTS-ES、ハイビジョン3-1信号、DVD-Audio、SACD（スーパーオーディオCD)、MPEGマルチチャンネルオーディオなど

しかし、ここでいう『ソース』というのはこれら信号の種類（フォーマット）では無く、そこに記録されている信号の中味（ジャンル）のことで、これらは大別すると下の2つに分けられます。

★ソースの種類

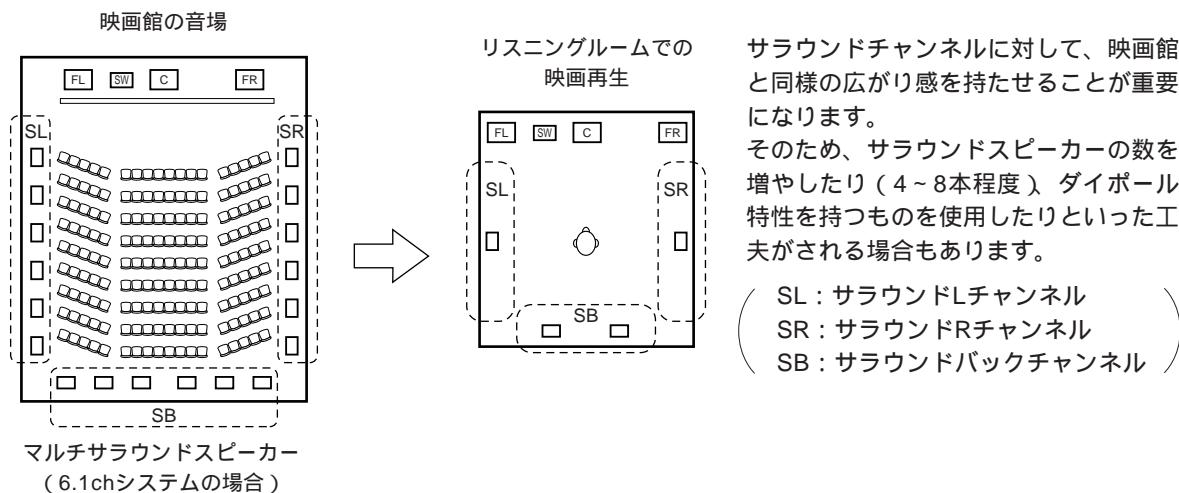
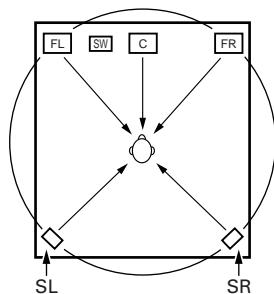
● 映画の音声：映画館にて上映されることを前提にしてつくられた信号です。ドルビーデジタルやDTSといったフォーマットによらず、多数のサラウンドスピーカーを使用する映画館の環境に合わせた録音がおこなわれているのが一般的です。

映画館の音場

マルチサラウンドスピーカー
（6.1chシステムの場合）

リスニングルームでの
映画再生

サラウンドチャンネルに対して、映画館と同様の広がり感を持たせることが重要になります。
そのため、サラウンドスピーカーの数を増やしたり（4〜8本程度)、ダイポール特性を持つものを使用したりといった工夫がされる場合もあります。

SL：サラウンドLチャンネル
SR：サラウンドRチャンネル
SB：サラウンドバックチャンネル

● その他の音声：3〜5本程度のスピーカーを用いて360 °の音場を再現することを目的につくられた信号です。

各チャンネルのスピーカーが円を描くようにリスナーを囲み、360 °均一な音場をつくることがポイントで、理想的には、サラウンドスピーカーもフロントと同様に『点』音源として機能させる必要があります。

これら2種類のソースにはそれぞれ以上のような特徴があり、理想的な再生のためのスピーカーのセッティング、特にサラウンドスピーカーのセッティングには、互いに異なる部分があります。

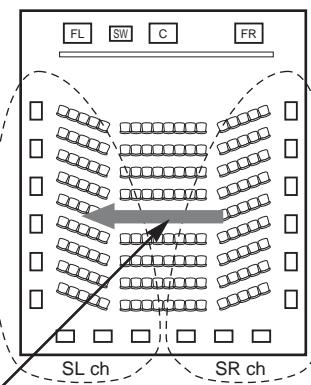
スピーカーのセットアップについて（つづき）

★サラウンドバックスピーカーについて

6.1chシステムよって、従来の5.1chシステムに加えて新たに『サラウンドバック（SB）チャンネル』が生まれました。これによって、従来のマルチサラウンドスピーカーにあわせてサラウンドデザインされていたために出し難いとされていた真後ろへの定位を容易に実現できるようになりました。同時に側方から後方にかけての音像が絞られ、側方から後方へ回り込む音、正面から真後ろへ移動する音など、サラウンド信号の表現力が大幅に向上しました。

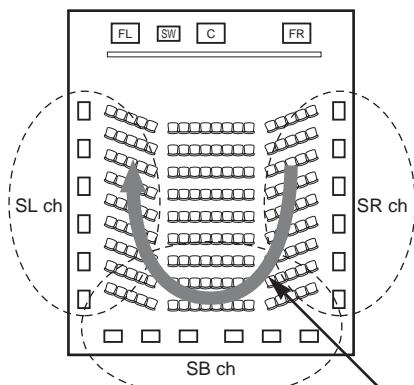
5.1chシステムによる定位・音像の変化

FL SW C FR

SL ch SR ch

SR→SLと移動する音像の動き

6.1chシステムによる定位・音像の変化

FL SW C FR

SL ch SR ch SB ch

SR→SB→SLと移動する音像の動き

サラウンドバックスピーカーを追加することにより6.1chで録音されたソースだけでなく、従来の2〜5.1chソースでもよりサラウンド効果を高めることができます。また、他のDENONオリジナルサラウンド（53ページ参照）もすべて6.1ch再生に対応しており、すべての信号ソースに対して6.1ch再生をお楽しみいただけます。

★サラウンドバックスピーカーを使用する場合のサラウンドL、Rチャンネルの設置について

サラウンドバックスピーカーを使用することによって、後方の定位感が大幅に向上します。そのためサラウンドL、Rチャンネルの役割は、前後の音像のスムーズなつながりが重要になってきます。上図にもあるように、映画館におけるサラウンド信号は、リスナーの前方側面からも再生され、空間を漂うような音像を実現します。
これらを再現するため、サラウンドL、Rチャンネルのスピーカーを従来よりやや前寄りに設置することを推奨します。なお、この場合従来の5.1chソースを6.1サラウンドまたはDTS-ESマトリクス6.1モードで再生することによってサラウンド効果が高まる場合があります。サラウンドモードの選択は、それぞれのサラウンド効果を確認して決定してください。

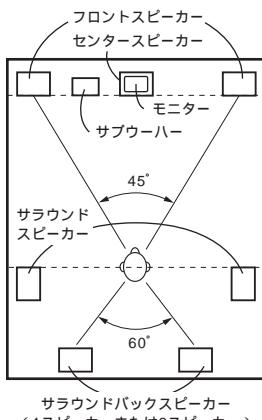
スピーカーのセットアップについて（つづき）

■スピーカーセッティング例

次にさまざまな目的に応じたスピーカーのセッティング例をご紹介します。これらを参考にお手持ちのスピーカーの種類や主に使用される用途に合わせてセッティングをおこなってください。

1．6.1chサラウンド（DTS-ESなど）システム（サラウンドバックスピーカーを使用）、7.1chサラウンド（ドルビープロロジックⅡxなど）システム（サラウンドバックスピーカー2台使用）の場合

（1）映画再生をメインにおこなう、基本的なセッティング

映画再生がメインで、サラウンドスピーカーに通常のシングルウェイや2ウェイスピーカーを使用する場合におすすめします。

サラウンドバックスピーカー
（1スピーカーまたは2スピーカー）

《上面から見た図》

- フロントスピーカーはできるだけテレビやスクリーンと同一面で、センタースピーカーは左右のフロントスピーカーの間で、視聴ポイントからフロントスピーカーまでの距離より遠くならないところに置きます。
- サブウーハーの置き場所の制限は特にありませんが、スクリーンと同一面にあった方が理想的です。

サラウンド
スピーカー
サラウンドバック
スピーカー
やや下を
向ける
フロントスピーカー
60〜90cm

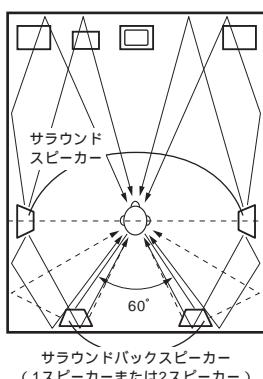
《側面から見た図》

- サラウンドスピーカーは視聴ポイントの真横からやや斜め後の間で、耳の高さより60〜90cm高い位置に、壁と平行に設置します。
- サラウンドバックスピーカーは、2本設置する場合は後方から前向きにフロントL、Rよりも狭い角度で、1本設置する場合は真後ろから前向きに、サラウンドスピーカーよりやや高い位置に設置します。（サラウンドスピーカー ＋0〜20cmの高さで）
- サラウンドバックスピーカーは、やや下向きに角度をつけて設置することを推奨します。これはサラウンドバックチャンネルの信号がフロント中央のモニターやスクリーンで反射して干渉し、前後の移動感があいまいになることを防ぐのに効果的です。

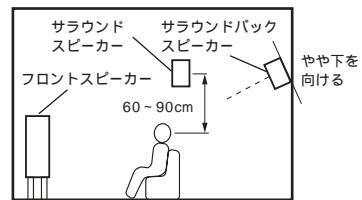
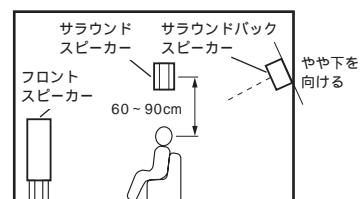
（2）映画再生をメインにおこない、サラウンドスピーカーに拡散型スピーカーを使用する場合

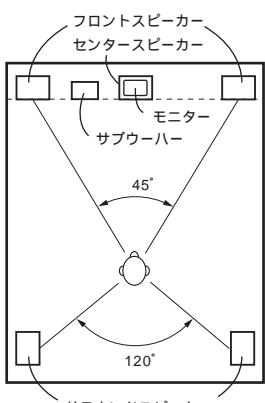
映画再生をより効果的におこなうために、サラウンドスピーカーにダイポール特性やトライポール特性などを持つ、拡散音場型のスピーカーを用いる場合は、サラウンドスピーカーの設置場所を（1）に比べてやや前寄りにします。

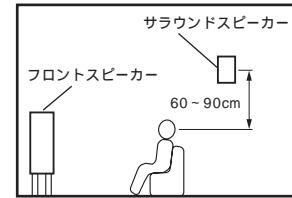
サラウンド音の視聴ポイントに到達するイメージ

サラウンドバックスピーカー
（1スピーカーまたは2スピーカー）

《上面から見た図》

- フロントスピーカー、センタースピーカー、サブウーハーの設置方法は（1）と同様です。
- サラウンドスピーカーは視聴ポイントの真横かやや前よりが望ましく、耳の高さより60〜90cm高い位置に設置します。
- サラウンドバックスピーカーの設置方法は、（1）と同様です。また、サラウンドバックスピーカーにもダイポール特性のスピーカーを用いた方がより効果的です。
- サラウンドチャンネルの信号は、左図のように室内の壁から反射音を伴って、広がりを持った音となります。

サラウンド
スピーカー
サラウンドバック
スピーカー
やや下を
向ける
フロント
スピーカー
60〜90cm

《側面から見た図》

2．サラウンドバックスピーカーを使用しない場合

《上面から見た図》

- フロントスピーカーはできるだけテレビやスクリーンと同一面で、センタースピーカーは左右のフロントスピーカーの間で、視聴ポイントからフロントスピーカーまでの距離より遠くならないところに置きます。
- サブウーハーの置き場所の制限は特にありませんが、スクリーンと同一面にあった方が理想的です。
- サラウンドスピーカーは視聴ポイントの真横からやや斜め後の間で、耳の高さより60～90cm高い位置に、壁と平行に設置します。

《側面から見た図》

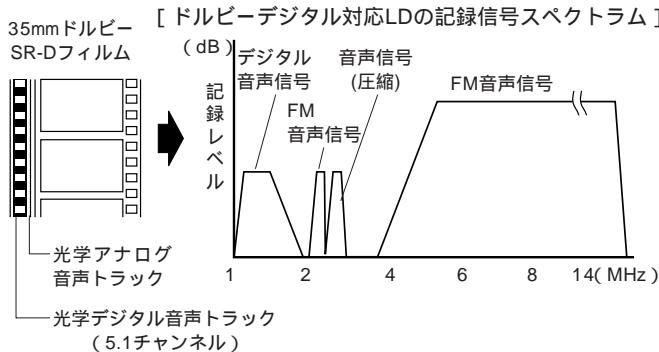
12 サラウンドについて

★本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

(1) ドルビーサラウンドについて

①ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、ドルビー研究所が開発したマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルはCDと同等以上の再生帯域（高域は20kHz以上再生可）を持つフロント3ch FL、FR、C（フロント左、右およびセンター）とサラウンド2ch SL、SR（サラウンド左、右）に加え、低域（〜120Hz）効果音専用のLFE（ロー・フリクエンシー・エフェクト）の合計5.1chに対応しており、更にモノラル1chやステレオ2ch、ドルビープロロジック信号の伝送など幅広い対応が可能です。
また各チャンネルの信号はそれぞれ完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストークなどで劣化する心配がありません。これらのデジタル信号を、高効率符号化技術によってCDの半分以下のデータ量（最大640kbps）にて伝送可能といった特徴を持っています。
この特徴を映画のサウンドトラックに生かし、映画館用に開発されたサラウンドシステムが『DOLBY SR-D（ドルビーステレオデジタル）』です。従来一般的であったドルビーサラウンド（ドルビープロロジック）がアナログ・マトリクス方式であったのに対して、各チャンネルが完全に独立したデジタル・ディスクリート方式となり、音の遠近感、移動感、定位感のある音場をよりリアルに再現することが可能となりました。そしてドルビーデジタル対応メディアであるLD、DVDなどは、AVルームでDOLBY SR-Dのサラウンドトラックをそのまま再現することを可能にしたため、映画館と同様に驚くほどリアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

◎SR-Dとドルビーデジタルの関係

◎ドルビーデジタルとドルビープロロジック

家庭用サラウンド方式比較	ドルビー・デジタル	ドルビー・プロロジック
記録(素材)ch数	5.1ch	2ch
再生ch数	5.1ch	4ch
再生ch構成(MAX)	L, R, C, SL, SR, SW	L, R, C, S（SWは推奨）
音声処理	デジタル・ディスクリート処理 ドルビーデジタル エンコード、デコード	アナログ・マトリックス処理 ドルビー・サラウンド
サラウンドchの高域再生限界	20kHz	7kHz

◎ドルビーデジタル対応メディアとその対応方法

ドルビーデジタル対応マーク：DOLBY DIGITAL

以下の内容は一般的な例です。必ずお手持ちの再生機器の取扱説明書と併せて確認してください。

メディア	ドルビーデジタル出力端子	再生方法
LD（VDP）	ドルビーデジタルRF出力 専用同軸端子 ※1	入力モードを『AUTO』に設定します。（40ページ参照）
DVD	光または同軸デジタル出力 （PCMと共通） ※2	入力モードを『AUTO』に設定します。（40ページ参照）
その他 衛星放送、CATVなど	光または同軸デジタル出力 （PCMと共通）	入力モードを『AUTO』に設定します。（40ページ参照）

※1 デジタル入力端子にドルビーデジタルRFを接続するときは、市販のアダプターを使用してください。（アダプターの取扱説明書を参照してください。）

サラウンドについて（つづき）

②ドルビープロロジックⅡx対応

DOLBY DIGITAL・EX PRO LOGIC Ⅱx

◎ドルビープロロジックⅡxはドルビープロロジックⅡのマトリックスデコード技術を拡張して、2チャンネルで記録された音声を、サラウンドバックチャンネルを含めた最大7.1チャンネルにデコードして再生することができます。

また、5.1チャンネルソースについても、最大7.1チャンネルでの再生を楽しむことができます。
音楽再生に適したMUSICモード、映画再生に適したCINEMAモード、ゲームをお楽しみになる場合に最適なGAMEモードが再生するソースに合わせて選べます。
GAMEモードは2チャンネル音声に対してのみ使用できます。

③ドルビープロロジックⅡ

◎ ドルビープロロジックⅡ は、従来のドルビープロロジック回路を更に進化させたフィードバックロジックステアリング技術を用いて、ドルビー研究所により開発された新しいマルチチャンネル再生方式です。

◎ ドルビーサラウンド録音されたソース（※）に加え、音楽ソースなどの通常のステレオ録音ソースも5ch（FL、FR、C、SL、SR）の信号にデコードし、サラウンド再生を楽しむことができます。

◎ サラウンドチャンネルの再生周波数帯域は、帯域制限のあった従来のドルビープロロジックに比較して広帯域（20〜20kHz以上）になっています。また、従来サラウンドチャンネルはサラウンドL（左）＝サラウンドR（右）のモノラル再生でしたが、新たにステレオ信号として再生する方式をとっています。

◎ 再生するソースの種類や内容に合わせて最適なデコード処理をおこなえるように、各種パラメーターを設定することが可能になりました。（44〜48ページ参照）

※“ **ドルビーサラウンド録音されたソース** ”とは

- 3ch以上で構成されるサラウンド信号を、ドルビーサラウンドエンコード技術によって2chの信号として記録したソースです。
- DVD、LD、ステレオVTRで再生される映画のサウンドトラックをはじめ、FM、TV、BS、CSなどのステレオ放送信号にて用いられています。
- この信号に対して、プロロジックⅡデコードを施すことにより、マルチチャンネルでのサラウンド再生が可能になりますが、一般的なステレオ機器でそのままステレオ再生することも可能です。
- ドルビーサラウンド録音信号には2種類あります。

  ① PCMステレオ2ch信号
  ②ドルビーデジタル2ch信号

  いずれの信号が本機に入力されても『DOLBY/DTS SURROUND』モードを選択すると、サラウンドモードは自動的に『ドルビープロロジックⅡ』となります。

■ **ドルビーサラウンド録音されたソースには以下のロゴマークが表示されています。**

ドルビーサラウンド対応マーク： DOLBY SURROUND

サラウンドについて（つづき）

(2) DTS デジタルサラウンドについて

DTSデジタルサラウンド（または単にDTSと呼ばれます）は、デジタル・シアター・システムズ社が開発したマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルや再生帯域はドルビーデジタルと同様、FL、FR、C、SL、SRの5chに加えてLFE 0.1chを持つ5.1chで、他にステレオ2chモードがあります。いずれも各チャンネルの信号は完全に独立して記録されるため、各信号間の干渉、クロストーク等で劣化する心配はありません。
DTSはドルビーデジタルに対して比較的高いビットレート（CD/LDで1234kbps、DVDは1536kbpsか768kbps）となり、相対的に低い圧縮率で動作するのが特徴です。そのためデータ量が多く、映画館においてのDTS再生は、フィルムと同期をとったCD-ROMを別途再生する方法がとられています。
もちろんLDやDVDにおいてはそういった心配はなく、1枚のディスクに映像とサウンドが同時に記録可能なため、他のフォーマットと同様の取り扱いが可能です。
この他のメディアにはDTS録音されたCDがあります。これは従来の（2ch録音された）CDと同様のメディアに5.1chのサラウンド信号が記録されたもので、映像はありませんが、CDプレーヤーを使ってサラウンド再生が可能となるという特徴があります。
DTSによるサラウンドトラック再生も映画館とAVルームの間で基本的な違いは無く、映画館と同様の緻密で雄大なサウンドを楽しむことができます。

◎DTS対応メディアとその再生方法

DTS対応マーク：DIGITAL dts SURROUND または dts

以下の内容は一般的な例です。必ずお手持ちの再生機器の取扱説明書と併せて確認してください。

メディア	DTSデジタル出力端子	再生方法
CD	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）　※2	入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します（40ページ参照）。絶対に『ANALOG』並びに『PCM』モードには切り替えないでください。　※1
LD（VDP）	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）　※2	入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します（40ページ参照）。絶対に『ANALOG』並びに『PCM』モードには切り替えないでください。　※1
DVD	光または同軸デジタル出力（PCMと共通）　※3	入力モードを『AUTO』または『DTS』に設定します（40ページ参照）。

※1　CDやLDのDTS信号は、通常のCDやLDにおけるPCM信号がそのままDTS信号に置き換わった形で記録されています。そのためCD、LDプレーヤーのアナログ出力からはDTS信号がノイズとなって出力されます。このノイズをアンプによって再生した場合、最悪のケースでは本機やスピーカーなどの周辺機器が故障する可能性があります。これらの問題を避けるため、DTSで記録されたCDやLDを再生する前に、入力モードを必ず『AUTO』または『DTS』モードへ切り替えてから、ディスクの再生をおこなうようにしてください。また再生中は絶対に『ANALOG』並びに『PCM』モードへは切り替えないでください。DVDプレーヤーやLD/DVDコンパチプレーヤーでCDやLDの再生をおこなうときも同様です。なおDVDメディアの場合は、DTS信号は専用の記録方式で記録されているため、問題はありません。
※2　CDまたはLDプレーヤーなどで、デジタル出力に何らかの信号処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換など）がおこなわれている場合があります。この場合誤ってDTS信号に信号処理がおこなわれてしまい、本機と接続しても正しく再生できずノイズなどが発生することがありますので、はじめてDTS再生をおこなう場合はまず主音量調節つまみを絞り、DTSディスクの再生を開始すると本機のDTS表示（44ページ参照）が点灯することを確認してから主音量調節つまみをを上げるようにしてください。
※3　DVDのDTSメディアは、その再生に対応したプレーヤーが必要です。お手持ちのDVDプレーヤーがDTS対応であるかはDVDプレーヤーのメーカーまたは販売店にご確認ください。

（3）DTS-ES Extended Surround™について

DTS-ES Extended Surroundは、デジタル・シアター・システムズ社の開発した新しいマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。DTS-ES Extended Surroundは、従来のDTS Digital Surroundフォーマットに対して上位互換性を持ちつつ、更に拡張されたサラウンド信号によって360度の定位感や空間表現力が大幅に拡大します。映画館においては1999年に導入され商業利用されています。
DTS-ES Extended SurroundはサラウンドチャンネルとしてFL,FR,C,SL,SR,LFEの5.1チャンネルに対して、SB（サラウンドバック、またはサラウンドセンターと呼ばれる）チャンネルが加わり、合計6.1チャンネルのサラウンド再生がおこなわれます。またそのサラウンド信号記録方式の違いにより、次の2種類の信号フォーマットがあります。

DTS-ES™ Discrete6.1（ディスクリート6.1）：

追加されたSBチャンネルを含め、6.1チャンネル全てがデジタルディスクリート方式によって独立したチャンネルとして記録される最新のフォーマットです。SL,SR,SBの各チャンネルが完全に独立しているため自由なサウンドデザインが可能で、360度周囲を取り囲むバックグラウンド音の中を自由に音像が飛び交う、といった表現も可能となるのが大きな特徴です。
この方式で記録されたサウンドトラックはDTS-ESデコーダーで再生することによってそのパフォーマンスを最大限に発揮しますが、同時に従来のDTSデコーダーで再生した場合も、SBチャンネルの信号は自動的にSL,SRチャンネルにダウンミックスされて再生されるため、信号成分の欠落無く再生することが可能です。

DTS-ES™ Matrix6.1（マトリクス6.1）：

追加されたSBチャンネルを予めSL,SRチャンネルへマトリクスエンコードを施し挿入し、再生時にマトリクスデコーダーによってSL,SR,SBの各チャンネルにデコードするフォーマットです。DTS社の開発した高精度デジタルマトリクスデコーダーを使用することにより記録時のエンコーダーとその特性を完全に合わせることができるため、従来の5.1または6.1チャンネルシステムに比べて、より制作者のサウンドデザインに忠実なサラウンド再生が実現できます。また、ビットストリームのフォーマットは従来のDTS信号と100パーセントの互換性がありますので、5.1チャンネルの信号ソースでもMatrix6.1の効果を確認することが可能です。勿論、DTS-ES Matrix6.1エンコードソースをDTSの5.1チャンネルデコーダーで再生することも可能です。

DTS-ES Discrete6.1/Matrix6.1エンコードソースをDTS-ESデコーダーでデコードした場合、デコード時にフォーマット検出をおこないそれぞれ最適な再生モードが選択されます。但しMatrix6.1のソースについては一部に5.1チャンネルのフォーマットとして検出されるソースがあります。これらを再生する場合は、手動でDTS-ES Matrix6.1モードを選択する必要があります。
（サラウンドモード選択の方法については44ページを参照してください。）
またDTS-ESデコーダーには別の機能として、デジタルPCM信号及びアナログ信号ソースを6.1チャンネル再生する、DTS NEO:6サラウンドモードがあります。

DTS NEO:6™ サラウンドについて：

DTS-ES Matrix6.1に採用された高精度デジタルマトリクスデコーダーを従来の2チャンネル信号に応用し、6.1チャンネルのサラウンド再生をおこなうモードです。高精度な入力信号検出及びマトリクス処理によって、6.1チャンネル全てのチャンネルでフルバンド（周波数特性20〜20kHz以上）の再生が可能な上、各チャンネル間のセパレーション特性もデジタルディスクリート方式と同等な程までに向上しています。
DTS NEO:6サラウンドモードには、再生する信号ソースの内容にあわせて最適なデコード処理を選択できる、2つのモードがあります。

DTS NEO:6 CINEMA：

映画再生に最適なモードです。セパレーション特性を重視してデコードすることにより、2チャンネルソースでも6.1チャンネルソースと同じような雰囲気で楽しむことが可能です。
同相成分は主にセンター（C）に、逆相成分はサラウンド（SL,SR,SB）に振り分けられる特性を持つため、従来のサラウンド録音されたソース再生にも効果があります。

DTS NEO:6 MUSIC：

主に音楽再生に適したモードです。フロントチャンネル(FL,FR)の信号を重視してデコードすることにより音質の変化が少なく、更にセンター（C）とサラウンド（SL,SR,SB）チャンネルから出力されるサラウンド信号の効果により、音場にナチュラルな拡がり感が加わります。

サラウンドについて（つづき）

（4）DTS-96/24について

現在音楽などのスタジオ録音に関して、ハイサンプリング・ハイビット化、並びにマルチチャンネル化が進んでおり、96kHz/24bit　5.1chなどの高品質な信号ソースが増加しています。

例えば、DVD-Videoにおける高音質録音ソースとしては、96kHz/24bitのステレオPCM音声トラックをもつものがあります。
しかしそれらは音声トラックのデータレートが非常に高いため2chの収録が限界で、さらに映像の品質を制限せざるを得なく静止画像のみの収録が一般的です。
また、DVD-Audioでは96kHz/24bitの5.1chサラウンドを実現可能としていますが、この品質での再生にはDVD-Audioプレーヤーが必要です。

DTS 96/24はこのような状況の中に登場した、デジタル・シアターシステムズ社の開発した新しいマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。

従来のサラウンドフォーマットではサンプリング周波数が48kHzまたは44.1kHzであったため再生信号周波数の上限は20kHz程度で留まっていたのに対して、DTS 96/24ではサンプリング周波数を96kHzまたは88.2kHzに引き上げることにより、40kHzを超える広い周波数帯域を実現しています。
また24bitの分解能を持ち、96kHz/24bitのPCMと同等の周波数帯域、ダイナミックレンジを実現しています。

DTS 96/24は、従来のDTSサラウンドと同様に最大5.1chまで対応しており、DTS 96/24を用いて録音されたソースはDVD-VideoやCDといった通常のメディアにおいてハイサンプリングマルチチャンネル音声の再生を可能とします。
従って、DTS 96/24は従来のDVD-Videoプレーヤー（※1）を使用して、DVD-Audioと同等の96kHz/24bitマルチチャンネルサラウンドを、DVD-Videoの映像と共に楽しむことができます。またDTS 96/24対応CDメディアの場合、一般的なCD/LDプレーヤー（※1）を使用して88.2kHz/24bitマルチチャンネルサラウンドを楽しむことができます。

このように、高音質なマルチチャンネル信号を確保しているにも関わらず、収録時間は従来のDTSサラウンドソースと変わりません。
さらに、DTS 96/24は従来のDTSサラウンドフォーマットと完全な互換性を持っています。DTS 96/24の信号ソースは、従来のDTSまたはDTS-ESサラウンドデコーダーにおいても、48kHzまたは44.1kHzの周波数帯域での再生が可能です（※2）。

※1　DTSデジタル出力に対応したDVDプレーヤー（CD/LDプレーヤーの場合、従来のDTS-CD/LDメディアに対応したデジタル出力を持つプレーヤー）と、DTS 96/24にて収録されたメディアが必要です。

※2　分解能は、そのデコーダーによって24bitまたは20bitとなります。

(5) ドルビーバーチャルスピーカーについて

ドルビーバーチャルスピーカー（Dolby Virtual Speaker）技術は、ドルビーラボラトリーズ社の専有技術により、フロント2チャンネルスピーカーだけでサラウンド音場の仮想化をおこなっており、実際にサラウンドスピーカーを設置しているかのような再生が体験できます。

■ドルビーバーチャルスピーカーの特長

◎正確なサラウンド音場定位

仮想サラウンドスピーカーの位置は、左方向に105°右方向に105°として処理されます。

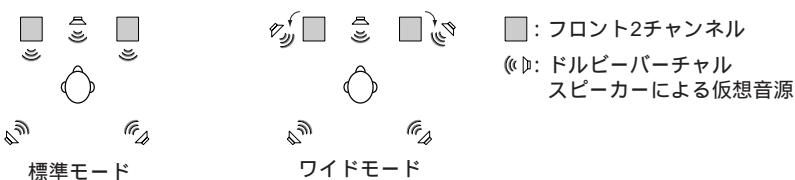
◎マルチチャンネルプログラムを制作者の意図通りに再生

各チャンネルの音はミキシング時に設定された位置に再生されます。例えば左後方に設定されたものは左後方から聞こえます。

◎ステレオプログラムがサラウンドに

ドルビープロロジックIIとの連携動作によりステレオプログラムからも豊かなサラウンド音場を想像します。

◎リスニングモード選択

標準（REFERENCE）モードとワイド（WIDE）モードが提供されます。

本機ではスピーカー構成を変更した場合も、それぞれのドルビーバーチャルスピーカーモード再生に対応しています。

- 3スピーカー（フロント2チャンネル+センター）：標準/ワイドモード
- 4スピーカー（フロント2チャンネル+サラウンド2チャンネル）：ワイドモード
- 5スピーカー（フロント2チャンネル+センター+サラウンド2チャンネル）：ワイドモード
- 6スピーカー（フロント2チャンネル+センター+サラウンド2チャンネル+サラウンドバック）：ワイドモード

(6) ドルビーヘッドホンについて

ドルビーラボラトリーズと豪州レイクテクノロジー社との共同開発による立体音響技術で、サラウンド音場を通常のヘッドホンで再生できる技術です。

元来、ヘッドホンではすべての音が頭の中でなってしまい長時間の鑑賞は苦痛となりますが、部屋でのスピーカー再生をシュミレートしたドルビーヘッドホンは音源が前方あるいは側面にしっかり頭外定位するため、まるで映画館かホームシアターにいるような迫力のあるサウンドを聞くことが可能です。この技術は主としてドルビーデジタルまたはドルビープロロジックサラウンドのデコード機能を組み込んだマルチチャンネルオーディオ/ビデオ機器を対象にしており、高性能デジタル信号処理用チップ（DSP）に組み込んで動作させます。

ドルビーヘッドホンはマルチチャンネル音源だけでなくステレオプログラムにも効果的です。

サラウンドについて（つづき）

(7) AACについて

MPEG2-AAC（Advanced Audio Coding）はMPEG（Moving Picture Experts Group）が開発したマルチチャンネル音声フォーマットです。
その特長は、高音質・高圧縮率を両立できることです。特に低ビットレート（高圧縮率）の環境においてドルビーデジタルやMP3（MPEG Layer-3）等従来のフォーマットに比べて高い音質を維持することが出来ます。具体的にはわずか96kbpsという低ビットレートで、CD並みといわれる品質のステレオ音声を伝送することが出来ます。
その特長を生かしてポータブルオーディオ等への応用が増加している一方、多チャンネルに対応しても全体のビットレートを低く抑えることが出来るため、日本のBSデジタル放送における5.1chサラウンド放送をはじめとする、サラウンドシステムへの応用が始まりました。
MPEG2-AACは元々映像信号と音声信号の複合データであるMPEGデータの音声規格として開発されたため、その用途に応じて求められるスペックは多岐に渡ります。映像と組み合わせたトータルのビットレートを低く抑えるため低ビットレートでの音質確保、また多チャンネル伝送時のデータ量低減、業務用途のみに特化することなく使えるデータ処理の簡略化、それらは相反する要素を持ちますが、いずれの要求も満たせる様配慮され非常に柔軟性の高い規格になっています。そのため音声信号の種類やそのデータ作成環境に適合させるためにMAIN/LC/SSRプロファイルという3種類のデータ構造を持っています。

◎MPEG2-AACのスペック（概要）

- アルゴリズム：　MAINプロファイル
  LC（Low Complexity）プロファイル
  SSR（Scaleable Sampling Rate）プロファイル
- サンプリング周波数：　8kHzから96kHzまで対応
- チャンネル数：　最大48チャンネルのマルチチャンネル伝送に対応
- その他の機能：　LFE（Low Frequency Effect）サポート
  マルチリンガル（複数言語）サポート

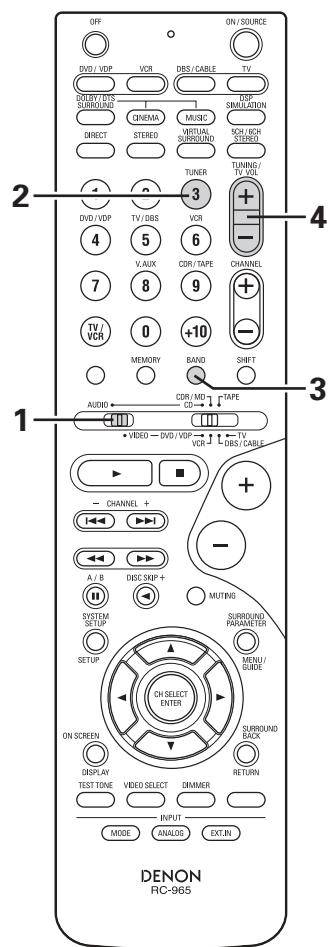
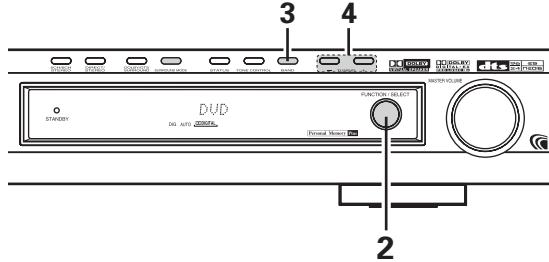
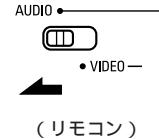
この中で本機は、BSデジタル放送にて使用される32kHzから48kHzまでのサンプリング周波数と、LCプロファイルの再生に対応しております。またチャンネル数は最大5.1chのデータに対応します。

※ MPEGによる音声規格は他にLayer-1,2,3等がありますが、それらとAACの間に互換性はありません。本機はその中で先に述べたAACの再生に対応します。

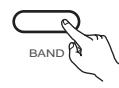
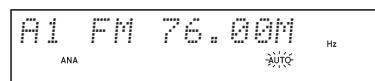
■ 以下がAACに関する米国パテントナンバーです。

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

13 ラジオの聞きかた

(1) オートチューニングのしかた

1 モードスイッチを「AUDIO」の位置にします。

2 入力ファンクッションを「TUNER」にします。

3 ディスプレイを見ながら、聞きたい放送局（AMまたはFM）のオートチューニングモードを選択します。

● AUTO表示が点灯します。

ディスプレイ（下記の表示は表示例です）

4 聞きたい周波数を合わせます。

● ボタンを押すとオートチューニングをはじめ、放送を受信すると停止します。

ご注意

● オートチューニングモードでFMバンドのステレオ放送を受信しているときは、ディスプレイに " STEREO " 表示が点灯します。放送局を受信できなかった場合、雑音はミュートされ、" TUNED " 表示と " STEREO " 表示は点灯しません。

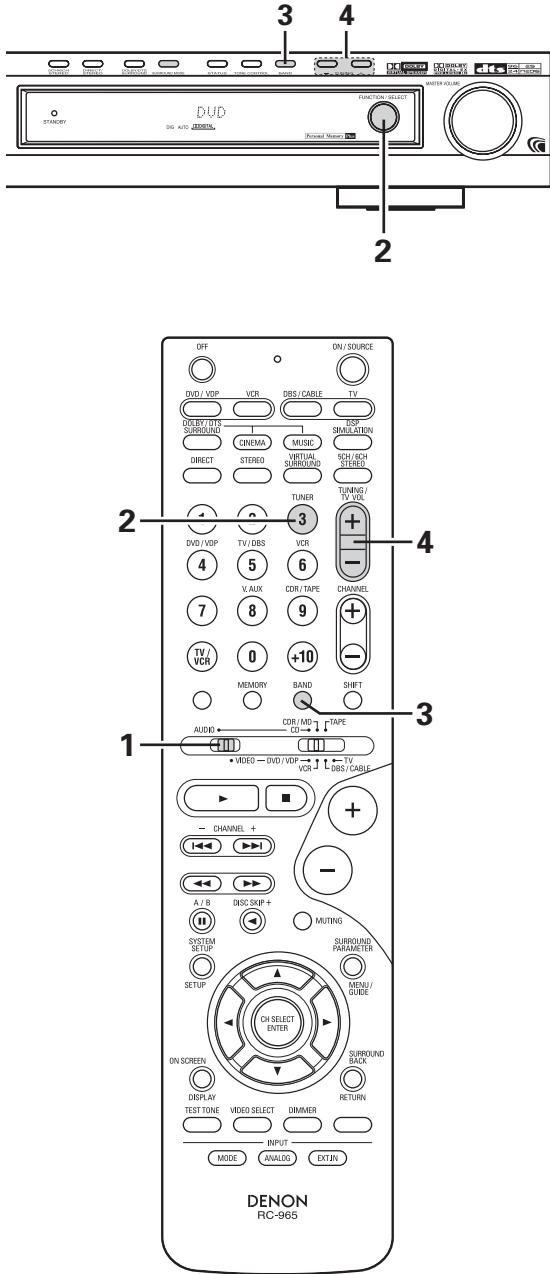
ラジオの聞きかた（つづき）

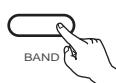
(2) マニュアルチューニングのしかた

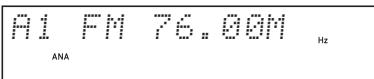
1 **モードスイッチを「AUDIO」の位置にします。**

（リモコン）

2 **入力ファンクッションを「TUNER」にします。**

（本体）　（リモコン）

3 **ディスプレイを見ながら、聞きたい放送局（AMまたはFM）のマニュアルチューニングモードを選択します。**

（本体）　（リモコン）

●“ AUTO ” 表示が消灯していることを確認してください。

ディスプレイ（下記の表示は表示例です）

4 **聞きたい周波数を合わせます。**

※ 放送局の周波数は新聞などに掲載されておりますのでご確認ください。

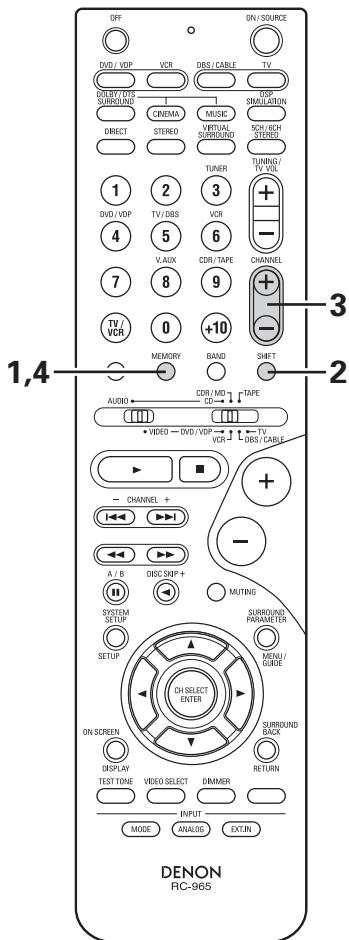
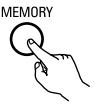
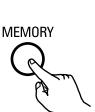
（本体）　（リモコン）

ご注意

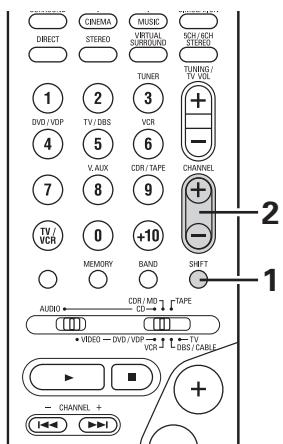
● マニュアルチューニングモードに設定すると、FMステレオ放送はモノラルで受信され、“ STEREO ” 表示は点灯しません。

ラジオの聞きかた（つづき）

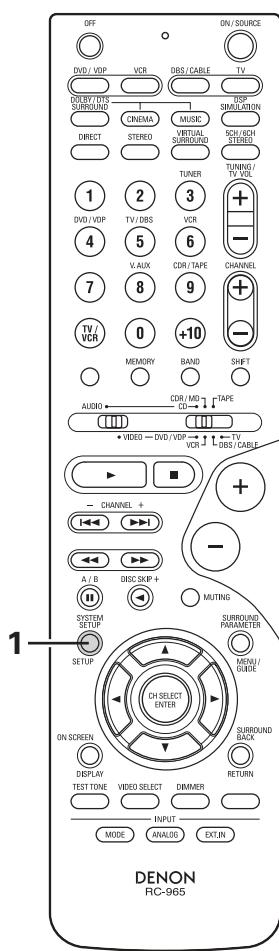
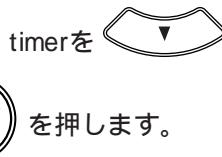
(3) プリセットメモリーのしかた

★ オートチューニングまたはマニュアルチューニングを使用して、記憶させたい放送局に合わせてください。

1	**メモリーボタンを押します。** MEMORY （リモコン）
2	**メモリーしたいブロック（A～E）を選択します。** SHIFT （リモコン）
3	**プリセットチャンネルを選択します。（1～8）** CHANNEL （リモコン）
4	**放送局をメモリーさせます。** MEMORY （リモコン）

※ 他のチャンネルをプリセットするときは、操作1～4をくり返しおこなってください。

※ 40局までプリセットすることができます。

(4) プリセットした放送局の呼び出しかた

1	**ディスプレイを見ながら、メモリーしたブロックを選択します。** SHIFT （リモコン）
2	**ディスプレイを見ながら、プリセットチャンネルを選択します。** CHANNEL （リモコン）

14 スリープタイマーの使いかた

★ 電源をスタンバイ状態にする時間を最大60分まで設定することができます。
★ 設定した時間（分）後に、自動的に電源をスタンバイ状態にすることができます。

ご注意

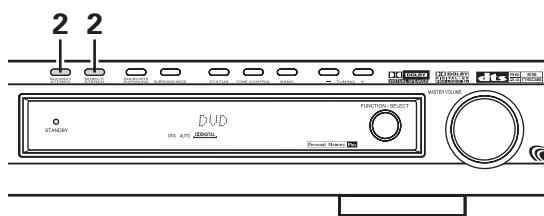
- スリープタイマーを解除したり、設定時間を変更したい場合にはもう一度スリープタイマーの使いかたの***1***〜***4***を実施してください。

15 ラストファンクションメモリーについて

★ 本機には電源をOFFにする直前の各種ボタンの設定状態を記憶するラストファンクションメモリー機能を備えています。電源をONにすると、電源をOFFにする直前の入出力状態が呼び出されますので、再度設定し直す必要はありません。
★ また、本機にはバックアップメモリー機能を備えています。これにより電源がOFFになったとき、および電源コードを抜いた場合でも各種ボタンの設定状態をバックアップして約1週間保持することができます。

16 マイコンの初期化について

★ 本体のディスプレイ表示が正常でない、または本体またはリモコンのボタンで操作できない場合は、下記の操作でマイコンの初期化をおこなってください。

1	**電源ボタンを押してスタンバイ状態にしてから、壁の電源コンセントから電源コードを抜きます。**
2	**5ch/6ch STEREOボタンとDIRECT/STEREOボタンを同時に押しながら、電源プラグをコンセントに差し込みます。**
3	**ディスプレイ表示が約1秒間隔で点滅するのを確認後、2つのボタンから指を離します。** ● マイコンが初期化されます。

ご注意

● 操作***3***の状態にならない場合は、もう一度操作***1***からやり直してください。
● マイコンの初期化をおこなった場合は、各種ボタンの設定状態がすべて工場出荷時の初期設定に戻ります。

17 保証とサービスについて

1 この商品には保証書が添付されております。
保証書は所定事項をお買い上げの販売店で記入してお渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保存してください。

2 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
万一故障した場合には、保証書の記載内容により、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口が修理を申し受けます。
但し、保証期間内でも保証書が添付されない場合は、有料修理となりますので、ご注意ください。
詳しくは、保証書をご覧ください。

※ 修理相談窓口については、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

3 保証期間後の修理については、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4 本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

5 保証および修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
※ 当社製品のお問い合わせについては、お客様相談窓口にご連絡ください。
詳しくは、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

18 故障かな？と思ったら

故障？と思っても、もう一度確かめてみましょう

■各接続は正しいですか
■取扱説明書に従って正しく操作していますか
■スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、電源を切り、電源プラグを電源コンセントから抜きとり、お買い上げの販売店にご相談ください。
もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談窓口またはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

現　　象	原　　因	処　　置	関連ページ
電源を入れても、ディスプレイが点灯せず音も出ない。	●電源コードの差し込みが不完全である。	●本体および電源コンセントへの、電源プラグの差し込みを点検してください。	18
ディスプレイは点灯するが、音が出ない。	●スピーカーコード接続が不完全である。 ●入力ソース（ファンクション）の位置が不適当である。 ●主音量調節つまみが絞ってある。 ●ミューティングがかかっている。 ●デジタル信号が入力されていない。	●しっかり接続してください。 ●正しい位置に切り替えてください。 ●適当な位置まで回してください。 ●ミューティングを解除してください。 ●デジタル信号の入力ソースを正しく選択してください。	23 40 41 61 40
モニターが映らない。	●本機の映像出力端子とモニターの入力端子の接続が不完全である。 ●モニターTVの入力設定が違う。	●接続が正しいか確認してください。 ●TVの入力切り替えを映像入力を接続した端子に設定してください。	19～21 19～21
システムセットアップ画面が出ない。	●ヘッドホンを使用している。 ●ミュートがかかっている。 ●モニターTVと本機が接続されていない。	●ヘッドホン端子からプラグを抜いてください。 ●ミュートを解除してください。 ●モニターTVを接続してください。	ー 61 19～21
dts音声が出ない。	●DVDプレーヤーの音声出力設定がビットストリームになっていない。 ●DVDプレーヤーがdts対応になっていない。 ●本機の入力設定がアナログになっている。	●DVDプレーヤーの初期設定をしてください。 ●dts対応のプレーヤーを使用してください。 ●AUTOまたはdtsに設定してください。	ー ー 40
DVDからVCRにダビングできない。	●ほとんどの映画ソフトにはコピー防止信号が入っています。	●コピーはできません。	ー
サブウーハーが鳴らない。	●サブウーハーの電源が入っていない。 ●サブウーハー初期設定が NO になっている。 ●サブウーハーの出力が接続されていない。	●電源を入れてください。 ●設定をYESにしてください。 ●正しく接続してください。	ー 31 24
テストトーンが出ない。	●サラウンドモードがドルビーサラウンド以外のモードになっている。	●ドルビーサラウンドにしてください。	44
リモコンを操作しても正常に動作しない。	●乾電池が消耗している。 ●リモコンの距離が離れ過ぎている。 ●本体とリモコンの間に障害物がある。 ●操作したいボタン以外のボタンを押している。 ●乾電池の⊕、⊖が正しくセットされていない。	●新しい乾電池と交換してください。 ●近づいて操作してください。 ●障害物を取り除いてください。 ●操作したいボタンを押してください。 ●乾電池を正しくセットしてください。	9 9 9 ー 9
AACのLEDが点灯しない。	●BSデジタルチューナーと本機がアナログ接続になっている。	●デジタル接続にしてください。	18

故障かな？と思ったら（つづき）

現　　象	原　　因	処　　置	関連ページ
FM放送に“ ザー ”という雑音が入る。	● アンテナケーブルが正しく接続されていますか。	● アンテナケーブルを正しく接続してください。 ● 屋外アンテナを接続してください。	24、25 25
AM放送に“ シー ”や“ ザー ”という雑音が入る。	● テレビなどから雑音が入っていませんか。または、放送局の干渉音が聞こえませんか。	● テレビを消してください。 ● AM用ループアンテナの位置や向きを変えてください。	ー 24
AM放送に“ ブーン ”という雑音（ハム）が入る。	● 電源コードを伝わってくる電波が電源周波数によって変調を受けていませんか。	● 電源プラグの方向を逆に差し込んでみてください。	ー

19 主な仕様

■オーディオ部

●パワーアンプ部

定格出力	フロント： 75W＋ 75W（負荷6Ω、1kHz）T.H.D 0.7%
	100W＋100W（負荷6Ω、EIAJ）
	センター： 75W（負荷6Ω、1kHz）T.H.D 0.7%
	100W（負荷6Ω、EIAJ）
	サラウンド： 75W＋ 75W（負荷6Ω、1kHz）T.H.D 0.7%
	100W＋100W（負荷6Ω、EIAJ）
	サラウンドバック： 75W（負荷6Ω、1kHz）T.H.D 0.7%
	100W（負荷6Ω、EIAJ）
	フロント・センター・サラウンド・サラウンドバック 6〜16Ω

●アナログ部

入力感度	200mV/47kΩ
周波数特性	10Hz〜60kHz：＋1、－3dB（EXTERNAL IN）
S/N比	95dB（JIS-A）（DIGITAL IN）
定格出力	1.1V（サブウーハープリアウト 30Hz）

●チューナー部

受信周波数帯域	FM：76.0MHz〜108MHz AM:522kHz〜1629kHz
実用感度	FM：12μV/75Ω（12.8dBf） AM:18μV
FMステレオ分離度	40dB(1kHz)
FM SN比	モノラル：74dB ステレオ：65dB
FM高調波歪率	モノラル：0.3% ステレオ：0.4%

■ビデオ部

●標準映像端子

入出力レベル/インピーダンス	1Vp-p/75Ω
周波数特性	5Hz〜10MHz：＋1、－3dB

●S映像端子

入出力レベル/インピーダンス	Y（輝度）信号：1Vp-p/75Ω
	C（色）信号： 0.286Vp-p/75Ω
周波数特性	Y（輝度）信号：5Hz〜10MHz：＋1、－3dB
	C（色）信号： 10Hz〜10MHz：＋1、－3dB

●コンポーネント映像端子

入出力レベル/インピーダンス	Y（輝度）信号：1Vp-p/75Ω
	PB/CB（青色）信号：0.7Vp-p/75Ω
	PR/CR（赤色）信号：0.7Vp-p/75Ω
周波数特性	5Hz〜30MHz：＋1、－3dB

■タイマー部

タイマー	スリープタイマー：最大60分

■総合

電源	AC100V 50/60Hz
消費電力	電源入り（ON）時：105W（電気用品安全法による）
	待機（スタンバイ）時：1W未満
最大外形寸法	434（幅）×65（高さ）×331（奥行き）mm
	（フット・つまみ・端子を含む）
質量	4.8kg

■リモコン（RC-965）

乾電池	R6P（単3形）乾電池2本使用
外形寸法	55（幅）×225（高さ）×34.5（奥行き）mm
質量	165g（乾電池を含む）

※（EIAJ）：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。
※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。必ずAC100Vのコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC100V以外の電源には絶対に接続しないでください。

株式会社デノンコンシューマー マーケティング

本　　社　　〒104-0033 東京都中央区新川1-21-2
茅場町タワー　14F

お客様相談センター　TEL：（03）6731-5555
受付時間　9：30〜12：00、12：45〜17：30
（弊社休日および祝日を除く、月〜金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の URL でもご確認できます。

http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。

購 入 店 名：	電 話（　　-　　-　　）
ご購入年月日：	年　　月　　日

Printed in China　00D 511 4201 101